

# 第 3 章

## 介護予防に関する調査

### < 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	65歳以上の二次予防事業の候補者・決定者となっている区民(平成22年11月1日現在)
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)
調査期間	平成22年11月22日～12月15日
対象者数 及び 回収率	対象者数 : 1,000 有効回収数 : 803 有効回収率 : 80.3%



# 1. 基本的属性

## (1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

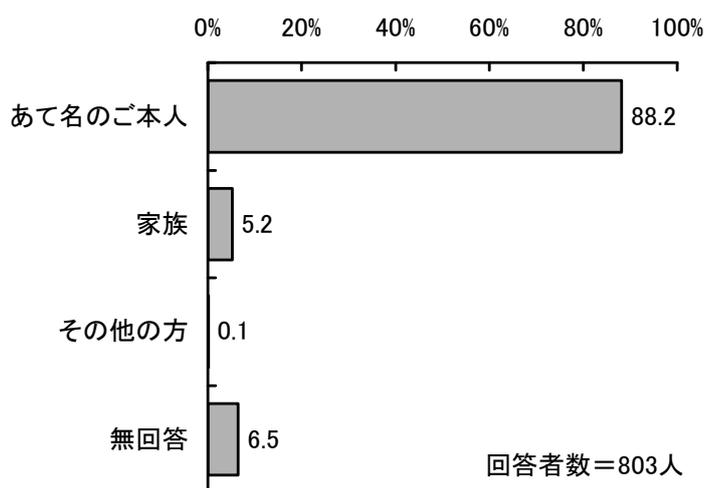
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」88.2%、「家族」5.2%などとなっている。

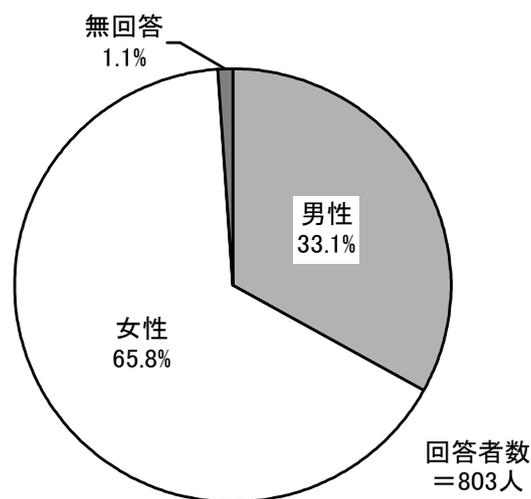
性別は「男性」33.1%に対して、「女性」65.8%と、「女性」が「男性」の約2倍となっている。

年齢は、「75～79歳」が31.0%ともっとも高く、「70～74歳」22.9%、「80～84歳」17.9%と続いており、平均年齢は76.8歳であった。

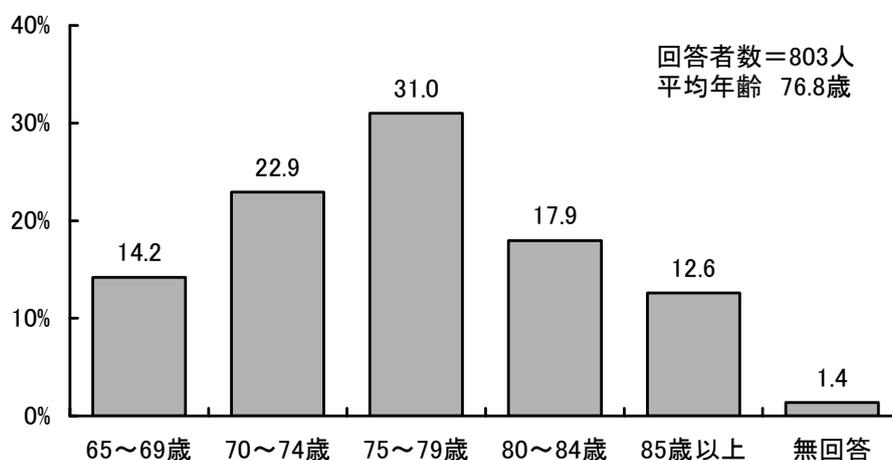
図表3-1 調査回答者(単数回答)



図表3-2 性別(単数回答)



図表3-3 年齢(単数回答)

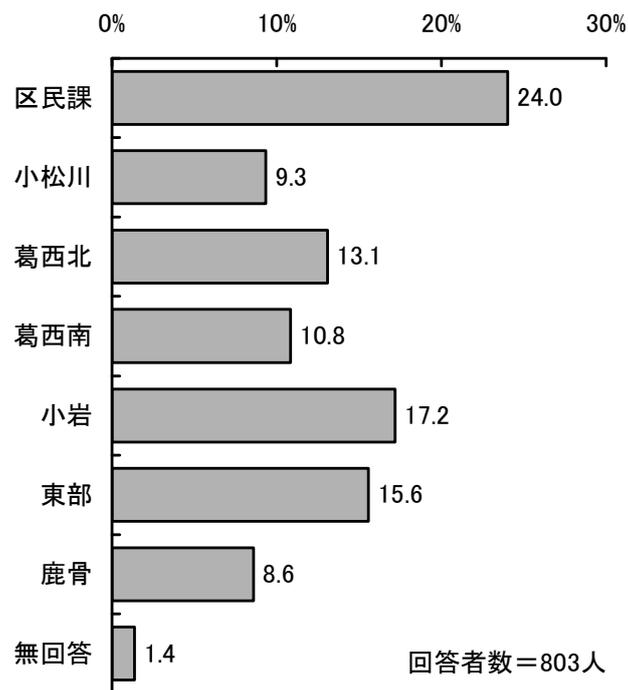


## (2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」24.0%、「小岩」17.2%、「東部」15.6%などとなっている。

図表3-4 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

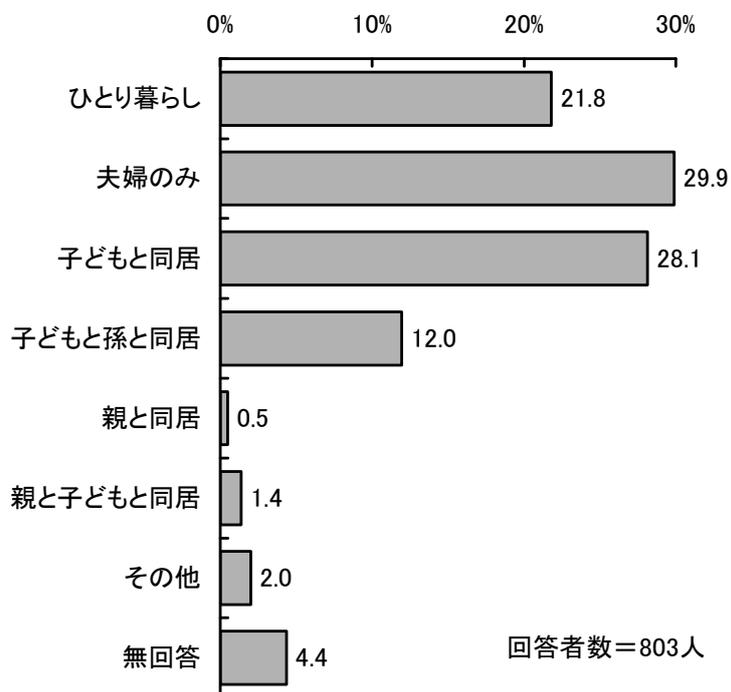


### (3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)  
【比較調査 240 参照】

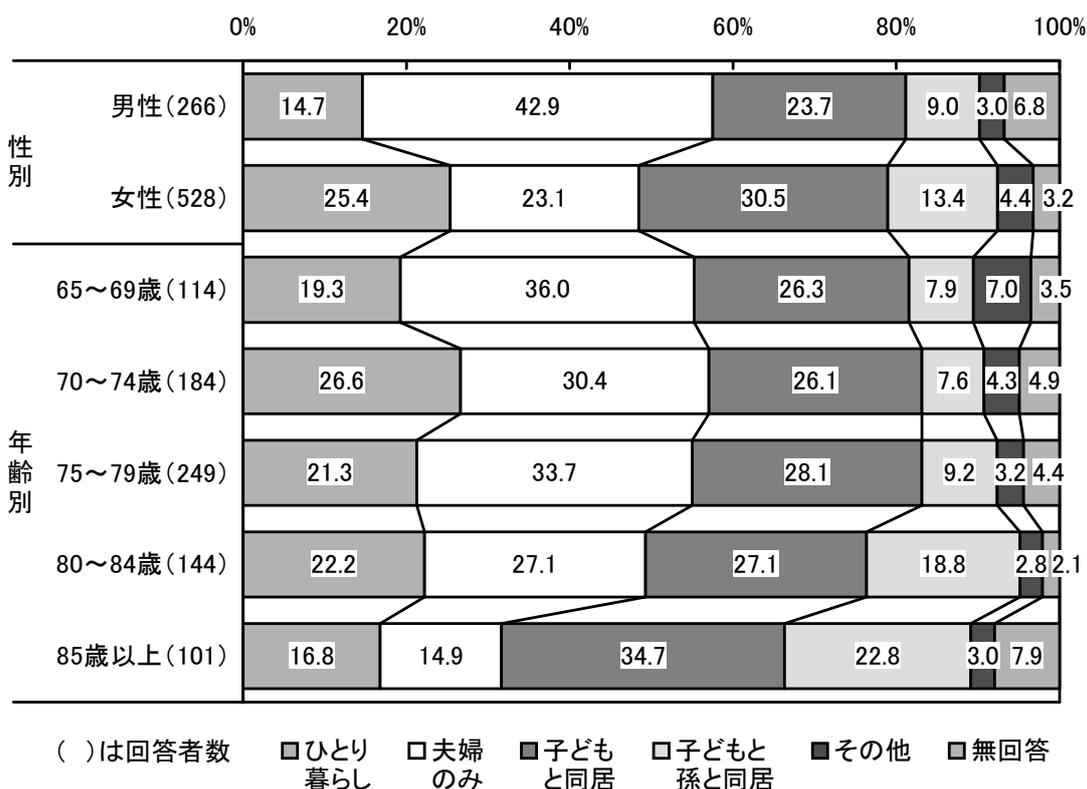
世帯構成は、「夫婦のみ」29.9%、「子どもと同居」28.1%に次いで、「ひとり暮らし」21.8%と続いている。

図表3-5 世帯構成(単数回答)



性別にみると、「ひとり暮らし」は男性で14.7%、女性では25.4%となっている。  
 年齢別にみると、79歳までの年齢層では「夫婦のみ」がもっとも高い。85歳以上では「子どもと同居」34.7%、「子どもと孫と同居」22.8%の順となっている。

図表3-6 世帯構成



※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

#### (4) 日中独居の状況

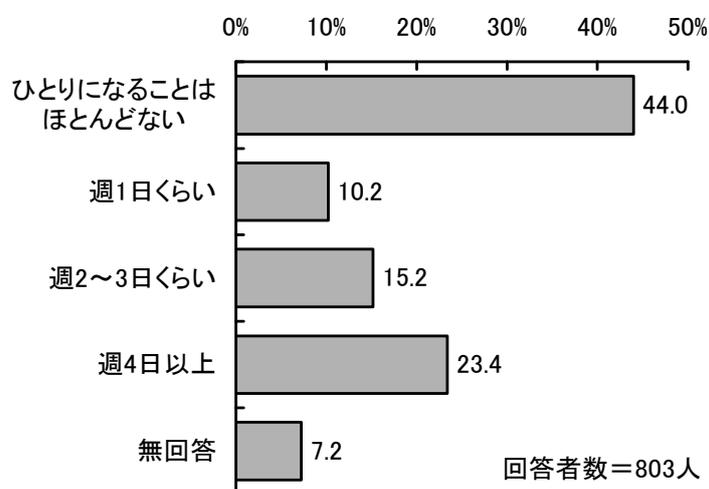
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

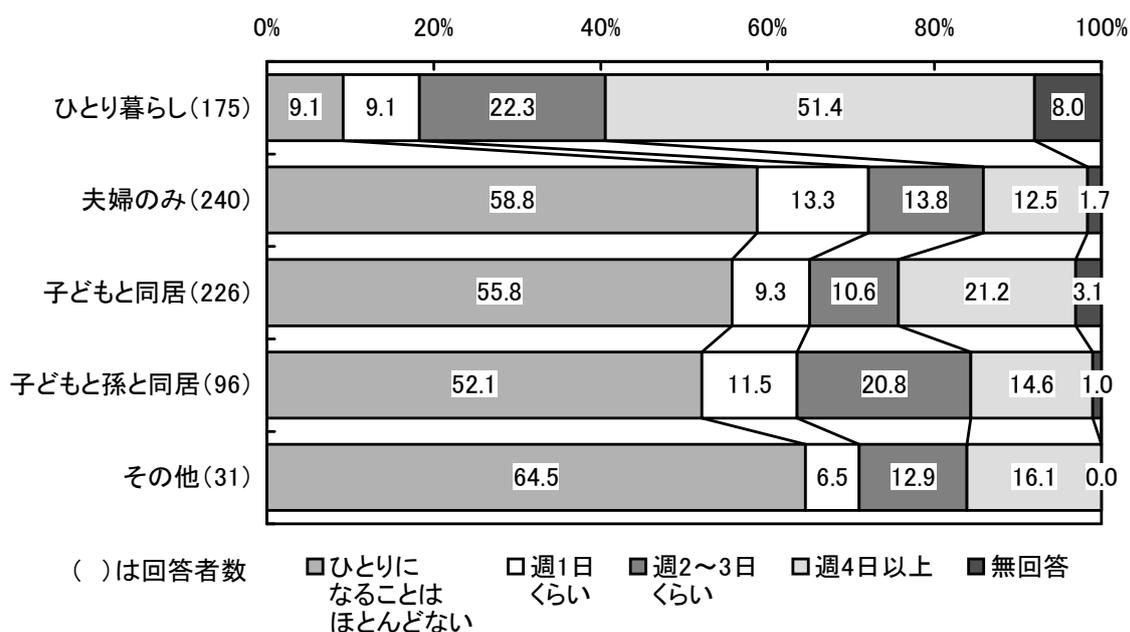
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」は44.0%であり、23.4%が「週4日以上」ひとりでいると回答している。

世帯構成別にみると、夫婦のみや子どもや孫との同居世帯の人では「ひとりになることはほとんどない」が5割を超える。「週4日以上」の割合は、ひとり暮らしの人が51.4%、子どもと同居の人で21.2%となっている。

図表3-7 日中独居の状況(単数回答)



図表3-8 日中独居の状況



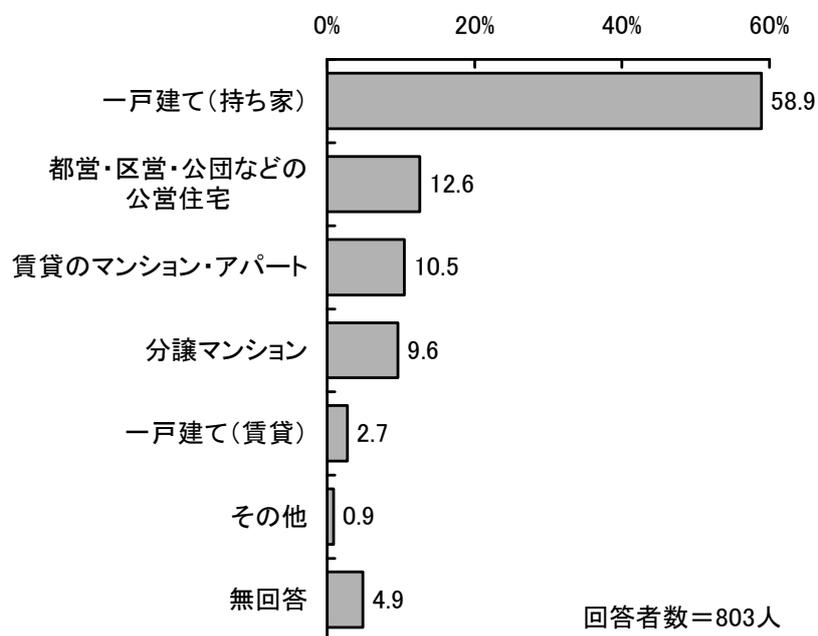
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

## (5)住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」58.9%に次いで、「都営・区営・公団などの公営住宅」12.6%、「賃貸のマンション・アパート」10.5%、「分譲マンション」9.6%などとなっている。

図表3-9 住居の形態(単数回答)



## (6) 居住階数、エレベーターの有無

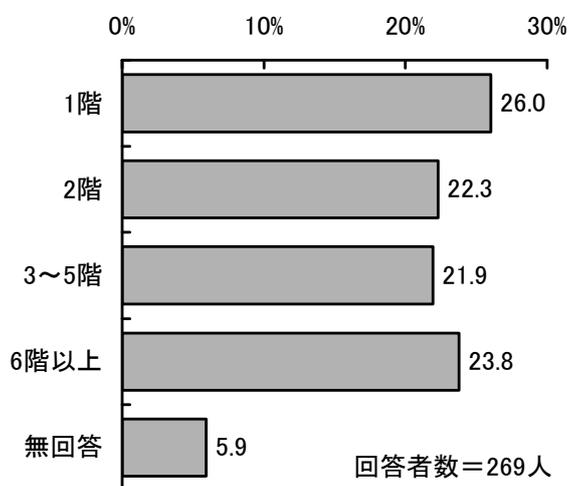
マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3~6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

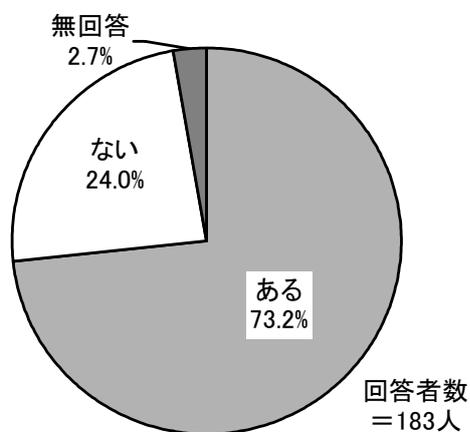
マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「1階」26.0%、「6階以上」23.8%、「2階」22.3%であり、1~2階居住者が48.3%と半数近い。

2階以上に居住している場合のエレベーターの有無は、「ある」が73.2%を占める。

図表3-10 居住階数(単数回答)



図表3-11 エレベーターの有無(単数回答)



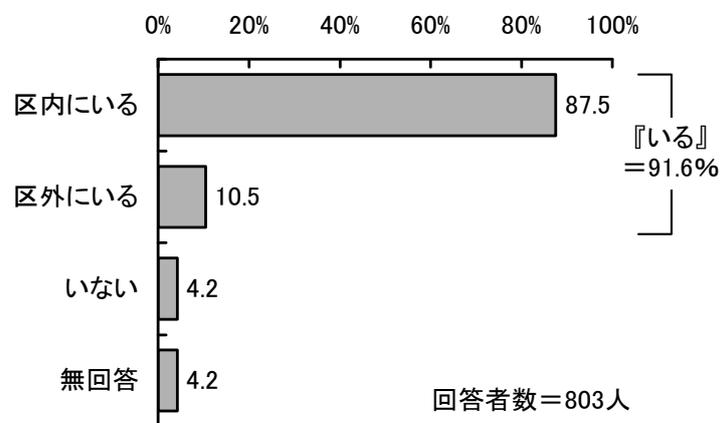
## 2. 健康について

### (1) かかりつけ医の有無

問7 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 242 参照】

かかりつけ医の有無をみると、「区内にいる」87.5%、「区外にいる」10.5%であり、91.6%が『いる』と回答している。

図表3-12 かかりつけ医の有無(複数回答)



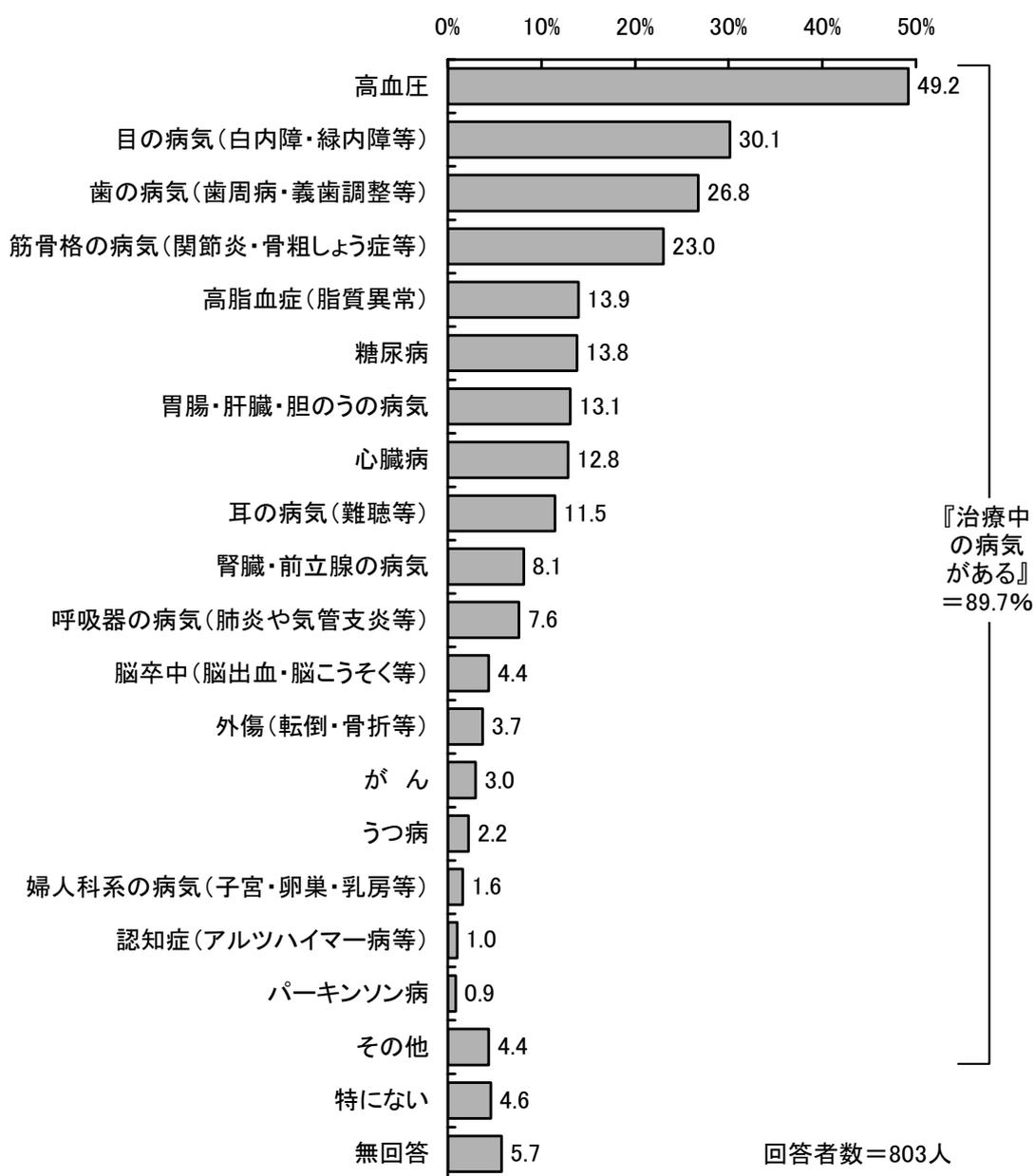
※『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

## (2) 現在治療中の病気

問 8 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気は、「高血圧」49.2%がもっとも高く、次いで「目の病気（白内障・緑内障等）」30.1%、「歯の病気（歯周病・義歯調整等）」26.8%、「筋骨格の病気（関節炎・骨粗しょう症等）」23.0%の順となっている。

図表3-13 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

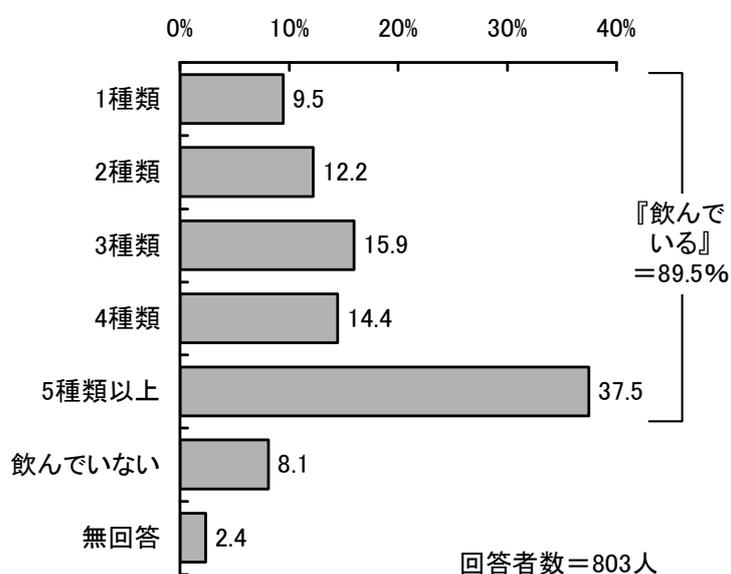
### (3) 飲んでいる薬の種類

問9 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類は、「5種類以上」37.5%がもっとも高く、次いで「3種類」15.9%、「4種類」14.4%と続く。「飲んでいない」は8.1%であり、約9割が薬を『飲んでいる』と回答している。

図表3-14 飲んでいる薬の種類(単数回答)



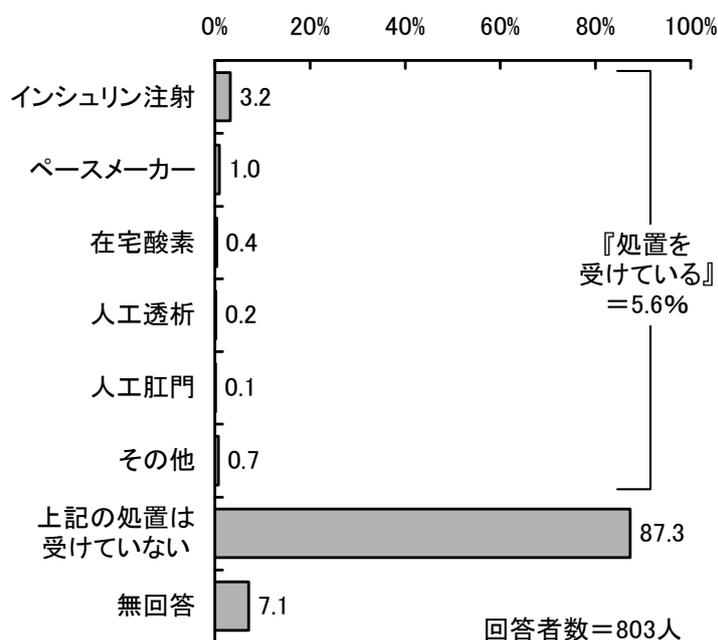
※『飲んでいる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」 + 「5種類以上」

#### (4) 医療処置の状況

問 10 あなた(あて名のご本人)は、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

医療処置の状況を見ると、『処置を受けている』人の割合は 5.6%となっている。具体的には、「インシュリン注射」が 3.2%、「ペースメーカー」が 1.0%などとなっている。

図表3-15 医療処置の状況(複数回答)



※『処置を受けている』 = 100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

### 3. 介護予防について

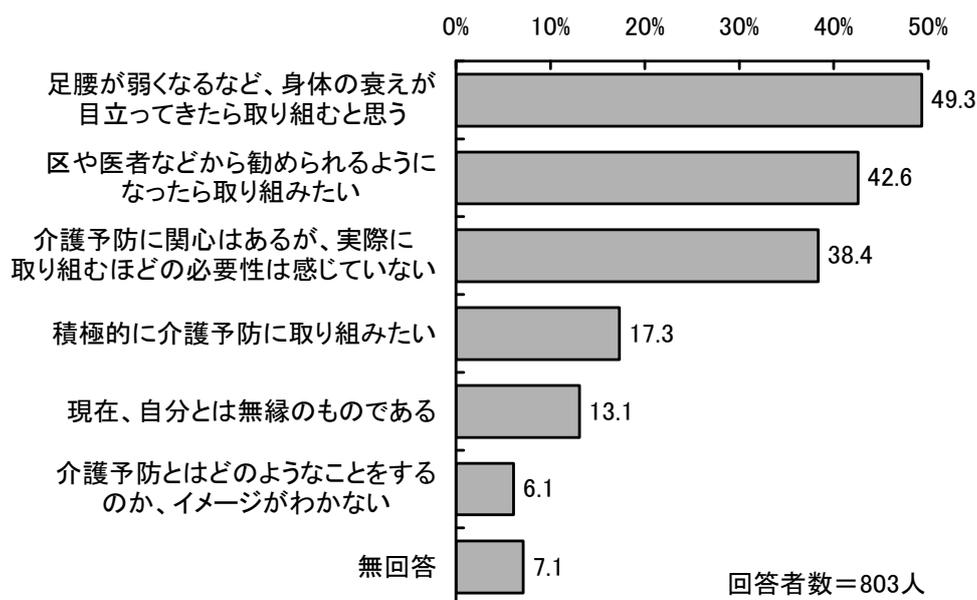
#### (1) 介護予防の印象

問 18 あなた(あて名のご本人)は、介護予防に対し、どのような印象をお持ちですか。

(あてはまるものすべてに○)

介護予防の印象としては、「足腰が弱くなるなど、身体の衰えが目立ってきたら取り組むと思う」49.3%、「区や医者などから勧められるようになったら取り組みたい」42.6%がそれぞれ4割を超えている。次いで、「介護予防に関心はあるが、実際に取り組むほどの必要性は感じていない」38.4%、「積極的に介護予防に取り組みたい」17.3%、「現在、自分とは無縁のものである」13.1%と続く。「介護予防とはどのようなことをするのか、イメージがわからない」は6.1%であった。

図表3-16 介護予防の印象(複数回答)



## (2) 介護予防相談の状況、相談に行かなかった理由

問 19 あなた(あて名のご本人)は、健康診査等の結果、地域包括支援センターで介護予防相談をするように勧められたと思いますが、介護予防相談に行きましたか。

(1つに○)

介護予防相談に行っていない方(問 19 で 2 に○)におうかがいします。

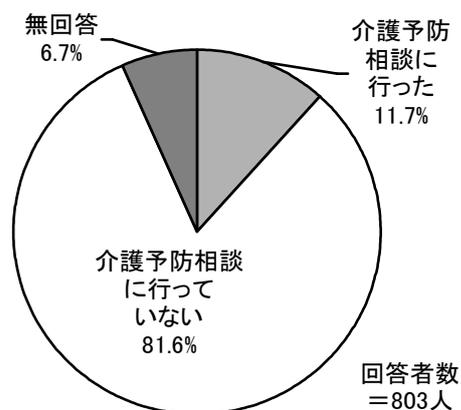
問 19-1 あなた(あて名のご本人)が、介護予防相談に行かなかったのは、なぜですか。

(1つに○)

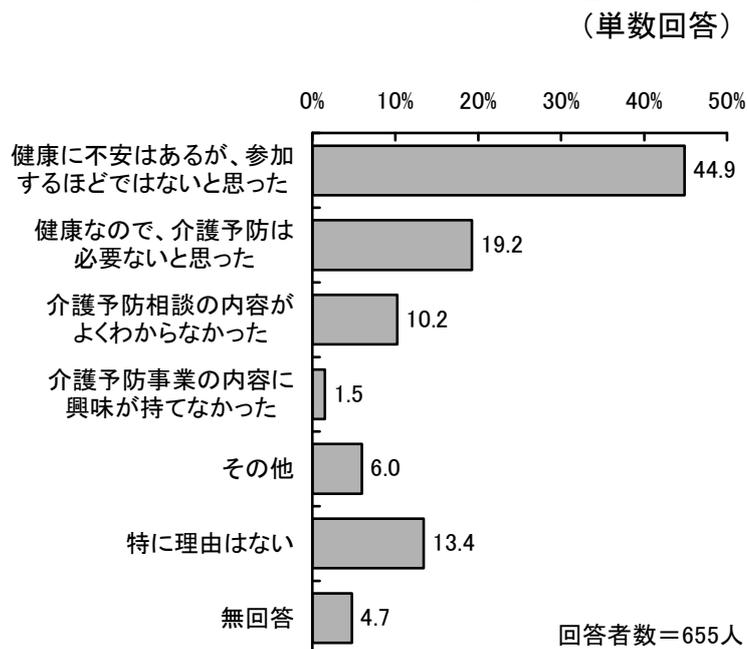
介護予防相談の状況をみると、「介護予防相談に行った」11.7%、「介護予防相談に行っていない」81.6%となっている。

相談に行かなかった理由は、「健康に不安はあるが、参加するほどではないと思った」44.9%がもっとも高く、次いで「健康なので、介護予防は必要ないと思った」19.2%、「介護予防相談の内容がよくわからなかった」10.2%となっている。

図表3-17 介護予防相談の状況(単数回答)

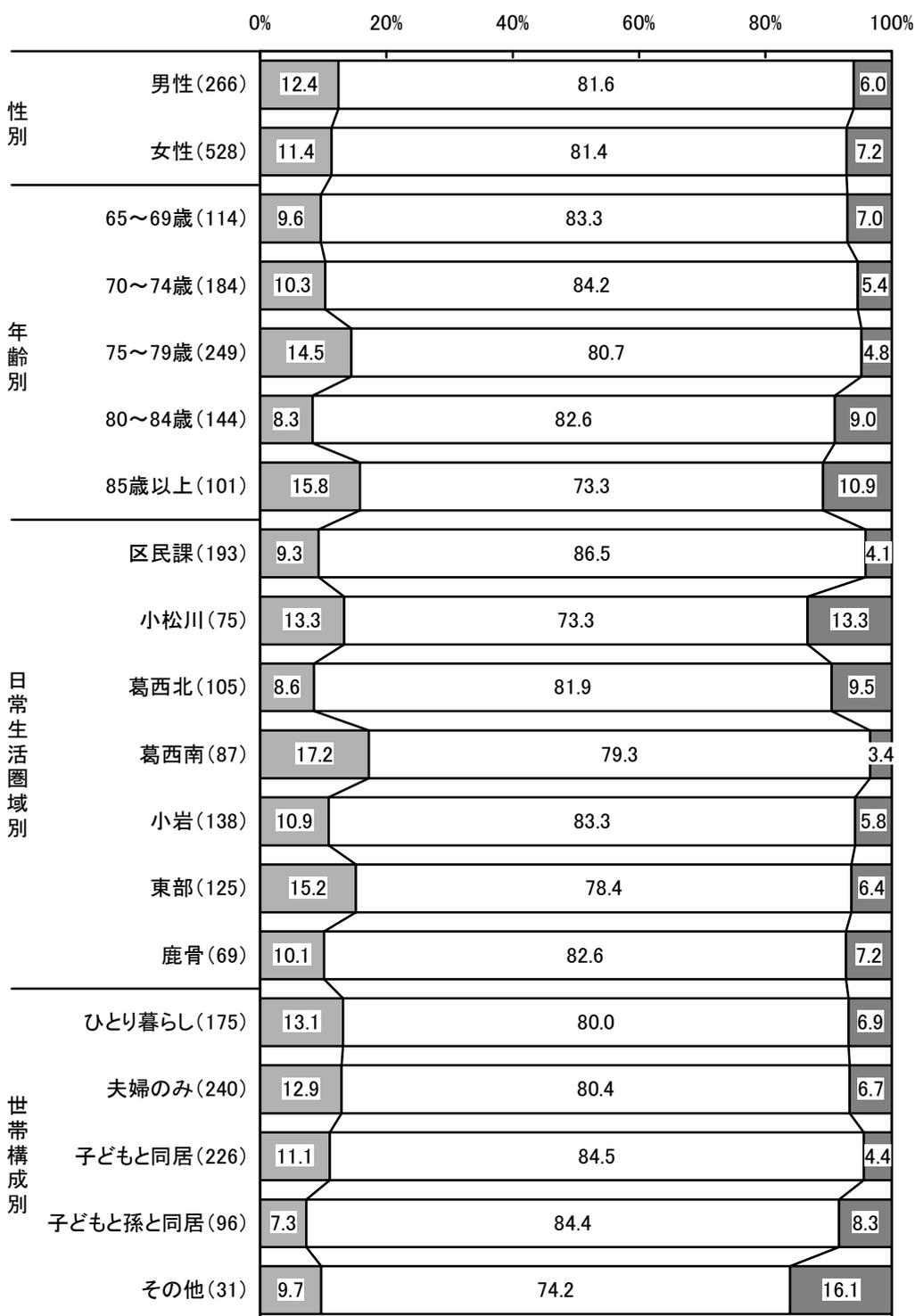


図表3-18 相談に行かなかった理由(単数回答)



「介護予防相談に行った」割合に着目すると、年齢別では75～79歳、85歳以上、日常生活圏域別では小松川、葛西南、東部、世帯構成別ではひとり暮らし、夫婦のみの人において、それぞれ他に比べて高くなっている。

図表3-19 介護予防相談の状況



( )は回答者数

■ 介護予防相談  
に行った

□ 介護予防相談  
に行っていない

■ 無回答

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

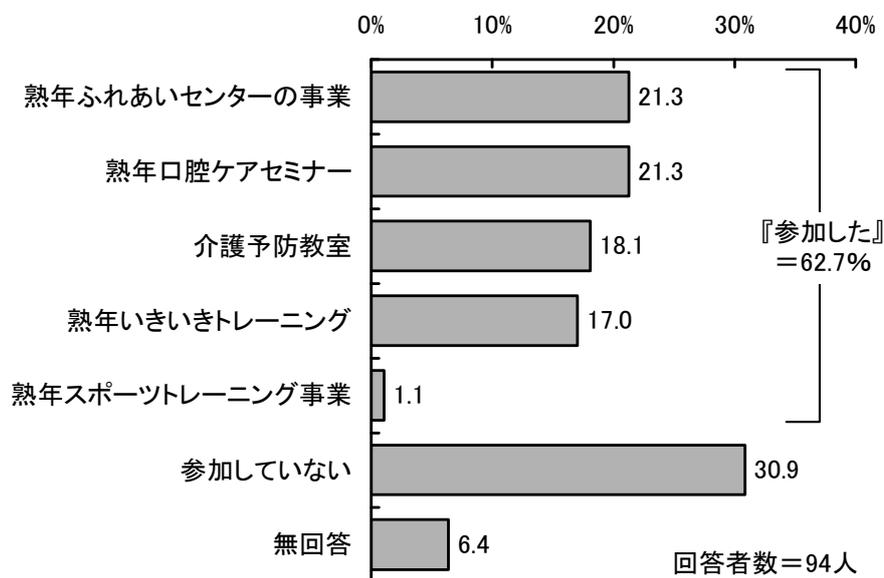
### (3) 介護予防事業の参加状況

介護予防相談に行った方(問 19 で 1 に○)におうかがいします。

問 20 江戸川区では、介護予防のために以下の事業を行っています。どの事業に参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防相談に行った人の介護予防事業の参加状況をみると、『参加した』人の割合は 62.7%となっている。具体的には、「熟年ふれあいセンターの事業」「熟年口腔ケアセミナー」が各 21.3%、「介護予防教室」18.1%、「熟年いきいきトレーニング」17.0%、「熟年スポーツトレーニング事業」1.1%となっている。

図表3-20 介護予防事業の参加状況(複数回答)



※『参加した』 = 100% - 「参加していない」 - 「無回答」

#### (4) 介護予防事業に参加してよかったこと

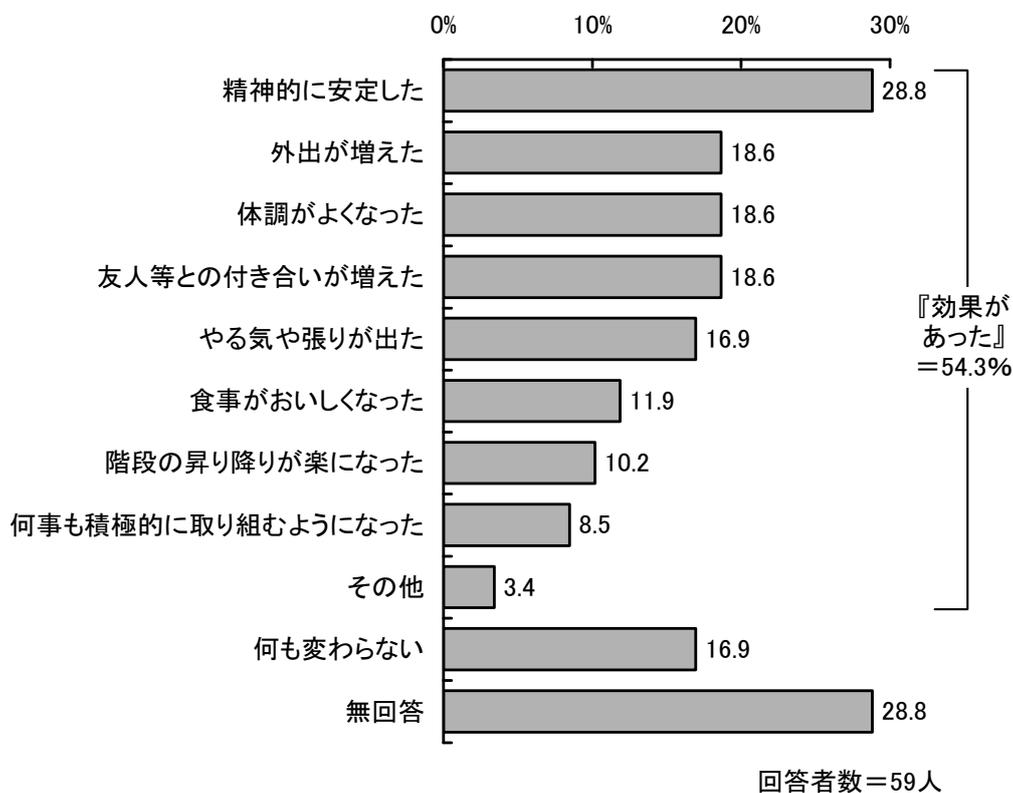
介護予防事業に参加した方(問 20 で 1~5 に○)におうかがいします。

問 20-1 参加した結果、心身の状態でよくなったと感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

介護予防事業に参加した人に、参加してよかったことをたずねたところ、54.3%と過半数が『効果があった』と回答している。具体的には、「精神的に安定した」28.8%がもっとも高く、次いで「外出が増えた」「体調がよくなった」「友人等との付き合いが増えた」が各 18.6%で続いている。

図表3-21 介護予防事業に参加してよかったこと(複数回答)



※『効果があった』=100% - 「何も変わらない」 - 「無回答」

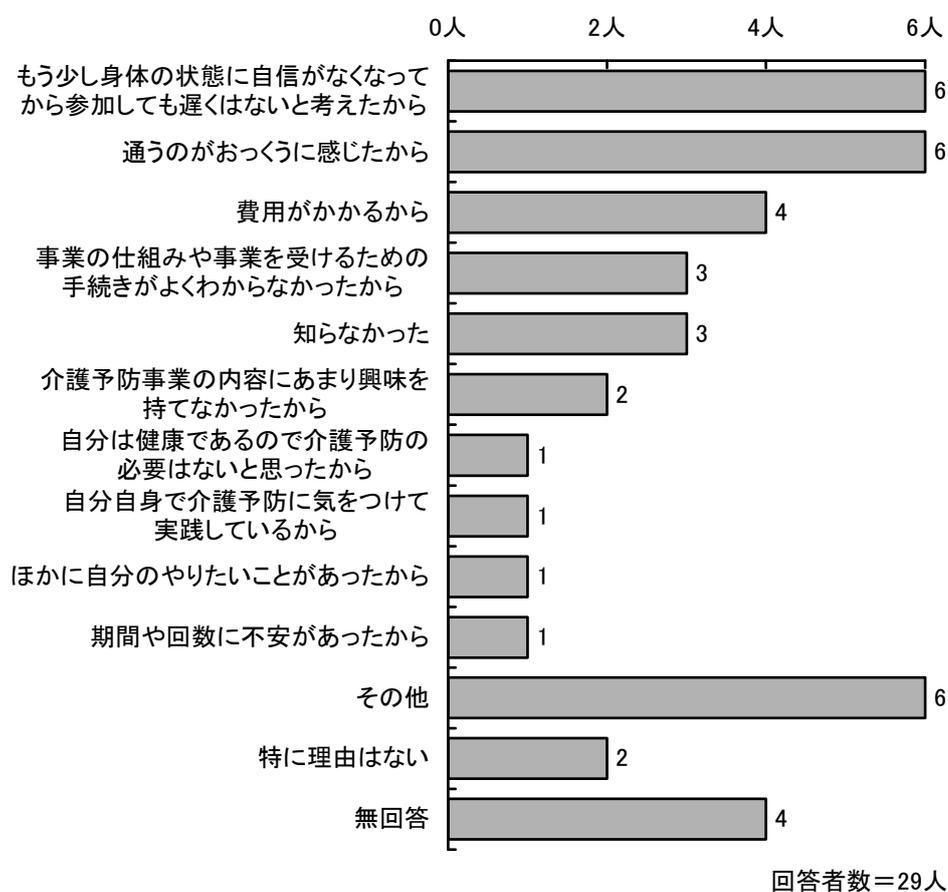
## (5) 介護予防事業に参加しなかった理由

介護予防事業に参加していない方(問 20 で 6 に○)におうかがいします。

問 20-2 介護予防事業に参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

介護予防相談に行ったが、介護予防事業に参加していない人の参加しなかった理由としては、「もう少し身体の状態に自信がなくなってから参加しても遅くはないと考えたから」「通うのがおっくうに感じたから」が各 6 人、「費用がかかるから」が 4 人であった。

図表3-22 介護予防事業に参加しなかった理由(複数回答)

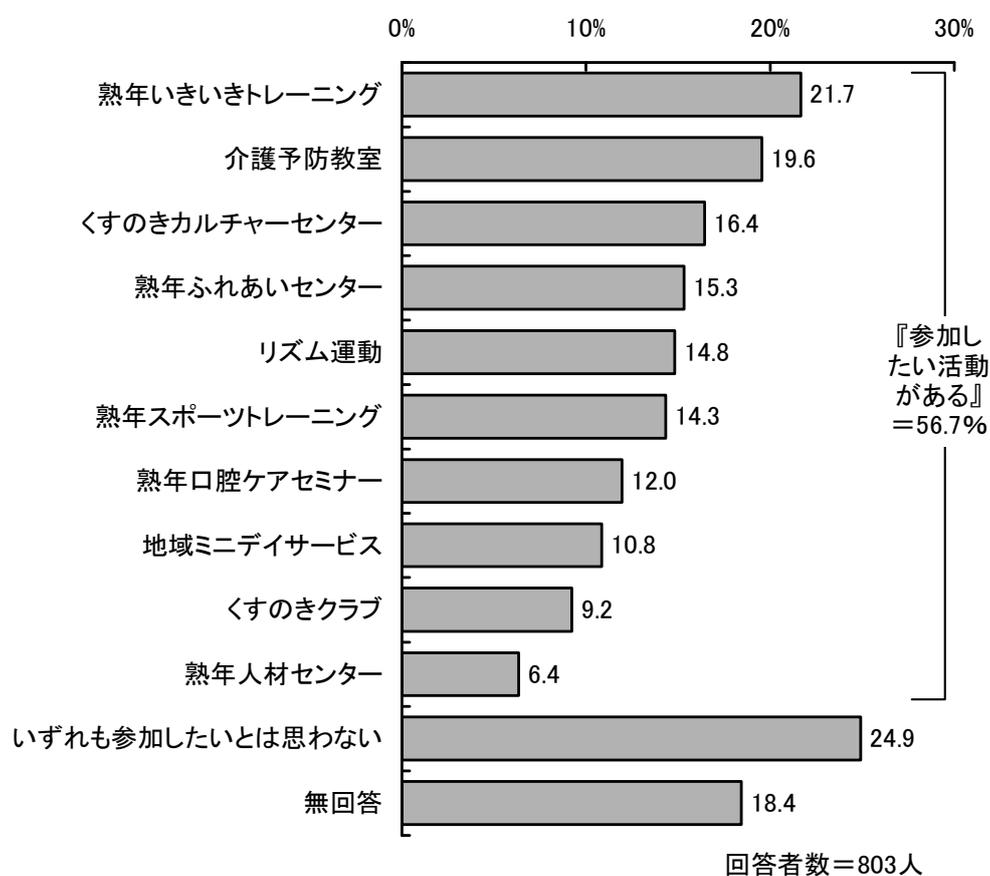


## (6) 今後取り組みたい活動

問 21 あなた(あて名のご本人)が、今後、続けたい・新たに参加したいと思う活動が、以下の中にありますか。(あてはまるものすべてに○)

今後取り組みたい活動をみると、56.7%が『参加したい活動がある』と回答している。参加したい具体的な活動としては、「熟年いきいきトレーニング」21.7%、「介護予防教室」19.6%、「くすのきカルチャーセンター」16.4%の順となっている。

図表3-23 今後取り組みたい活動(複数回答)



※『参加したい活動がある』 = 100% - 「いずれも参加したいとは思わない」 - 「無回答」

性別にみると、『参加したい活動がある』は男性 54.5%、女性 57.9%となっている。

年齢別にみると、『参加したい活動がある』は、65～69歳では6割台であるが、85歳以上では3割台になり、年齢層が高くなるほど低くなっている。

図表3-24 今後取り組みたい活動

		回答者数(人)	熟年いきいきトレーニング	介護予防教室	くすのきカルチャーセンター	熟年ふれあいセンター	リズム運動	熟年スポーツトレーニング	熟年口腔ケアセミナー	地域ミニデイサービス	くすのきクラブ	熟年人材センター	いずれも参加したいとは思わない	無回答	『参加したい活動がある』
全体		803	21.7	19.6	16.4	15.3	14.8	14.3	12.0	10.8	9.2	6.4	24.9	18.4	56.7
性別	男性	266	22.9	21.1	13.5	13.9	10.5	15.8	12.8	10.5	9.0	9.8	28.6	16.9	54.5
	女性	528	21.2	18.8	18.2	16.1	17.0	13.8	11.6	11.2	9.5	4.5	23.3	18.8	57.9
年齢別	65～69歳	114	29.8	18.4	18.4	14.0	19.3	21.1	11.4	14.0	12.3	14.0	22.8	10.5	66.7
	70～74歳	184	26.6	22.3	21.2	16.3	18.5	19.0	13.6	13.6	12.0	8.7	25.5	14.7	59.8
	75～79歳	249	22.5	22.1	17.7	16.1	13.7	12.9	14.1	8.8	6.8	5.2	20.9	19.3	59.8
	80～84歳	144	16.0	16.7	13.9	14.6	10.4	13.2	11.1	9.0	9.7	1.4	26.4	18.8	54.8
	85歳以上	101	10.9	14.9	7.9	15.8	11.9	5.0	5.9	10.9	5.9	3.0	32.7	29.7	37.6

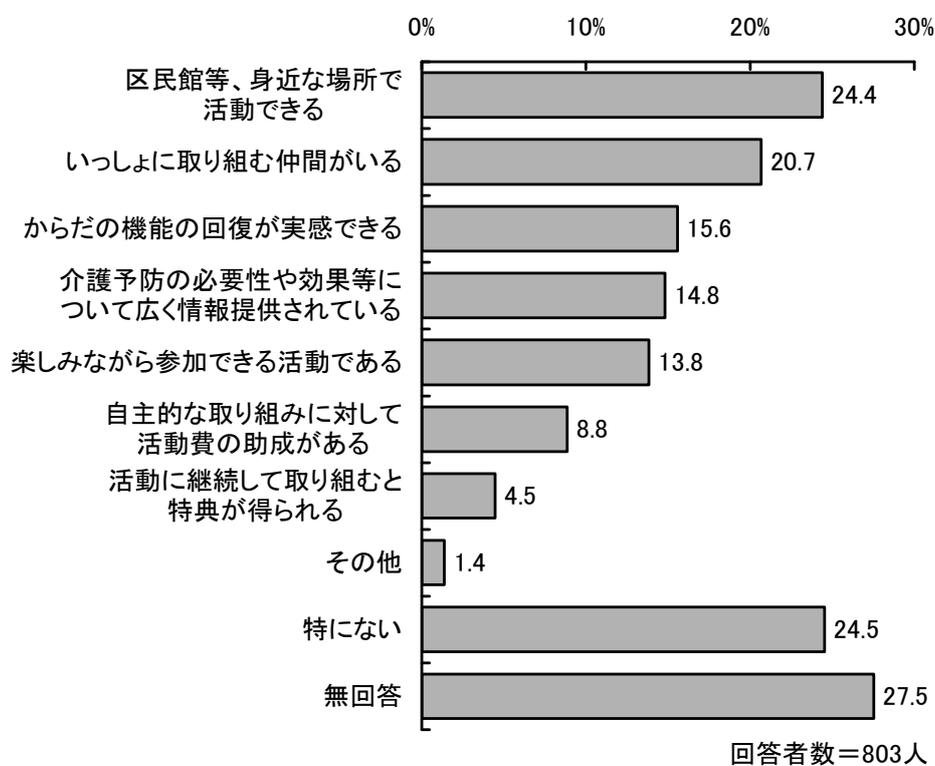
※『参加したい活動がある』=100%－「いずれも参加したいとは思わない」－「無回答」

## (7) 介護予防に取り組みやすくするための条件

問 22 介護予防に取り組みやすくするには、どのような環境・条件が必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)【比較調査 243 参照】

介護予防に取り組みやすくするための条件は、「区民館等、身近な場所で活動できる」24.4%、「いっしょに取り組む仲間がいる」20.7%に次いで、「からだの機能の回復が実感できる」15.6%、「介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている」14.8%、「楽しみながら参加できる活動である」13.8%などとなっている。

図表3-25 介護予防に取り組みやすくするための条件(複数回答)



## 4. 日常生活の状況について

### (1) 手段的日常生活動作 (IADL)・日常生活動作 (ADL) の自立度

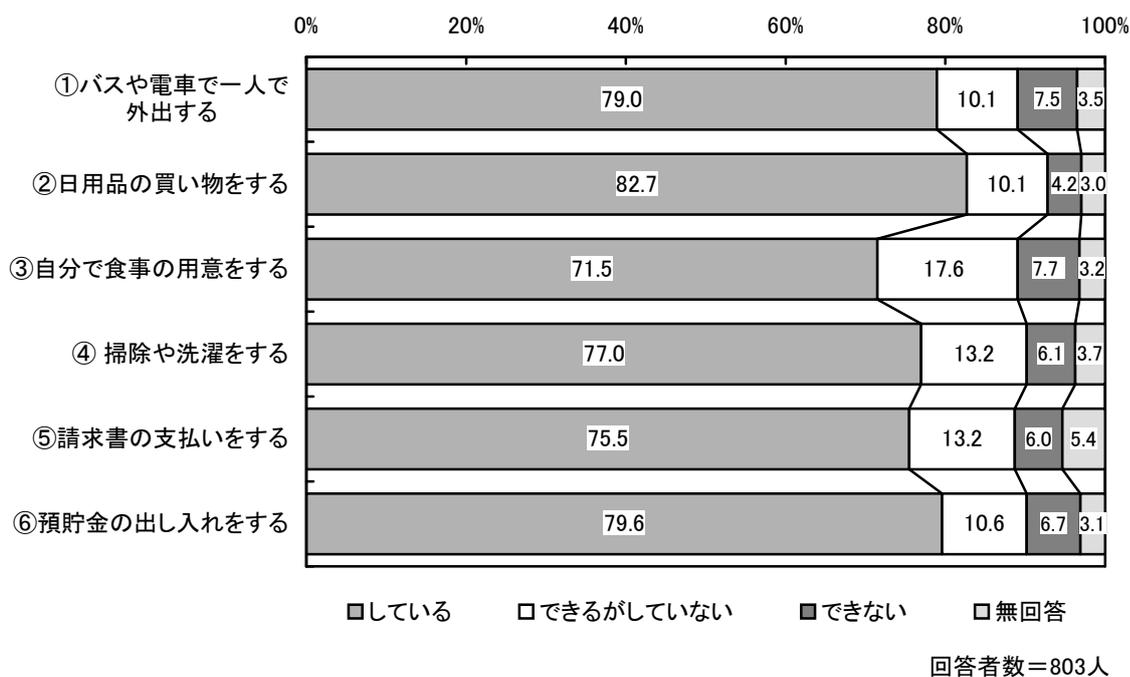
問 11 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。①～⑰について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。【比較調査 244 参照】

#### ①手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

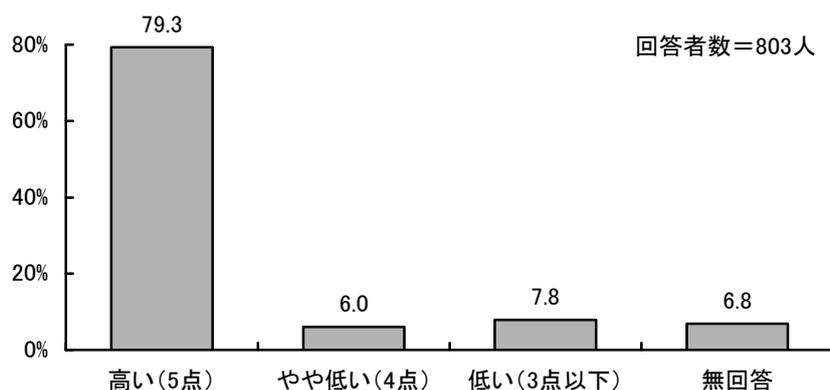
手段的日常生活動作 (IADL) の自立度をみると、「している」割合は、“②日用品の買い物をする”は8割台、その他の項目はいずれも7割台となっている。

手段的日常生活動作 (IADL) に関する①～③・⑤・⑥の項目を5点満点となるよう点数化し、集計した結果(点数化の基準については6ページ参照)をみると、自立度が「高い(5点)」が79.3%と約8割を占めており、「やや低い(4点)」6.0%、「低い(3点以下)」7.8%となっている。

図表3-26 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度 (各単数回答)



図表3-27 手段的日常生活動作 (IADL) 得点

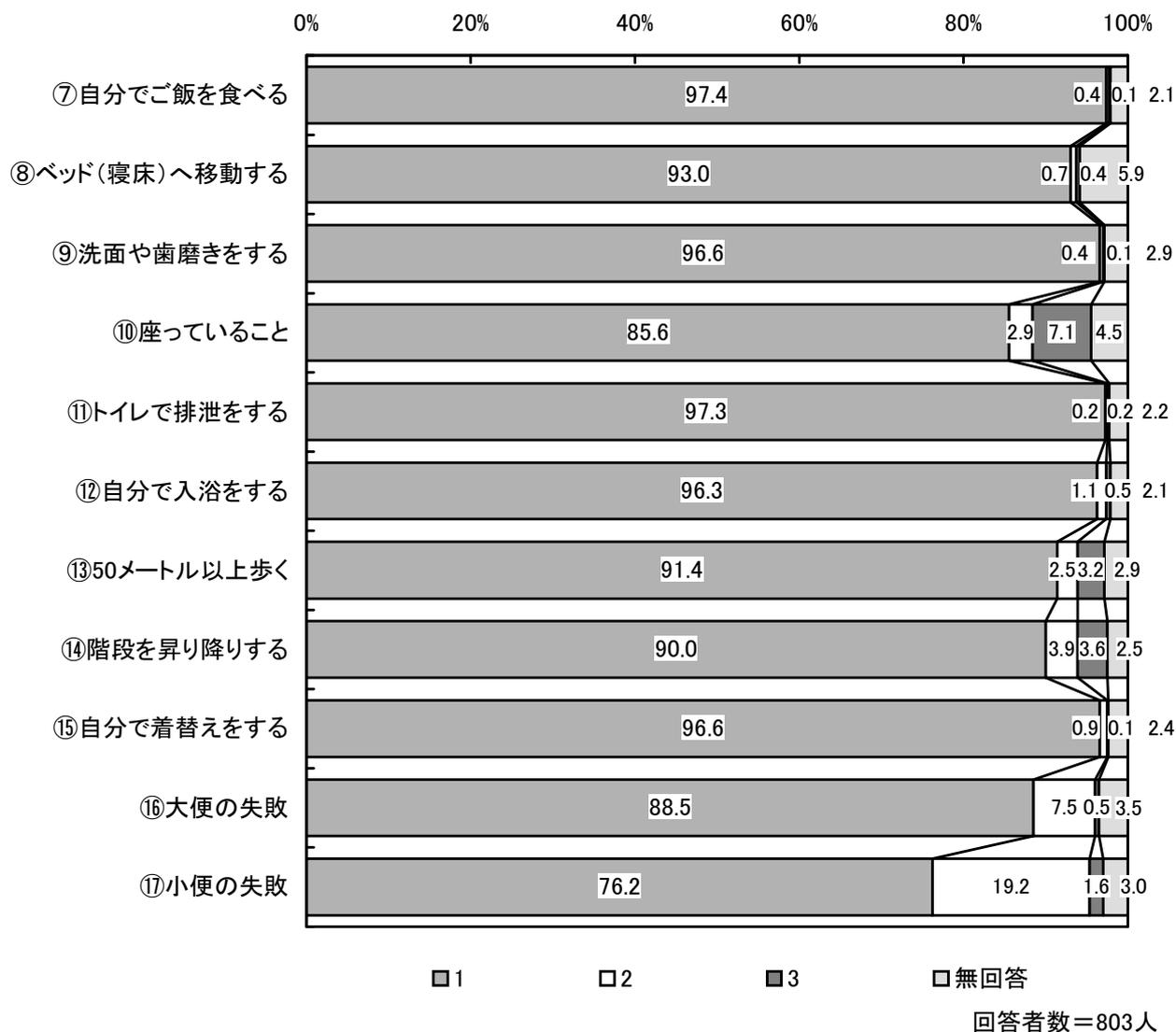


※手段的日常生活動作 (IADL) については、6ページ参照

## ②日常生活動作(ADL)の自立度

日常生活動作(ADL)の自立度をみると、⑦～⑮の各項目について「できる」割合は、“⑩座っていること”が8割台、その他の項目はいずれも9割台となっている。また、⑯・⑰について「ない」割合は、“⑯大便の失敗”が8割台、“⑰小便の失敗”が7割台となっている。

図表3-28 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



※⑦～⑨、⑪～⑮の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

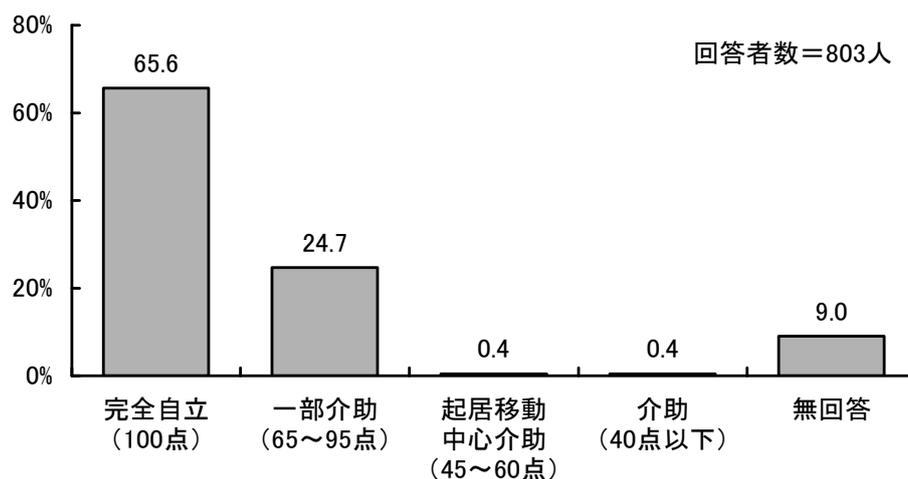
⑩の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑯・⑰の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

※日常生活動作(ADL)については、6ページ参照

日常生活動作（ADL）の自立度に関する⑦～⑰の項目を100点満点となるよう点数化し、集計した結果（点数化の基準については6ページ参照）をみると、「完全自立（100点）」が65.6%を占め、「一部介助（65～95点）」は24.7%となっている。

図表3-29 日常生活動作(ADL)得点



## (2)生活機能の状況

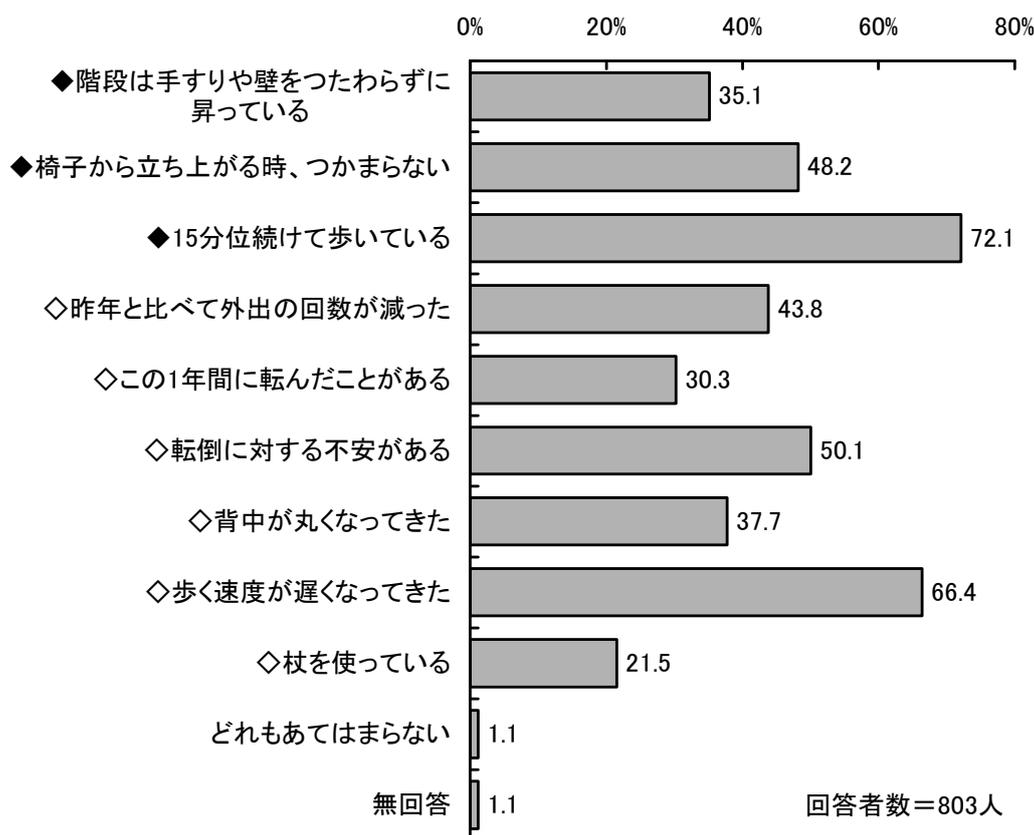
問 12 以下の①～④のすべてについて、あなた(あて名のご本人)に「あてはまる」ことに○をしてください。【比較調査 245～248 参照】

### ①運動や転倒の状況

運動や転倒の状況をみると、肯定的な内容である前半3項目のうち、「15分位続けて歩いている」は7割台である一方、「階段は手すりや壁をつたわずに登っている」は3割台と低くなっている。

一方で、否定的な内容である後半6項目のうち、「歩く速度が遅くなってきた」は6割台、「転倒に対する不安がある」は約5割、「昨年と比べて外出の回数が減った」は4割台となっている。

図表3-30 運動や転倒の状況(複数回答)



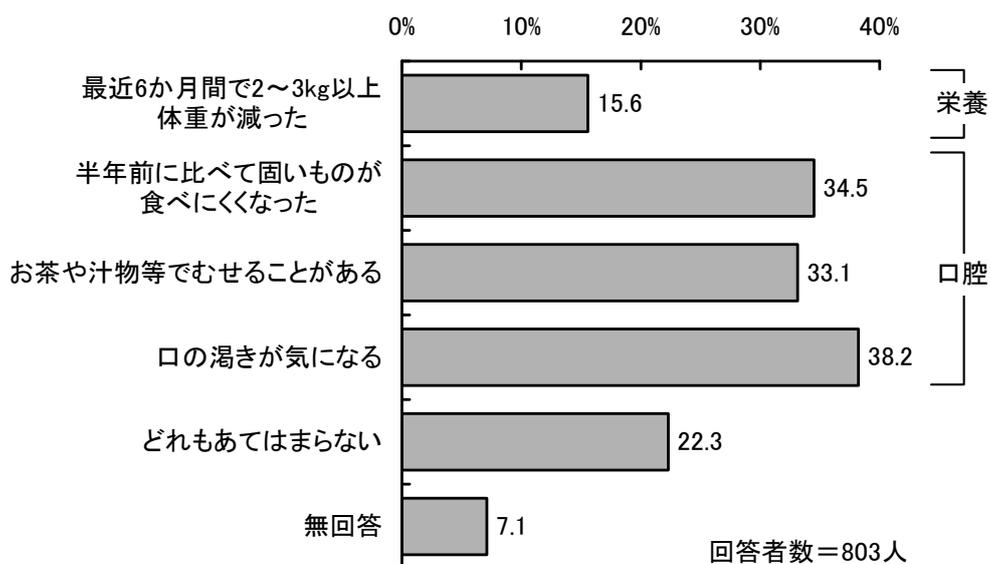
※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

## ②栄養や口腔機能の状況

栄養や口腔機能の状況を見ると、栄養に関する「最近6か月間で2~3kg以上体重が減った」は15.6%となっている。

また、口腔機能に関する「口の渇きが気になる」「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」「お茶や汁物等でむせることがある」はいずれも3割台となっている。

図表3-31 栄養や口腔機能の状況(複数回答)

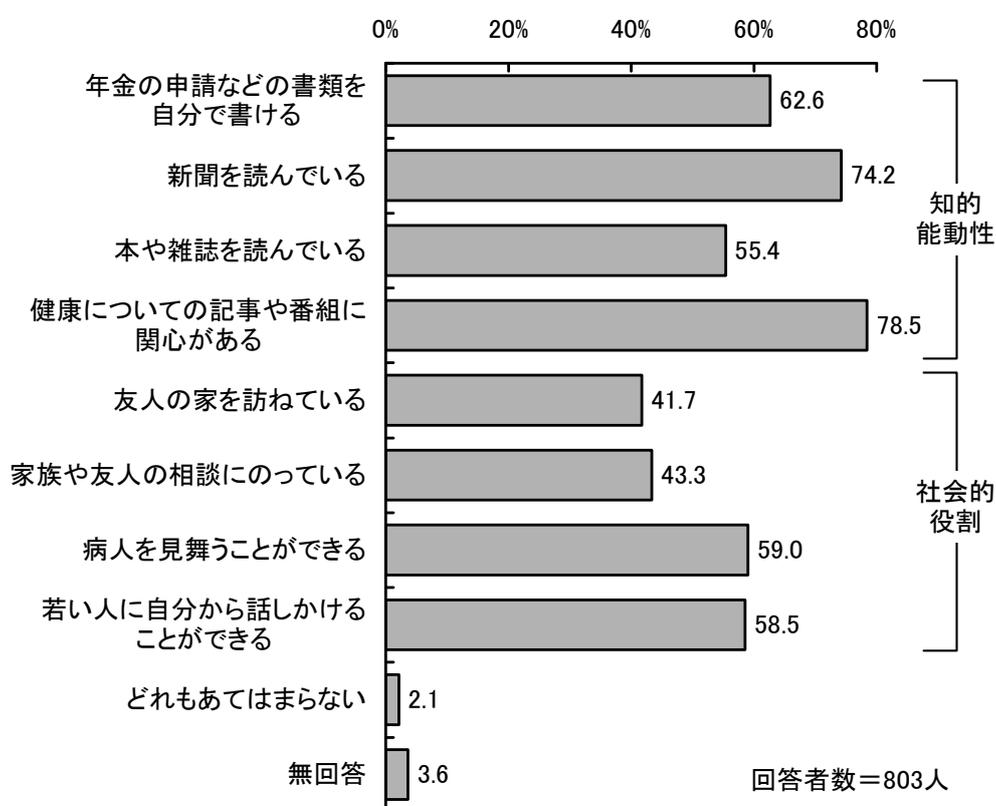


### ③社会活動の状況

前半 4 項目の知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）の状況をみると、「健康についての記事や番組に関心がある」「新聞を読んでいる」は 7 割台である一方、「年金などの書類を自分で書ける」は 6 割台、「本や雑誌を読んでいる」は 5 割台となっている。

後半 4 項目の社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）の状況をみると、「病人を見舞うことができる」「若い人に自分から話しかけることができる」は 5 割台、「家族や友人の相談にのっている」「友人の家を訪ねている」は 4 割台となっている。

図表3-32 社会活動の状況(複数回答)

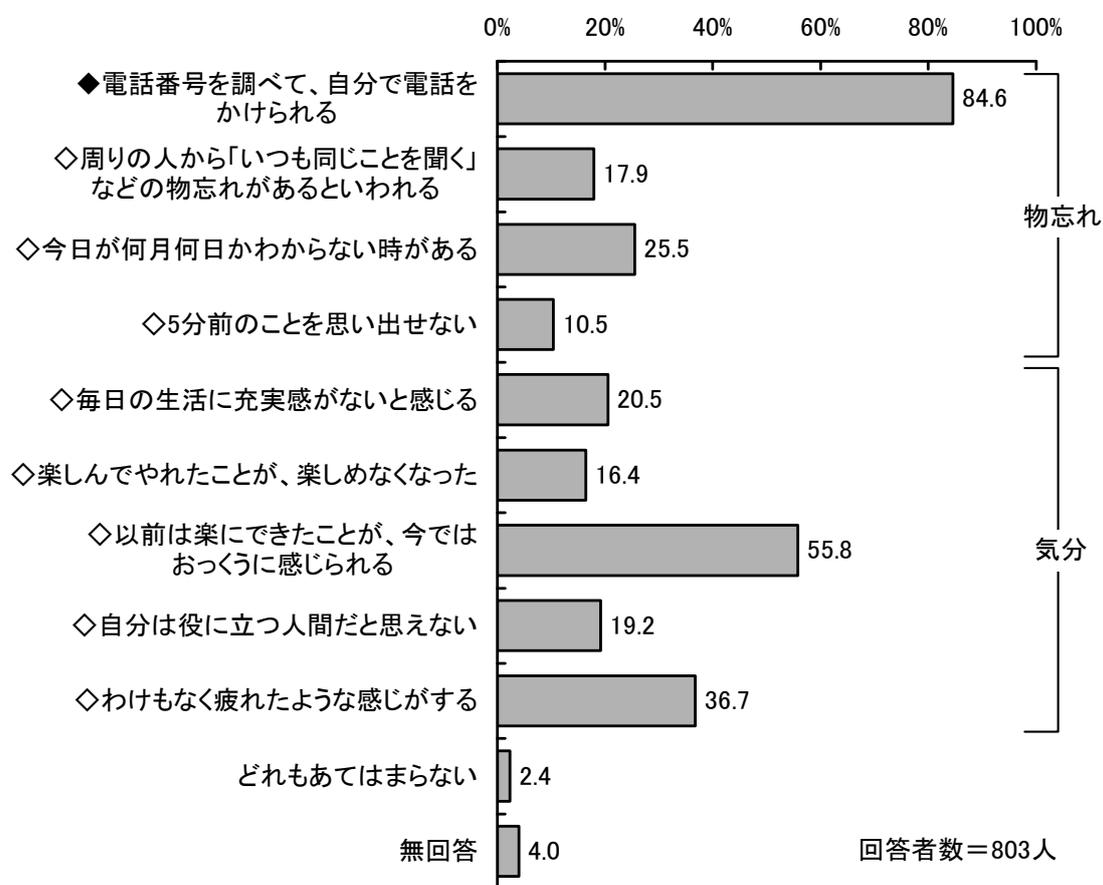


#### ④物忘れや気分の状況

前半4項目の物忘れの状況をみると、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」が8割台である一方、「今日が何月何日かわからない時がある」と約4人に1人が回答している。

後半5項目の気分の状況に関しては、「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」が55.8%と半数を超え、次いで、「わけもなく疲れたような感じがする」36.7%が続いている。

図表3-33 物忘れや気分の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

### ⑤その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

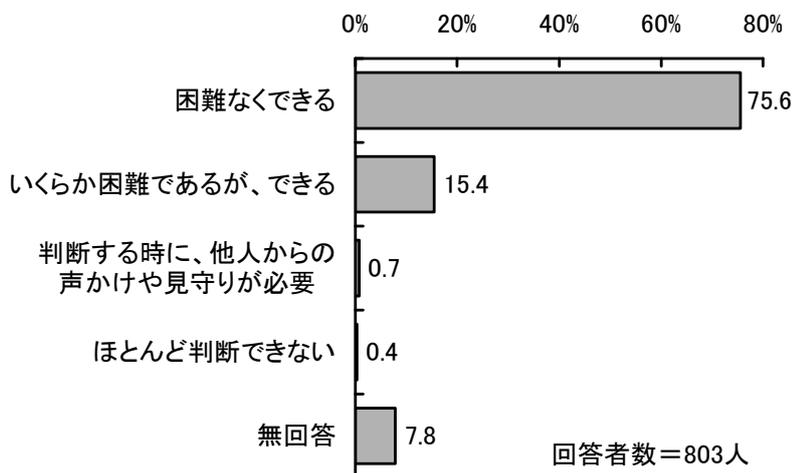
問 13 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問 14 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

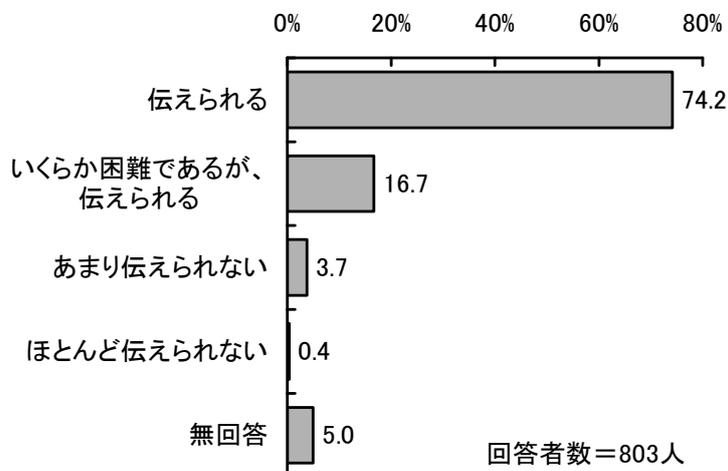
その日の活動の判断については、「困難なくできる」が 75.6%を占める。「いくらか困難であるが、できる」15.4%をあわせると、9割以上ができる状況にある。

意思の伝達については、「伝えられる」は 74.2%であり、「いくらか困難であるが、伝えられる」16.7%をあわせると、その日の活動の判断と同様に、9割以上ができる状況にある。

図表3-34 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表3-35 意思の伝達の可否(単数回答)

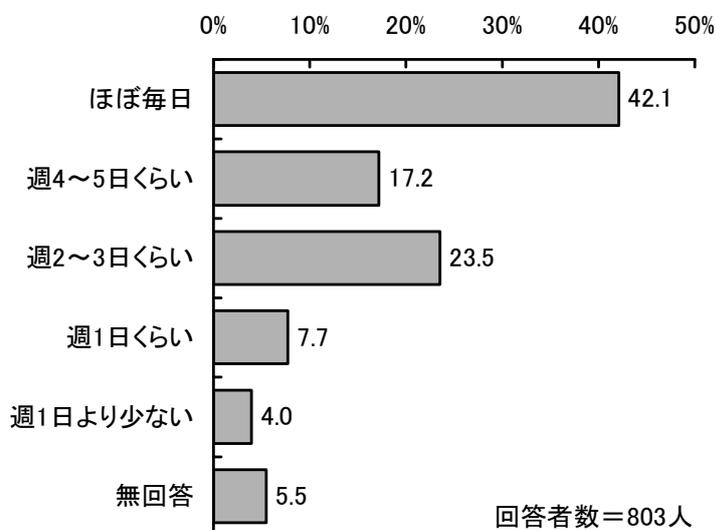


### (3)外出頻度

問 15 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

外出頻度は、「ほぼ毎日」42.1%、「週4～5日くらい」17.2%となっており、これらをあわせた59.3%、約6割は週4日以上外出していると回答している。閉じこもりリスクの高い「週1日より少ない」は4.0%となっている。

図表3-36 外出頻度(単数回答)

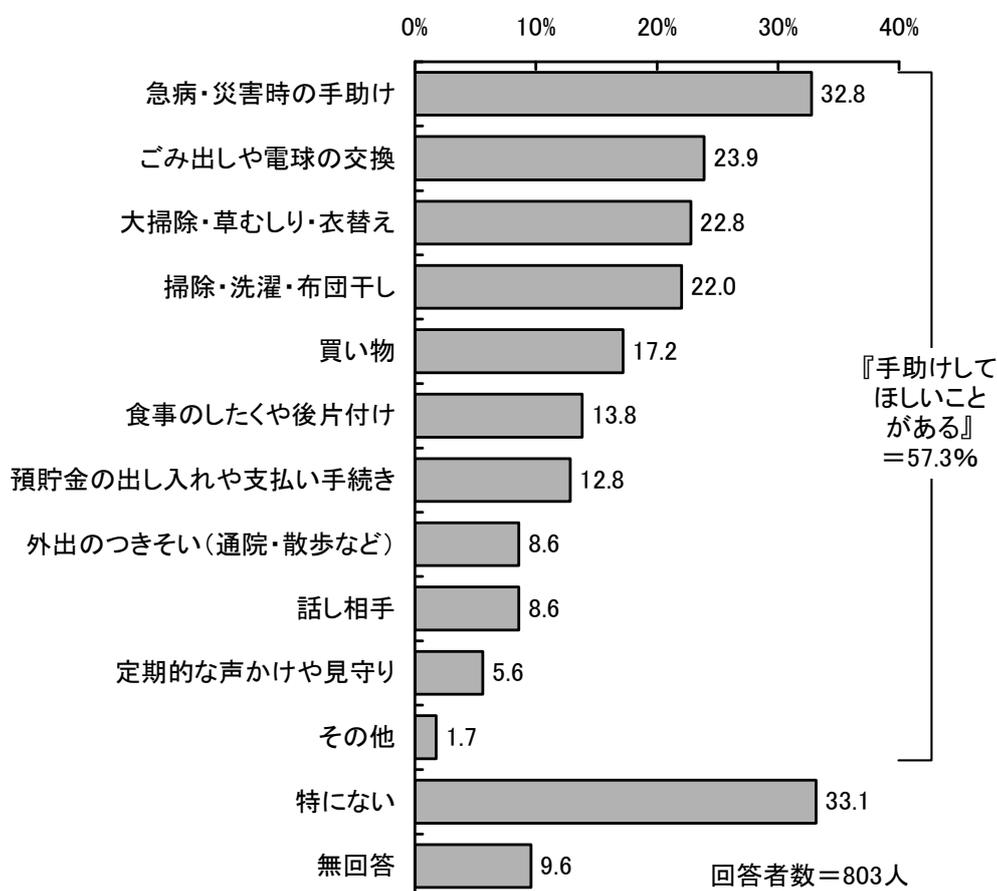


#### (4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問 16 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 249 参照】

日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、57.3%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「急病・災害時の手助け」32.8%に次いで、「ごみ出しや電球の交換」「大掃除・草むしり・衣替え」「掃除・洗濯・布団干し」が2割台で続いている。

図表3-37 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

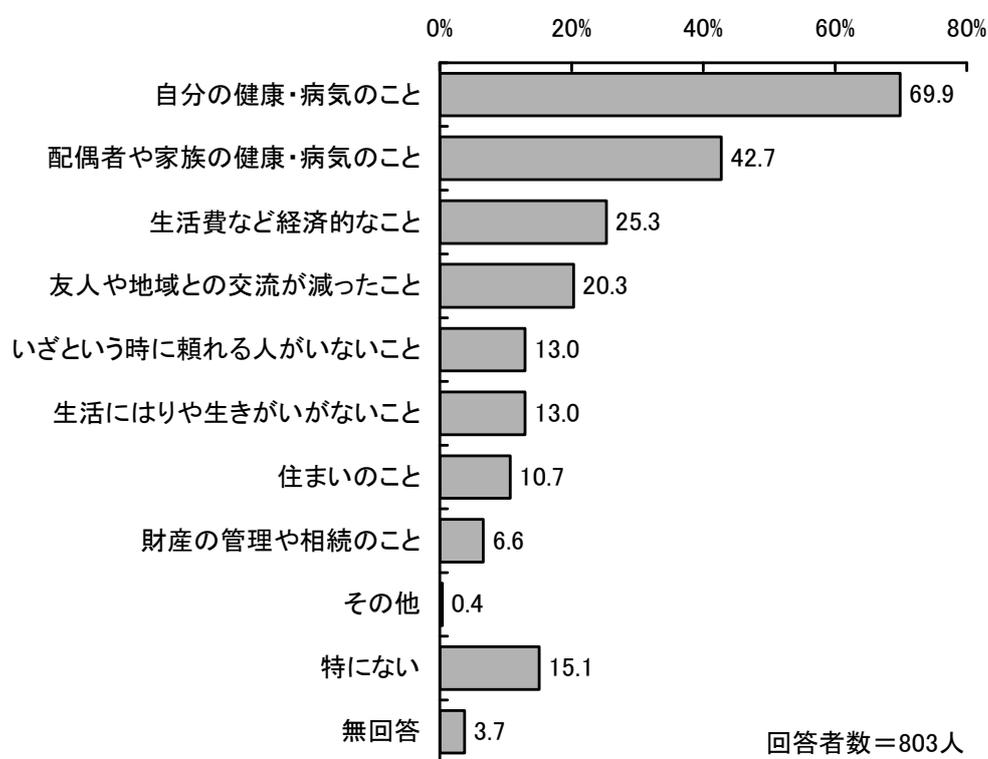
## (5)現在の生活で不安に感じること

問 17 あなた(あて名のご本人)は、現在の生活で不安に感じることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

現在の生活で不安に感じることとしては、約7割が「自分の健康・病気のこと」をあげている。次いで、「配偶者や家族の健康・病気のこと」が4割台、「生活費など経済的なこと」「友人や地域との交流が減ったこと」が2割台で続いている。

図表3-38 現在の生活で不安に感じること(複数回答)



## 5. 地域とのかかわりについて

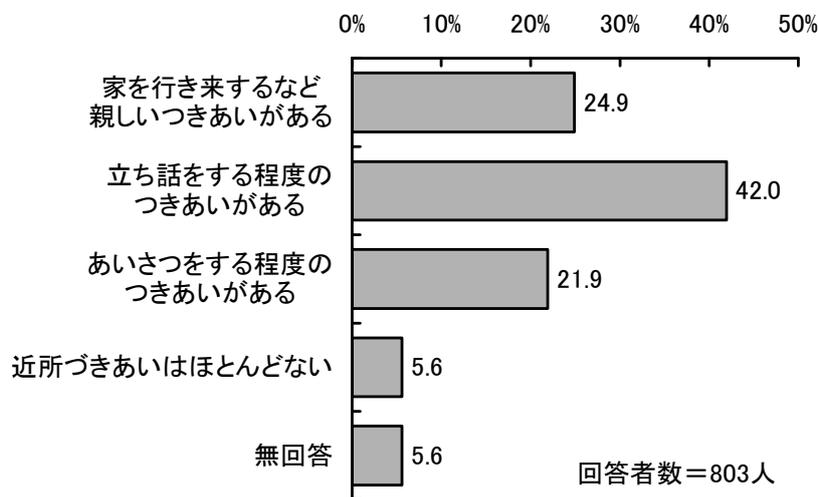
### (1) 近所の人とのつきあいの程度

問 23 あなた(あて名のご本人)は、ご近所の方との程度のつきあいをしていますか。(1つに○)【比較調査 253 参照】

近所の人とのつきあいの程度は、「立ち話をする程度のつきあいがある」が42.0%ともっとも高く、次いで「家を行き来するなど親しいつきあいがある」24.9%、「あいさつをする程度のつきあいがある」21.9%となっている。

世帯構成別にみると、「近所づきあいはほとんどない」割合は、他に比べてひとり暮らしや夫婦のみの人において高くなっている。

図表3-39 近所の人とのつきあいの程度(単数回答)



図表3-40 近所の人とのつきあいの程度

		回答者数(人)	家を行き来するなど親しいつきあいがある	立ち話をする程度のつきあいがある	あいさつをする程度のつきあいがある	近所づきあいはほとんどない	無回答
全体		803	24.9	42.0	21.9	5.6	5.6
世帯構成別	ひとり暮らし	175	25.1	43.4	18.3	8.0	5.1
	夫婦のみ	240	22.1	42.5	23.8	6.3	5.4
	子どもと同居	226	27.0	39.8	23.0	4.9	5.3
	子どもと孫と同居	96	26.0	41.7	24.0	2.1	6.3
	その他	31	19.4	51.6	19.4	3.2	6.5

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

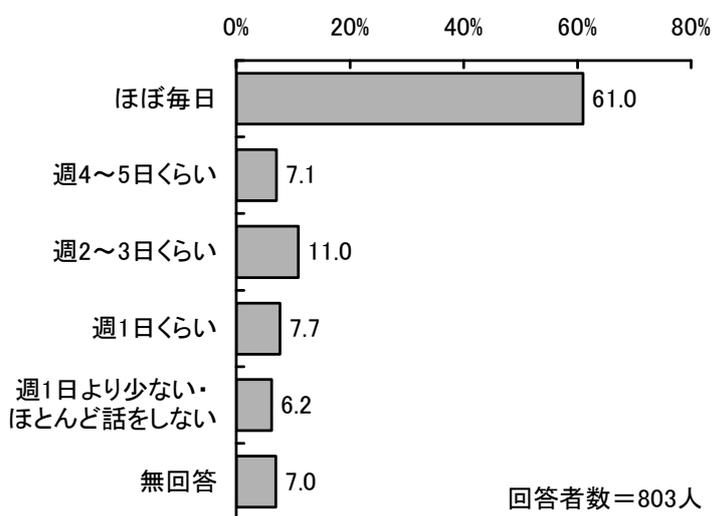
## (2) 家族等との会話の頻度

問 24 あなた(あて名のご本人)は、ふだん、どのくらいご家族(同居を含む)・ご親族や知人等と話をしていますか(電話やメールを含む)。(1つに○)

家族等との会話の頻度は、「ほぼ毎日」が61.0%となっている。一方、「週1日くらい」は7.7%、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」は6.2%であり、これらをあわせた13.9%は会話の頻度が週に1回以下という状況である。

世帯構成別にみると、夫婦のみの人では6割台、子どもや孫との同居世帯の人では7割台が「ほぼ毎日」と回答しているのに対し、ひとり暮らしの人では32.0%にとどまっておろ、「週1日より少ない・ほとんど話をしない」が12.6%と、他に比べて高い割合となっている。

図表3-41 家族等との会話の頻度(単数回答)



図表3-42 家族等との会話の頻度

		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4~5日くらい	週2~3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない・ほとんど話をしない	無回答
全体		803	61.0	7.1	11.0	7.7	6.2	7.0
世帯構成別	ひとり暮らし	175	32.0	8.6	24.0	13.7	12.6	9.1
	夫婦のみ	240	65.8	7.5	7.1	9.2	5.8	4.6
	子どもと同居	226	71.2	6.6	8.4	4.0	3.5	6.2
	子どもと孫と同居	96	75.0	5.2	4.2	4.2	2.1	9.4
	その他	31	74.2	6.5	3.2	3.2	6.5	6.5

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

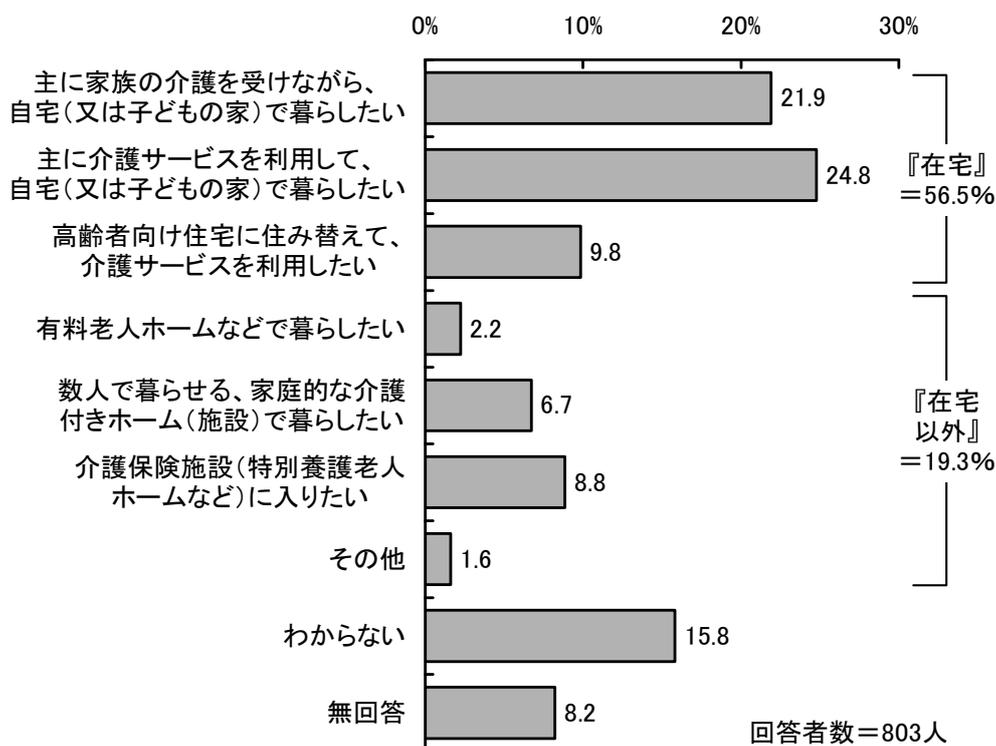
## 6. 今後の暮らしや介護について

### (1) 今後介護を受けたい場所

問 25 あなた(あて名のご本人)は、今後、介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○)【比較調査 254 頁参照】

今後介護を受けたい場所をみると、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」24.8%、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」21.9%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」9.8%の順であり、これらをあわせた56.5%が『在宅』での暮らしを希望している。一方、『在宅以外』を希望する割合は19.3%となっている。

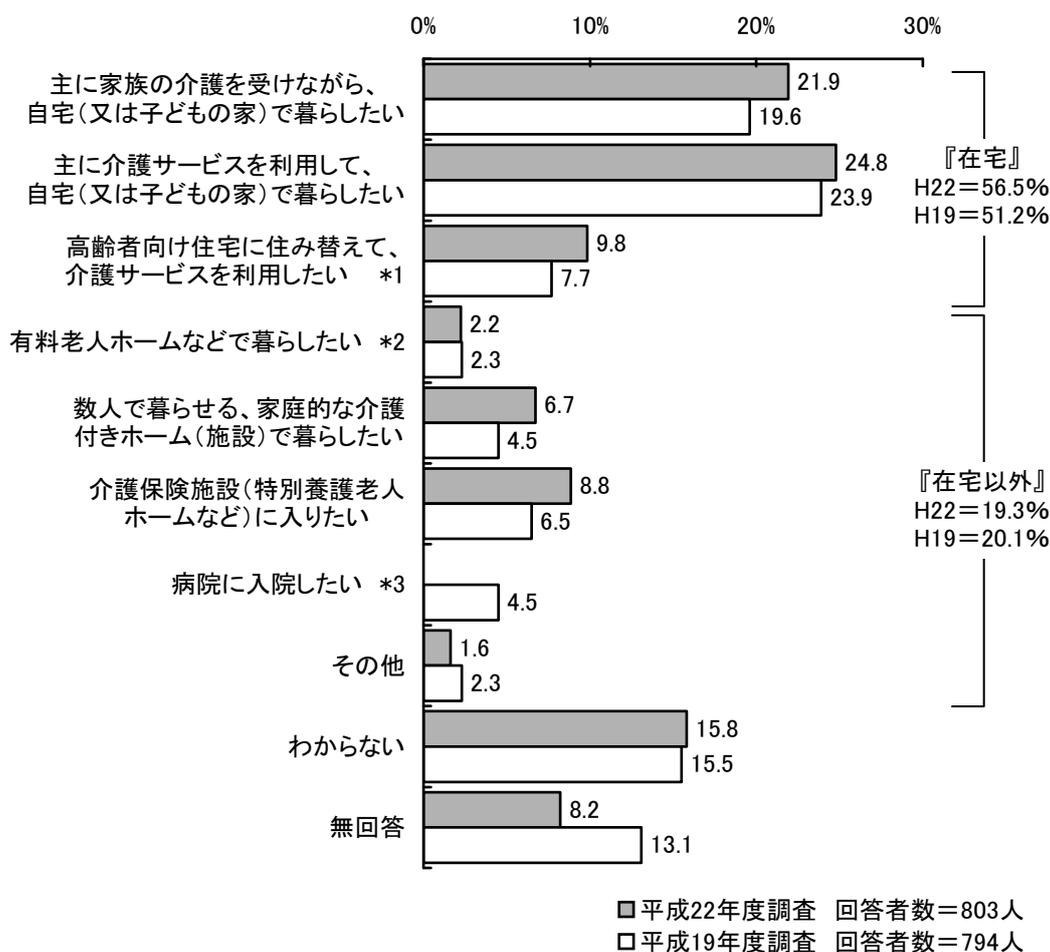
図表3-43 今後介護を受けたい場所(単数回答)



- ※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」
- ※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」  
+ 「その他」

今後介護を受けたい場所について、平成19年度調査と比較してみると、選択肢が異なるため単純な比較はできないが、『在宅』を希望している人が5.3ポイント増加している。その内訳をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が2.3ポイント、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」が2.1ポイント増加している。

図表3-44 今後介護を受けたい場所<平成19年度調査との比較>



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」  
 + 「病院に入院したい」  
 + 「その他」

※\*1の選択肢は平成19年度調査では「主に介護サービスを利用して、高齢者向け住宅に住み替えて暮らしたい」

※\*2の選択肢は平成19年度調査では「有料老人ホームに入りたい」

※\*3「病院に入院したい」の選択肢は平成19年度調査のみ

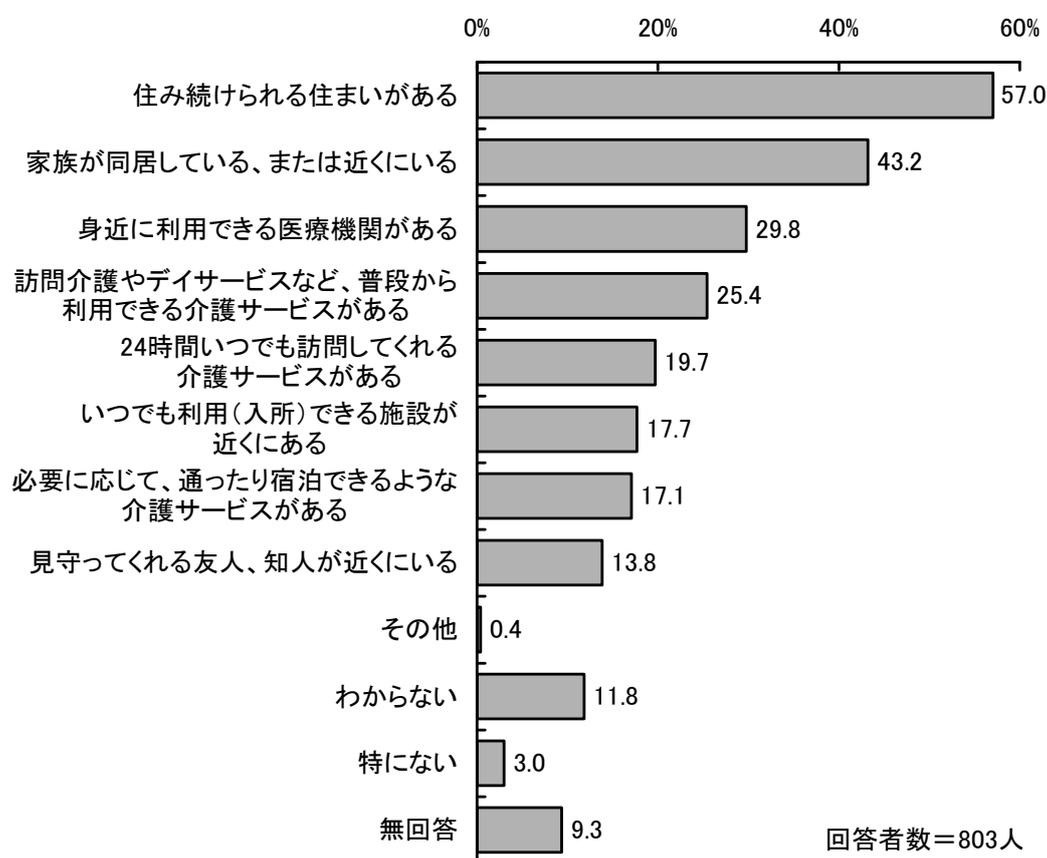
## (2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

問 26 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うこととしては、「住み続けられる住まいがある」57.0%がもっとも高い。次いで、「家族が同居している、または近くにいる」43.2%、「身近に利用できる医療機関がある」29.8%、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」25.4%の順となっている。

図表3-45 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと(複数回答)



### (3)健康サポートセンターの認知度、利用経験

問 28 あなた(あて名のご本人)は、健康サポートセンターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

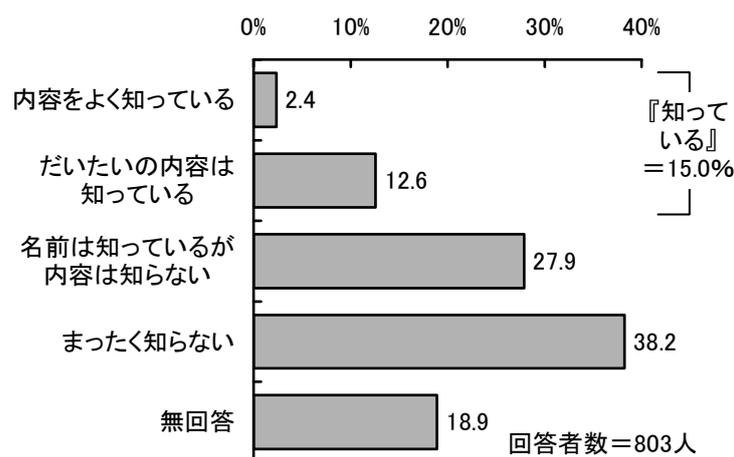
内容や名前を知っている方(問 28 で 1～3 に○)におうかがいします。

問 28-1 健康サポートセンターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

健康サポートセンターについて、「内容をよく知っている」2.4%、「だいたいの内容は知っている」12.6%をあわせた『知っている』は15.0%であり、「名前は知っているが内容は知らない」は27.9%、「まったく知らない」は38.2%となっている。

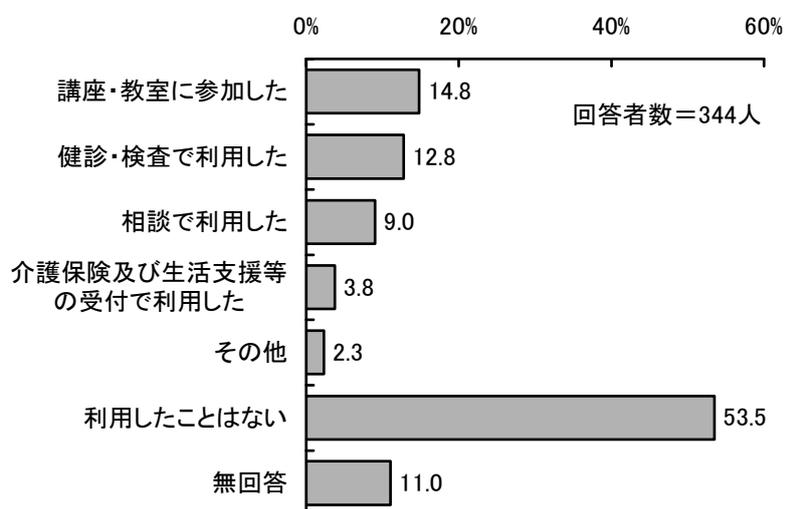
内容や名前を知っている人の利用経験は、「利用したことはない」が53.5%であり、利用した場合としては、「講座・教室に参加した」14.8%、「健診・検査で利用した」12.8%、「相談で利用した」9.0%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」3.8%となっている。

図表3-46 健康サポートセンターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

図表3-47 健康サポートセンター利用経験(複数回答)

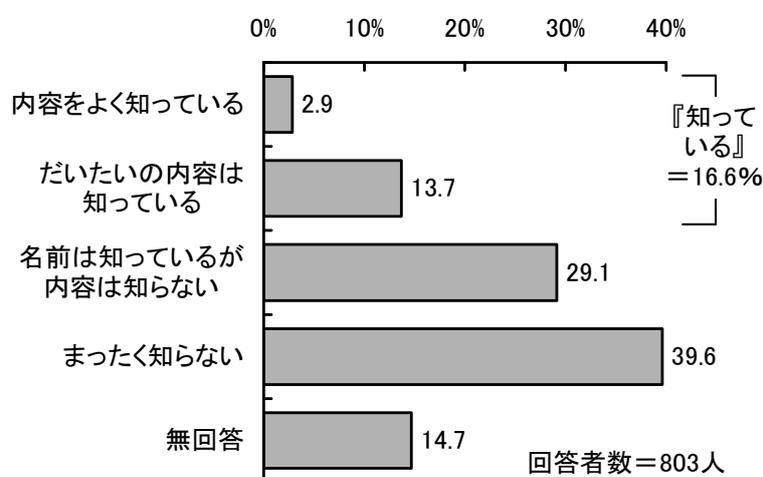


#### (4) 地域包括支援センターの認知度

問 27 あなた(あて名のご本人)は、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターについては、「内容をよく知っている」2.9%、「だいたいの内容は知っている」13.7%をあわせた16.6%が『知っている』と回答している。「まったく知らない」は39.6%、「名前は知っているが内容は知らない」は29.1%となっている。

図表3-48 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

### (5) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 27 で 1～3 に○)におうかがいします。

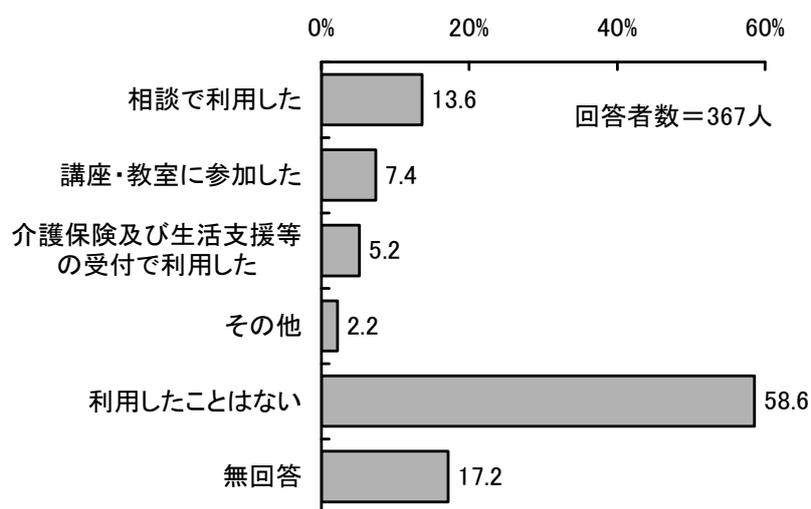
問 27-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 27-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

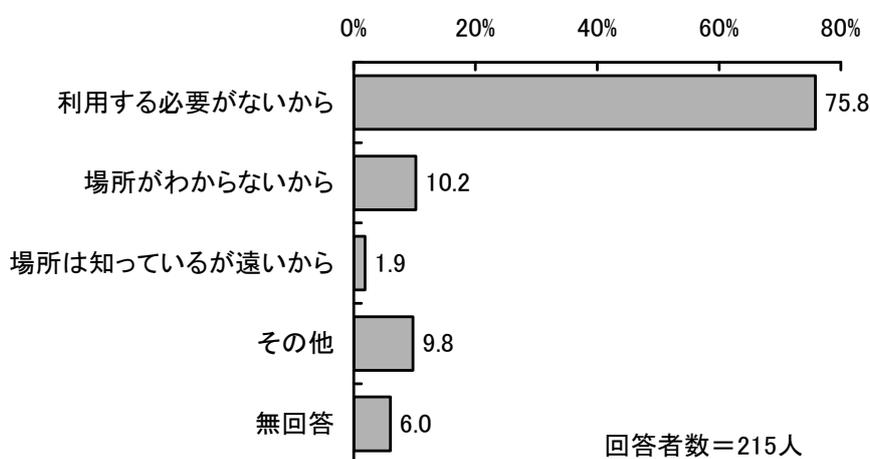
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「利用したことはない」が 58.6%を占める。利用した場合としては、「相談で利用した」13.6%、「講座・教室に参加した」7.4%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」5.2%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が 75.8%、次いで「場所がわからないから」10.2%となっている。

図表3-49 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表3-50 利用したことがない理由(複数回答)



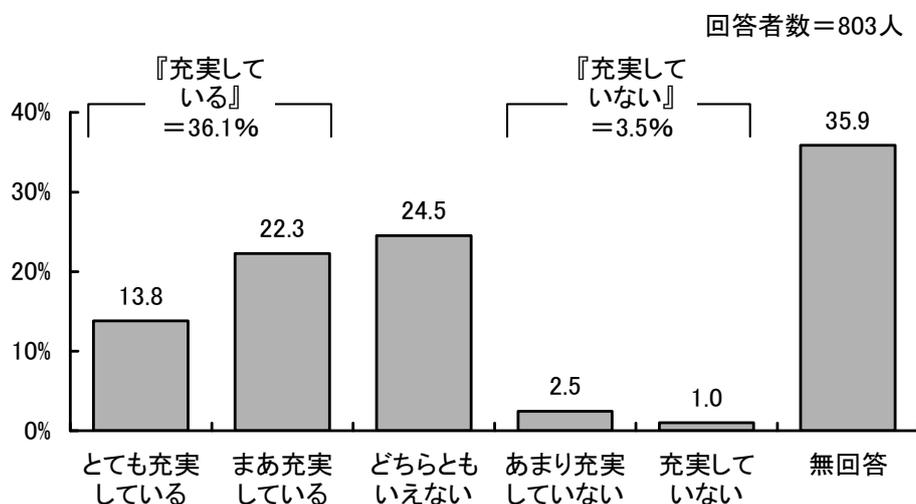
## 7. 江戸川区の熟年者施策について

### (1) 区の熟年者施策の充実度

問 29 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。  
(1つに○)【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」13.8%、「まあ充実している」22.3%をあわせた 36.1%が『充実している』と回答している。「あまり充実していない」2.5%、「充実していない」1.0%をあわせた『充実していない』は 3.5%であった。

図表3-51 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」  
※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

#### (『充実していない』理由：20件より抜粋して記載)

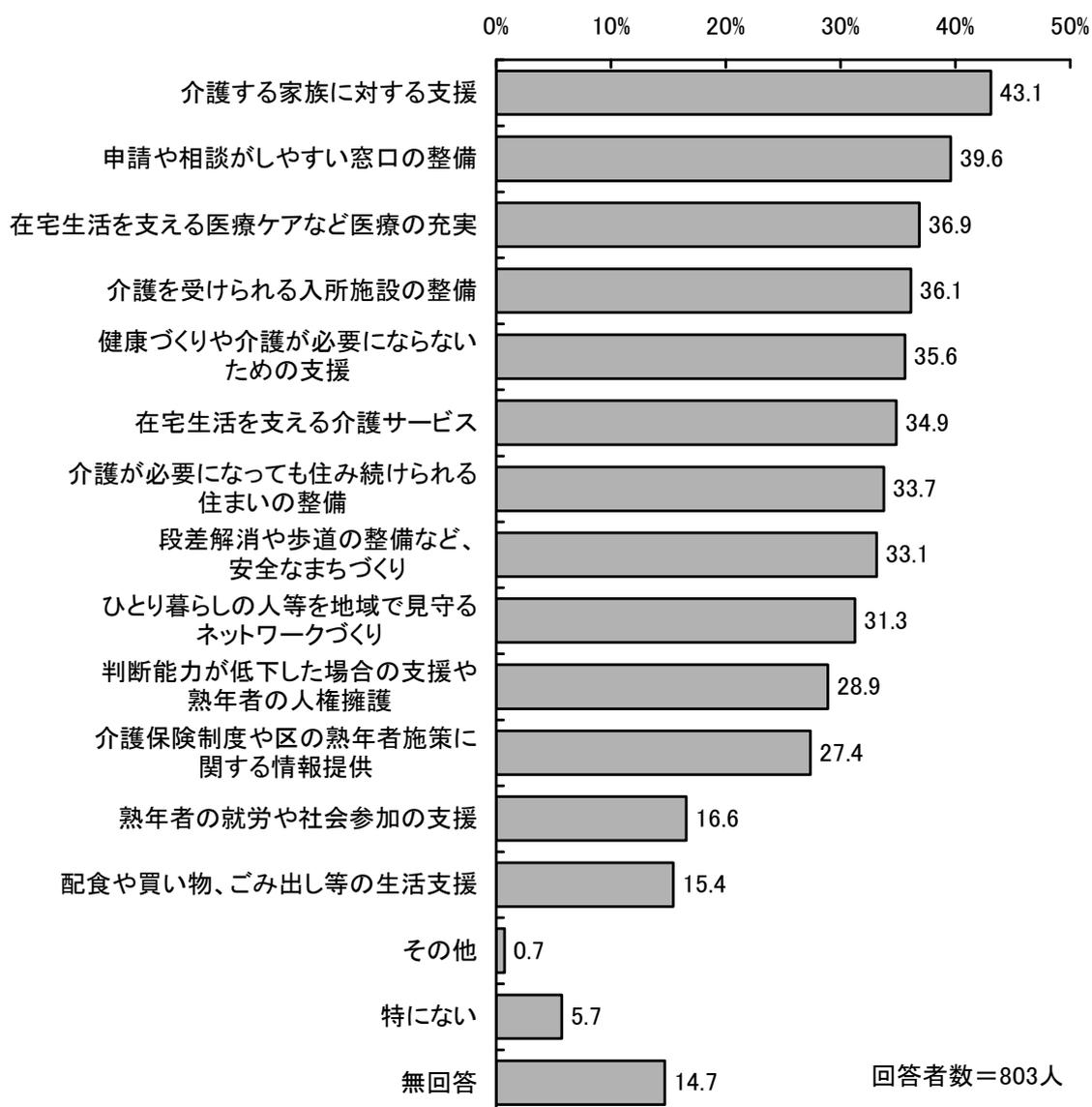
- ・相談に行ったが、次の順番であるにもかかわらず1時間半くらい誰も対応してくれなかった。
- ・どのように申し込んだらよいのかわからない。
- ・新聞も取っていない(やめた)ので区報が届かず、何もわからなくなった。
- ・熟年者の確認がないこと。特にひとりで生活している人の確認。
- ・身近には全く感じられない。
- ・ひとり暮らしの人の孤独感に対する理解や施策がない。
- ・自分が利用している実感がなくて、介護保険料を払わされているという思いしかない。
- ・障害がある人への特別な配慮がない。

## (2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 30 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」43.1%がもっとも高い。次いで、「申請や相談がしやすい窓口の整備」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」「介護を受けられる入所施設の整備」「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が続いている。

図表3-52 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



### (3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

---

(265 件について分類・要約して記載)

#### 【1】介護保険・区の介護支援等に対する意見・要望(90 件より抜粋)

- ・ 介護保険制度の将来が不安だ。制度の財政上から、十分に必要とするケアが受けられないのではないかと心配している。
- ・ 各種支援、サービス等の説明会を年 2 回程度高齢者のために実施してほしい。
- ・ 近い将来、介護制度を利用すると思うので、制度について身近にふれられるよう回覧板などを使ってほしい。いざ区役所に出向くとなると大変。
- ・ 普段から役所（広報）などからの PR が届いていないと思う。たとえば、どんな相談をどこへ行けばいいのか思いつかない。
- ・ 地域包括支援センターのことは先日テレビで知った。内容と場所をもっと宣伝するべき。それに高齢者には行くこともできない。
- ・ 介護保険料の支払い金額が多いと思う。もう少し金額を下げしてほしい。
- ・ 老人福祉施設の入所者は順番待ちと聞いている。必要になった時にすぐ入所できる施設をもっと作ってほしい。保育園が新設されたらその隣に老人福祉施設を。
- ・ 身内のいない歳をとった方だけの施設があればと思う。
- ・ 低い年金で生活している。できれば生活に苦しい人でも入れるような施設を提供してほしい。
- ・ 安い費用で入所できる老人ホームをつくってほしい。
- ・ ひとり暮らしなので倒れたりした時に緊急連絡する手段がほしい。緊急察知手段も。
- ・ 買い物もスーパーから家まで、お金を払ってもいいから届けてくれると助かる。
- ・ 夫婦とも倒れた時、一時的に区や民間施設で介護や世話をしてくれる人を派遣する制度を考えてほしい。
- ・ ひとり暮らしの場合（アパート）、近所同士の付き合いが少ないため、室内で急に具合が悪くなった時、緊急な時、電話もできない状態の時が心配。
- ・ 現在、介護に関する整備がどのくらいできているか知りたい。
- ・ ひとり暮らしでも緊急時に簡単に通報できる器具等を無料で配布できればよい。

#### 【2】保健医療福祉施策に対する意見・要望(78 件より抜粋)

- ・ 民生委員の方々は、ひとり暮らしの家庭などを訪問し、もっと話し相手等をしてほしい。
- ・ 年金が少ななので新聞をやめた。新聞に入っていた区民だよりを送ってほしい。
- ・ 医療、インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンなどの情報を流してほしい。
- ・ 大きな病院を増やしてほしい。他の地区より江戸川区は福祉がとても充実しているようにいわれるが、個人の医院は夜間は先生がいないので、とても不安に思っている。
- ・ 風水害にあった時に、救出誘導等に即対応するための当該地区のマップづくりをしてほしい。
- ・ 災害時の避難場所について、わかりやすく説明がほしい。
- ・ 難聴なのではっきりと聞き取れない時等、ちょっとメモしてくれるとうれしい。
- ・ ひとり暮らしの方、金銭的に大変な方が安心して暮らせるようにしてあげてほしい。
- ・ 熟年者の立場、自立を前提の上での支援をお願いしたい。

### 【3】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(12件より抜粋)

- ・今のマンションではほとんど言葉を交わす人々もない。もっと積極的に仲間を得られたら、今後の生活に役立つと思う。
- ・ひとり暮らしの人の食事会を区内数か所で1か月に1回、半年に1回、年に1回でもいいから開催してほしい。費用は参加者負担でいい。
- ・区民館で、1か月に1回2時間くらいのトークサロンを開いてほしい。集まった人数により1人3分から5分位話したいことを話し、時間が余れば自由討議にすればよい。
- ・グリーンパレスにカルチャーセンターのような教室がほしい。時間帯として昼間の2、3時間(遅い時間は足元が悪い)。
- ・くすのきカルチャーセンターはとてもいいと思う。60歳で定年退職後に参加してから地域の友達と友だちになり、誰かに声をかけたり、かけられたりする。
- ・ひとり暮らしには何かネットワークがほしいがどうしたらいいかわからない。
- ・週に4日各地のコミュニティセンターで麻雀をやっている。会話もあり、楽しい。高齢者の生きがいのためもっと場所をつくってほしい。

### 【4】健康づくり・介護予防について(15件より抜粋)

- ・できる限り介護を受けないで現状維持で生活したいので、簡単な筋トレが無理なくできるような場所をつくってほしい。
- ・熟年ふれあいセンターに週1回通っているが、もう少し回数が多いともっと充実できると思う。
- ・熟年者が気楽に集える場所が近くにあるとよいと思う。そのようなところで学べるものや何かを見つけ出せれば、歳をとっても楽しく生活でき、介護をあまり必要とせずにいられるのではないか。
- ・今後、高齢者が増えるので、健康サポートセンター等にて年3~4回をめぐりに健康に関する講習会(予防・認知症等)を行うとよいと思う。
- ・腰痛や膝の痛みなどがあって、リズム運動に参加できない人達が数多くいるので、月に2度、自由な語らいとか、ケアマネジャーさんの話などが聞けたら楽しいと思う。老いると皆さんと顔を合わせることや若い人達から声がかかるのがとても力になる。
- ・介護予防の説明やパンフレットは立派すぎる。

### 【5】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(31件より抜粋)

- ・毎日買い物をするが、道幅(歩道)が狭く段差もあり、商品を歩道に並べた店もあり、とても危険。
- ・熟年者が大変多い町内で、散歩の場所、歩道、ベンチなど安心して歩ける場所がほとんどない。
- ・歩道の端を歩けといわれても、道の端の方は坂になっているので、身体をまっすぐにして歩けず歩きにくい。
- ・歩いていると、自転車に乗っている人が後ろからきてぶつかりそうになることが(ベルを鳴らさない人が多い)度々ある。歩道は人が歩くところで、自転車は別にしてほしい。
- ・小型バスがぐるぐるまわっている都心もいっぱいある。そうしたら、年寄りも危険な自転車で買い物しなくて、便利になると思う。
- ・狭い歩道にあるゴミ収集所のゴミ袋がじゃまになり、車いすが通りにくい箇所があるので整備してほしい(前日から出しているため)。
- ・高齢者が安心して住める、低家賃の区営住宅(1人でも入所できる)をつくってほしい。1階に病院と介護サービスがあるとよい。
- ・昔の平屋長屋のような低家賃で住める、ひとり暮らしの入居者のための住宅をもっともっと増やしてほしい。

## 【6】その他(39件より抜粋)

- ・ 生老病死についての話し合いが全くない。人生に必要なことであるのに、このことについて話し合いのないことを憂いている。
- ・ この調査は質問の意味がわからない部分が少なく、字が大きくはっきりしているのでよいと思う。
- ・ 色々取り組んでおられる様子がわかり、うれしく思う。
- ・ まだ元気なつもりなのでなかなか理解できない。
- ・ 今回の質問内容で、友達の家をよく訪ねるかというのがあるが、今は家には呼ばず、外でお茶や会食をするので適当ではないと思う。

# 第 4 章

## 介護保険サービス利用に 関する調査

### < 調 査 概 要 >

調査方法	郵送配付、郵送回収
調査対象者	65 歳以上の要介護認定を受け、施設サービス、 認知症高齢者グループホーム、有料老人ホーム を利用していない区民 (平成 22 年 11 月 1 日現在)
抽出方法	介護保険被保険者台帳より無作為抽出 (外国人登録者を含む)
調査期間	平成 22 年 11 月 22 日～12 月 15 日
対象者数 及び 回収率	対象者数 : 2,500 有効回収数 : 1,607 有効回収率 : 64.3%



# 1. 基本的属性

## (1) 調査回答者、性別、現在の満年齢

問1 はじめに、この調査票に回答される方はどなたですか。(1つに○)

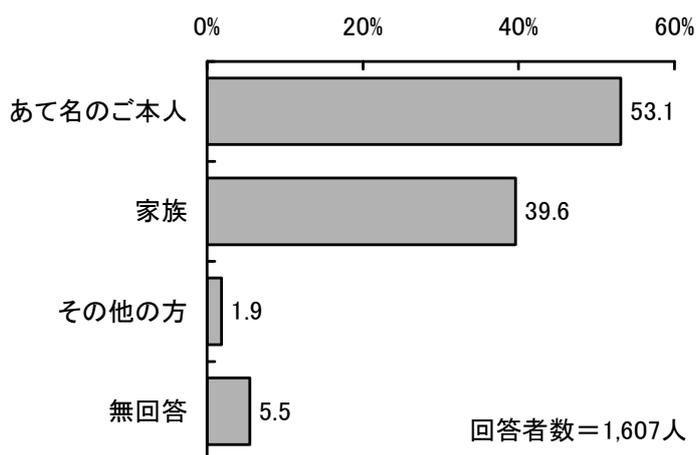
問2 あなた(あて名のご本人)の性別、平成22年11月1日現在の満年齢をお答えください。

調査回答者は、「あて名のご本人」は53.1%と半数強であり、39.6%と約4割は「家族」となっている。

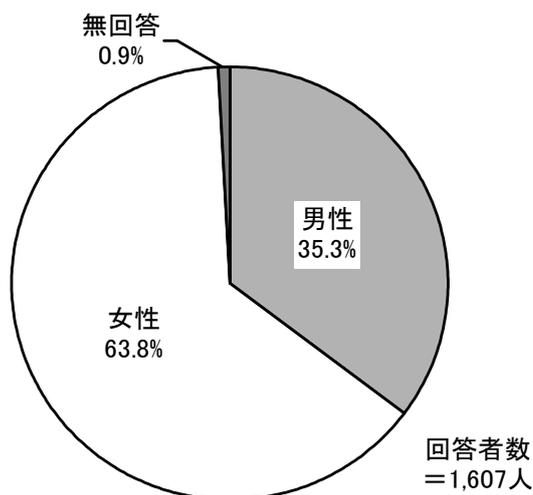
性別は、「男性」35.3%に対して「女性」が63.8%を占める。

年齢は、年齢層が高いほど割合が高く、「85歳以上」が34.2%を占める。平均年齢は81.1歳となっている。

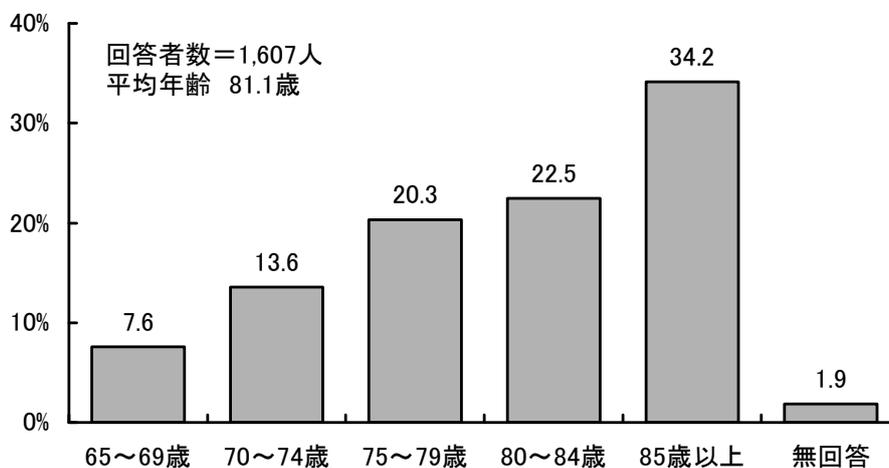
図表4-1 調査回答者(単数回答)



図表4-2 性別(単数回答)



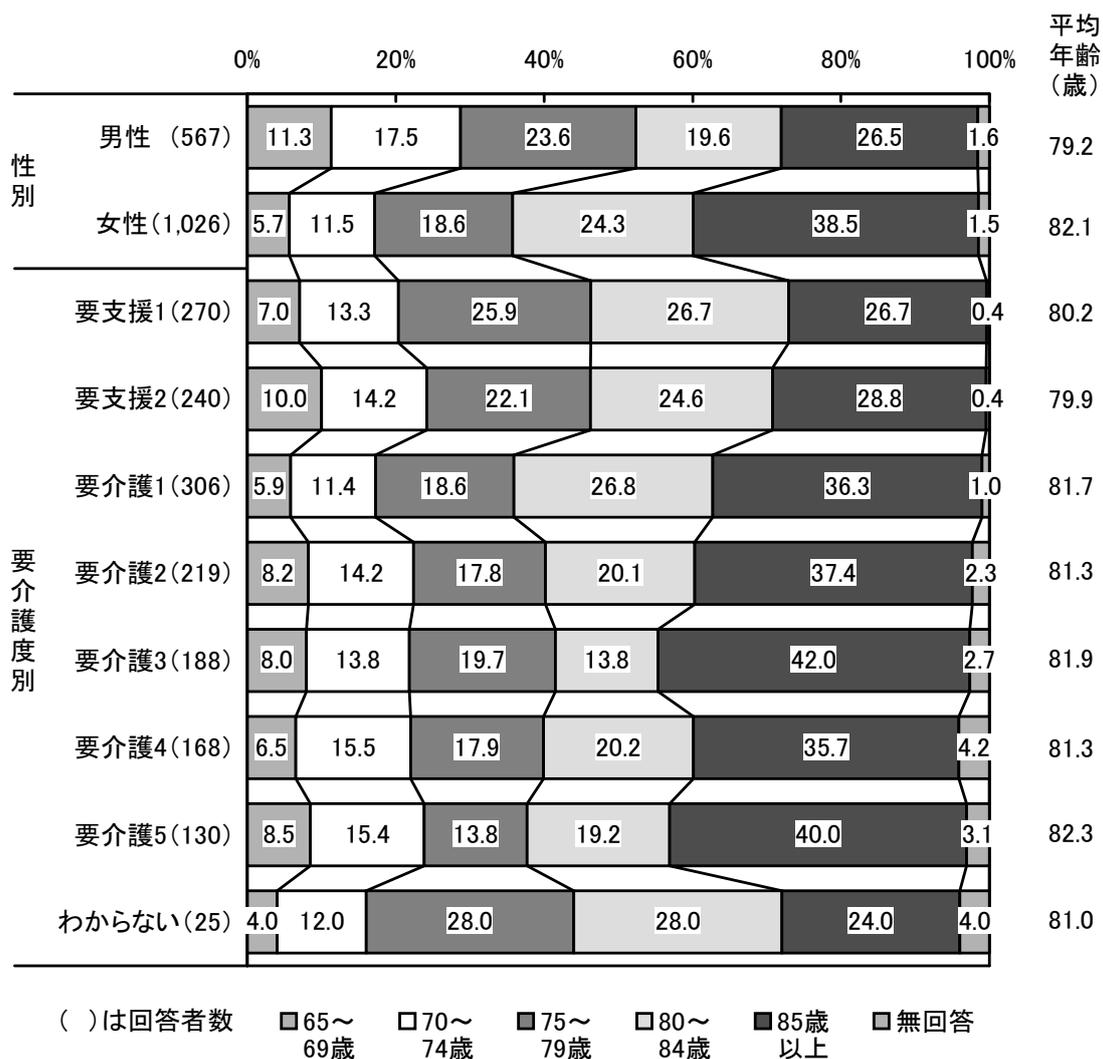
図表4-3 年齢(単数回答)



性別にみると、「85歳以上」の年齢層は男性 26.5%に対して、女性では 38.5%を占めており、平均年齢は男性が 79.2 歳、女性が 82.1 歳となっている。

要介護度別にみると、要支援 1・2 の人では「85歳以上」は 2 割台であるが、要介護 1 以上の人では 3~4 割台が「85歳以上」となっている。

図表4-4 年齢

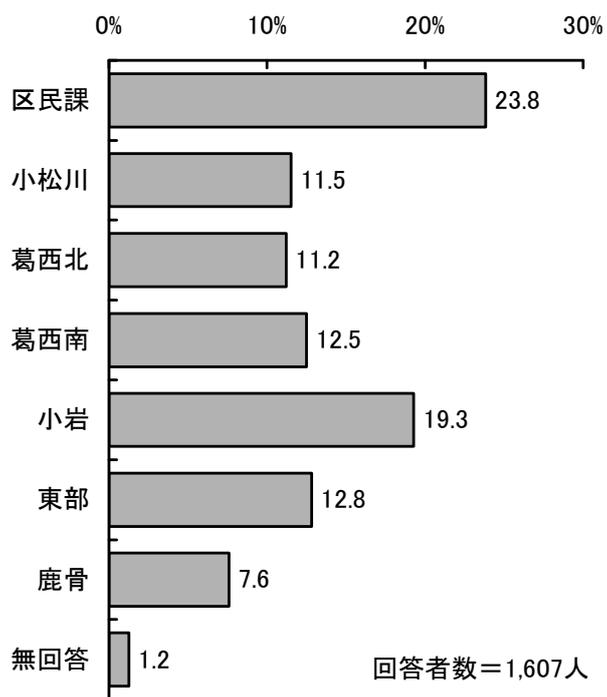


## (2)居住地(日常生活圏域)

問3 あなた(あて名のご本人)のお住まいはどこですか。【比較調査 239 参照】

居住地(日常生活圏域)は、「区民課」23.8%、「小岩」19.3%、「東部」12.8%、「葛西南」12.5%、「小松川」11.5%、「葛西北」11.2%、「鹿骨」7.6%の順となっている。

図表4-5 居住地(日常生活圏域)(単数回答)

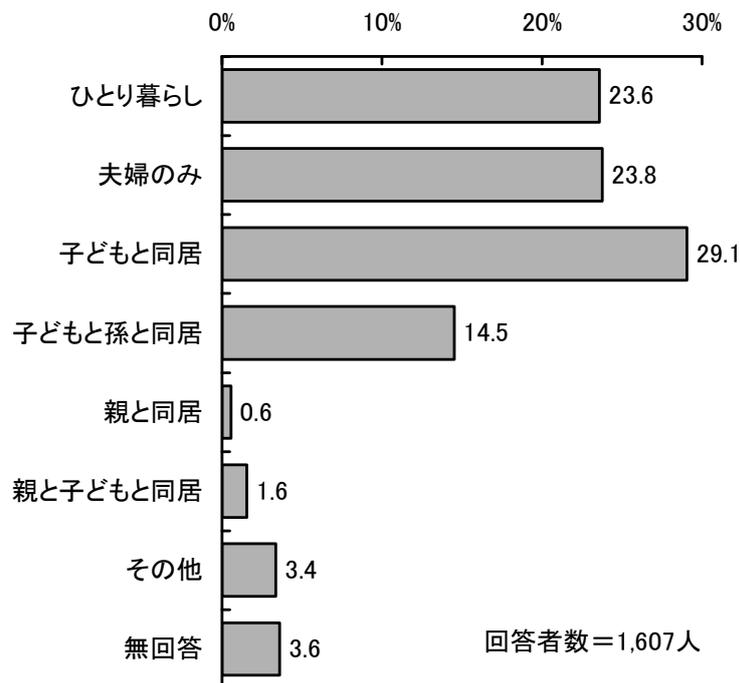


### (3) 世帯構成

問4 あなた(あて名のご本人)の現在の世帯の構成は、次のうちどれですか。(1つに○)  
【比較調査 240 参照】

世帯構成は、「子どもと同居」29.1%に次いで、「夫婦のみ」23.8%、「ひとり暮らし」23.6%がほぼ同じ割合が続いている。

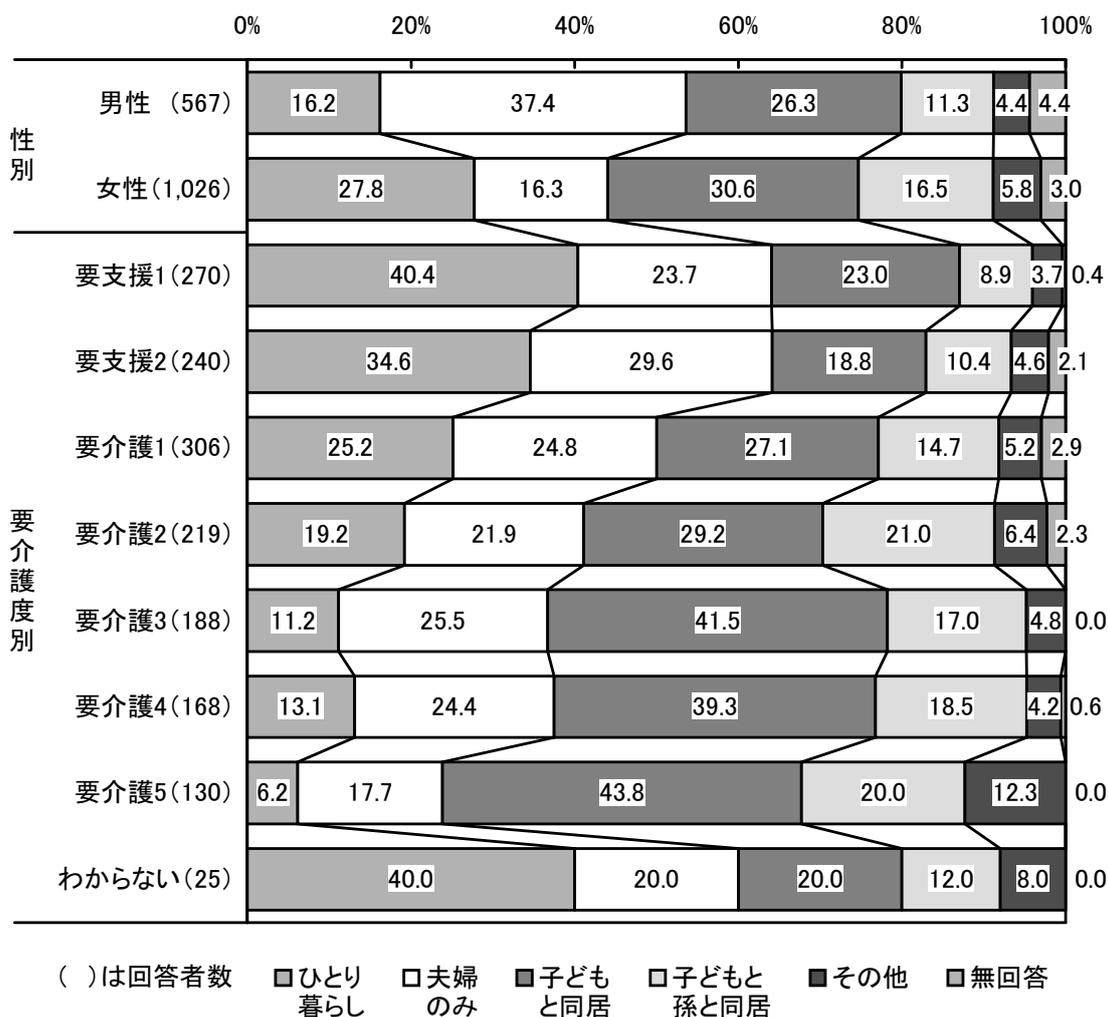
図表4-6 世帯構成(単数回答)



性別にみると、男性は「夫婦のみ」37.4%がもっとも高く、「ひとり暮らし」は16.2%である。女性は「子どもと同居」30.6%に次いで、「ひとり暮らし」が27.8%と3割近い。

要介護度別にみると、要支援の人では「ひとり暮らし」がもっとも高く、特に要支援1の人では約4割を占める。介護度が高くなるほど「ひとり暮らし」は低くなり、要介護3～5の人では4割前後が「子どもと同居」となっている。

図表4-7 世帯構成



※「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

#### (4) 日中独居の状況

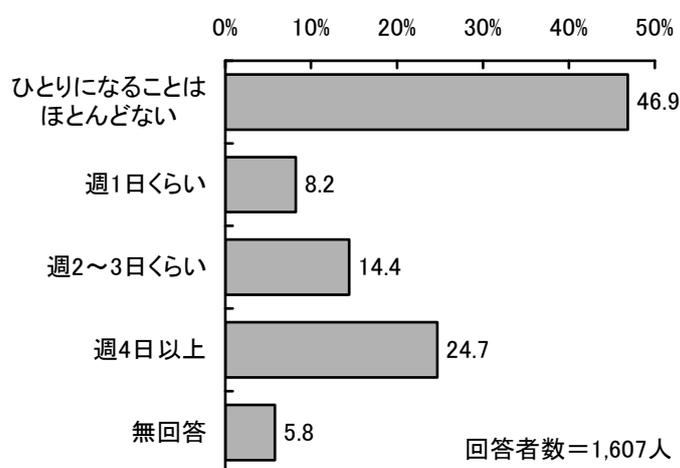
問5 あなた(あて名のご本人)は、日中、家にひとりでいることがどのくらいありますか。

(1つに○)

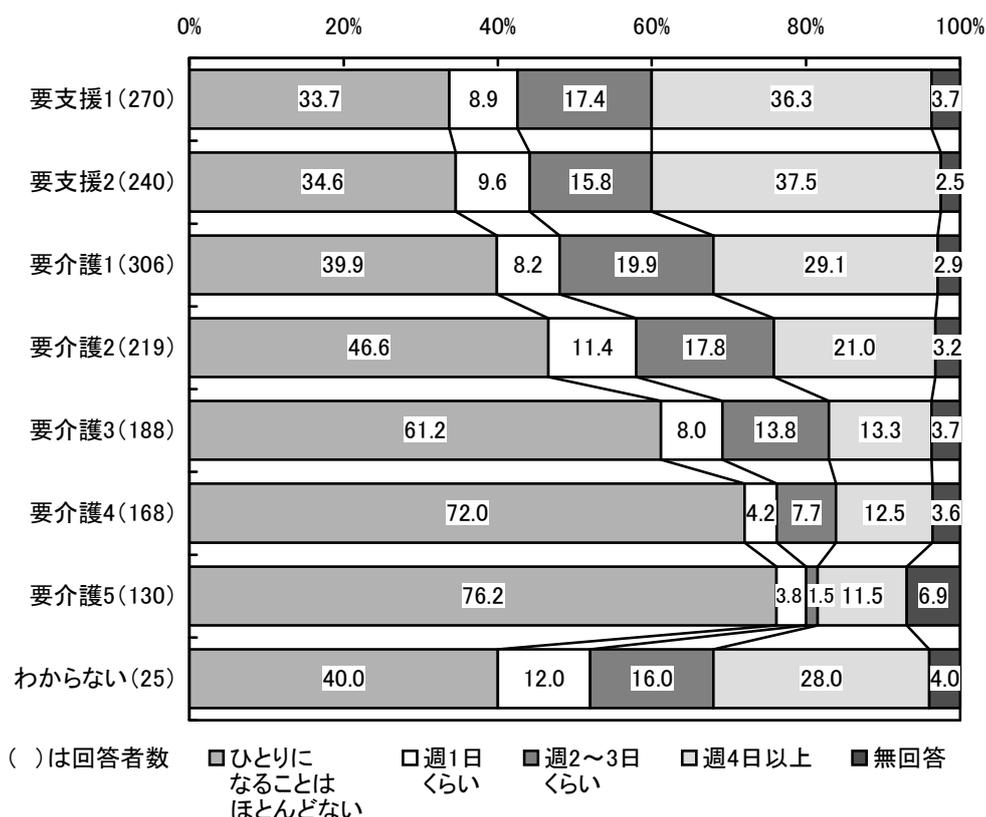
日中独居の状況を見ると、「ひとりになることはほとんどない」は46.9%と5割を下回っており、約4人に1人が「週4日以上」ひとりでいると回答している。

要介護度別にみると、「週4日以上」ひとりでいる割合は、要支援1・2の人では3割を超えるが、介護度が高くなるほど割合は低くなる。一方、「ひとりでいることはほとんどない」は要介護4・5の人では7割を超えている。

図表4-8 日中独居の状況(単数回答)



図表4-9 日中独居の状況

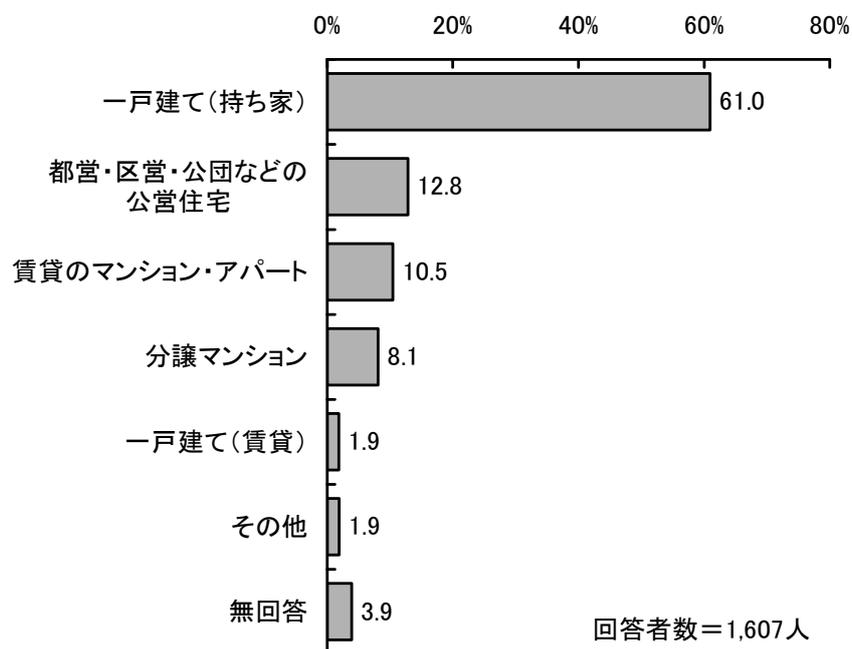


## (5)住居の形態

問6 あなた(あて名のご本人)の現在のお住まいは、次のうちどれですか。

住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」が61.0%を占める。次いで、「都営・区営・公団などの公営住宅」12.8%、「賃貸のマンション・アパート」10.5%、「分譲マンション」8.1%の順となっている。

図表4-10 住居の形態(単数回答)



## (6) 居住階数、エレベーターの有無

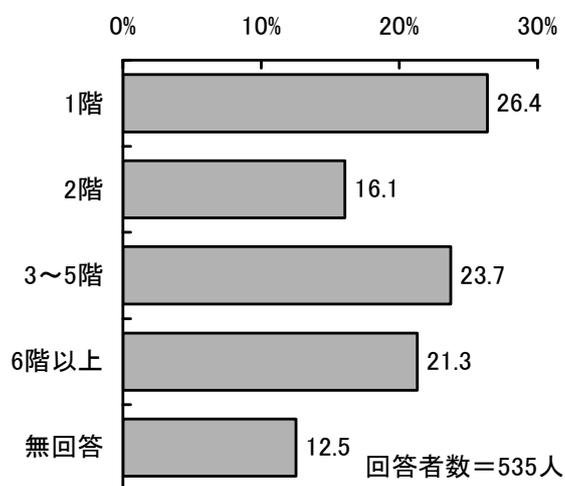
マンションやアパート等にお住まいの方(問6で3~6に○)におうかがいします。

問6-1 現在、何階で生活していますか。また、2階以上で生活している場合、エレベーターはありますか。(それぞれ1つに○)

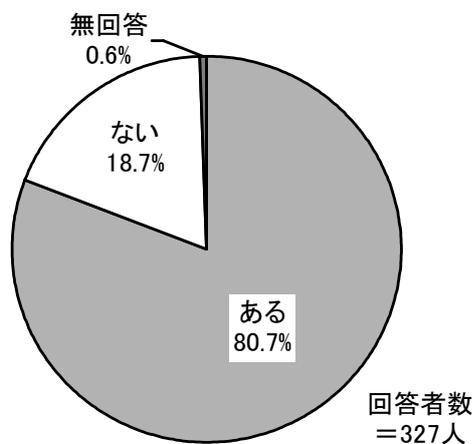
マンションやアパート等に居住している人の居住階数は、「1階」26.4%がもっとも高く、「3~5階」23.7%、「6階以上」21.3%と続いている。

2階以上に居住している場合のエレベーターの有無は、「ある」が80.7%を占める。

図表4-11 居住階数(単数回答)



図表4-12 エレベーターの有無(単数回答)



(7) 本人と配偶者の収入源、年収

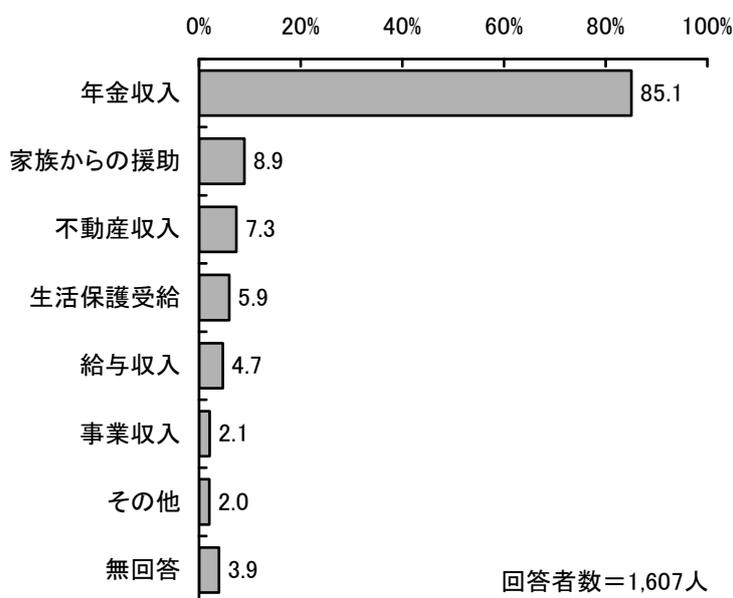
問7 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

問8 あなた(あて名のご本人)と配偶者(ひとり暮らしの方は、あなたのみ)の税込みの年収(年金を含む)の合計は、次のうちどれですか。(1つに○)

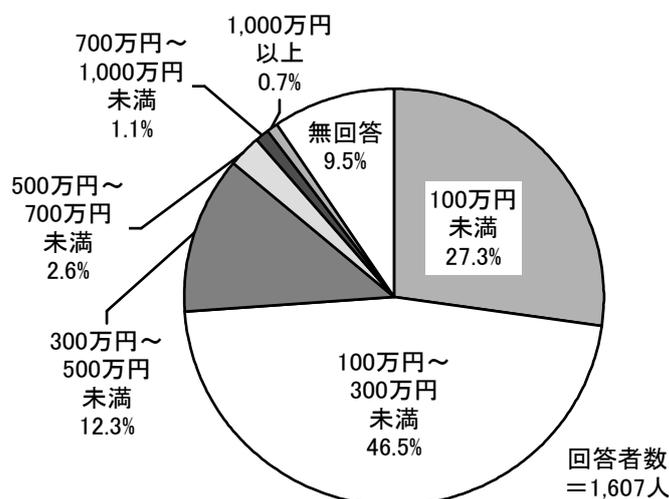
本人と配偶者の収入源は、「年金収入」が85.1%であり、他はいずれも1割を下回っている。

本人と配偶者の税込みの年収の合計は、「100万円～300万円未満」46.5%がもっとも高く、「100万円未満」27.3%、「300万円～500万円未満」12.3%と続く。300万円未満が全体の73.8%を占める。

図表4-13 本人と配偶者の収入源(複数回答)



図表4-14 本人と配偶者の年収(単数回答)



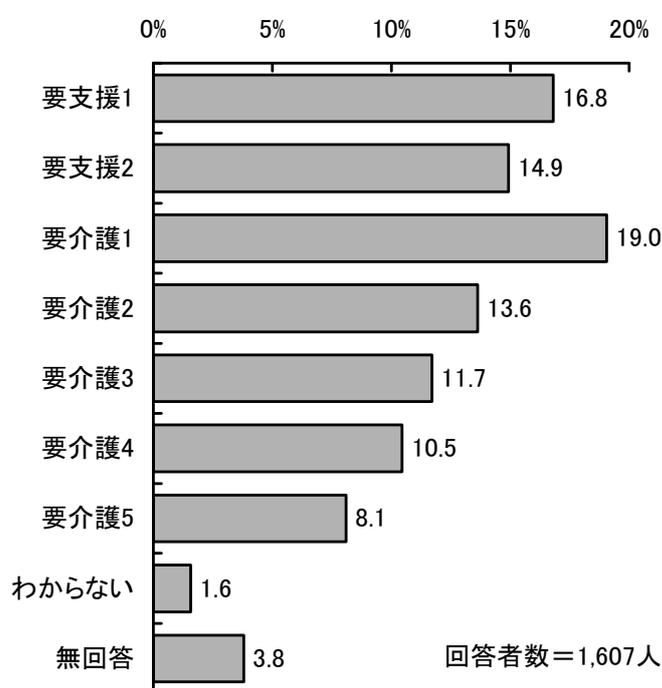
## 2. 要介護度及び健康について

### (1) 要介護度

問9 あなた(あて名のご本人)の現在の介護度は、次のどれですか。(1つに○)

要介護度は、「要介護1」19.0%、「要支援1」16.8%、「要支援2」14.9%の順となっている。「要支援1」と「要支援2」をあわせた要支援は31.7%、「要介護1」から「要介護2」は32.6%、「要介護3」から「要介護5」は30.3%を占めている。

図表4-15 要介護度(単数回答)

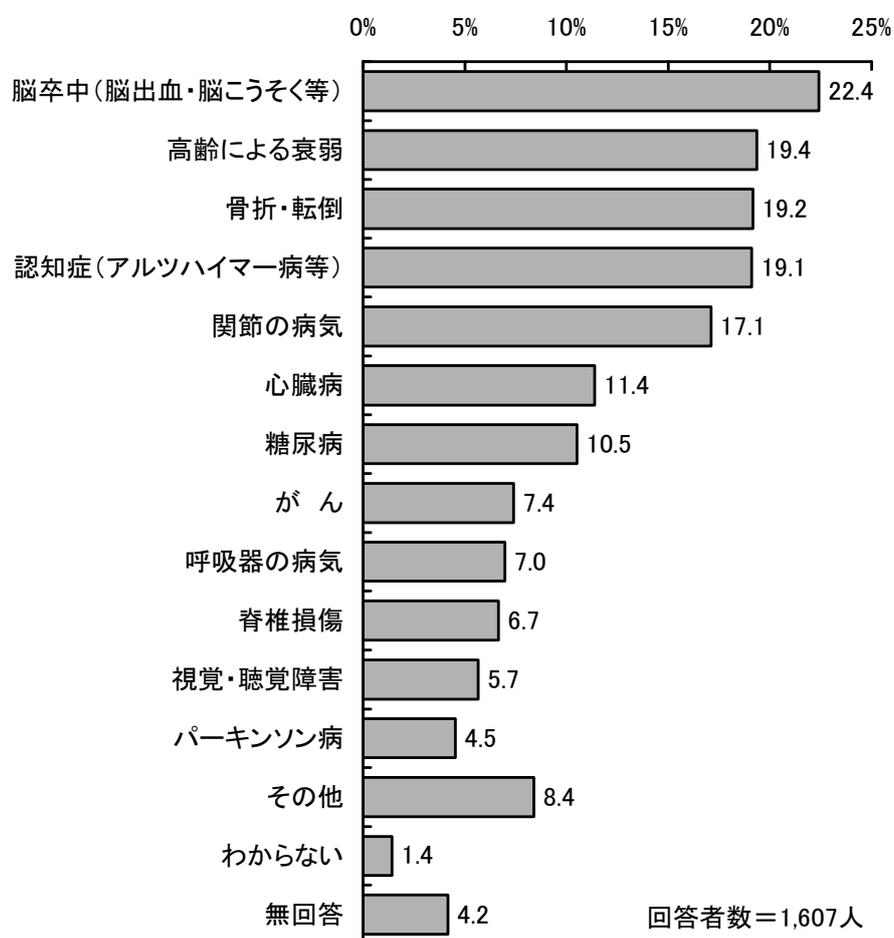


## (2) 支援や介護が必要となった原因

問 10 あなた(あて名のご本人)に、支援や介護が必要となったのは、どのようなことが原因でしたか。(あてはまるものすべてに○)

支援や介護が必要となった原因は、「脳卒中（脳出血・脳こうそく等）」22.4%、「高齢による衰弱」19.4%、「骨折・転倒」19.2%、「認知症（アルツハイマー病等）」19.1%の順となっている。

図表4-16 支援や介護が必要となった原因(複数回答)



要介護度別にみると、要支援1・2の人では「関節の病気」「高齢による衰弱」「骨折・転倒」が、原因の上位3項目となっている。要介護1の人では「認知症（アルツハイマー病等）」、要介護2～5の人では「脳卒中（脳出血・脳こうそく等）」が第1位である。

図表4-17 支援や介護が必要となった原因

	回答者数(人)	脳卒中(脳出血・脳こうそく等)	高齢による衰弱	骨折・転倒	認知症(アルツハイマー病等)	関節の病気	心臓病	糖尿病	がん	呼吸器の病気	脊椎損傷	視覚・聴覚障害	パーキンソン病	その他	
全体	1,607	22.4	19.4	19.2	19.1	17.1	11.4	10.5	7.4	7.0	6.7	5.7	4.5	8.4	
要介護度別	要支援1	270	13.3	20.4	18.5	6.7	28.9	14.4	11.9	9.3	9.3	6.3	5.9	3.0	7.4
	要支援2	240	18.3	18.3	18.3	5.0	23.8	13.3	13.8	7.9	6.7	10.8	5.8	3.3	12.1
	要介護1	306	18.0	18.3	19.0	24.8	15.0	8.5	7.8	7.5	4.9	4.9	6.9	3.3	10.5
	要介護2	219	23.7	21.0	16.9	19.6	11.4	9.1	8.7	4.6	7.8	7.8	6.4	4.1	7.8
	要介護3	188	30.9	20.2	21.8	29.3	11.7	11.7	10.1	6.9	5.3	6.9	5.9	7.4	7.4
	要介護4	168	31.0	17.9	22.6	29.8	11.9	10.1	11.9	10.7	7.1	6.0	6.0	5.4	7.1
	要介護5	130	39.2	21.5	19.2	34.6	11.5	10.8	10.8	3.8	10.0	3.8	3.8	9.2	3.8
	わからない	25	0.0	24.0	20.0	8.0	8.0	20.0	16.0	8.0	4.0	8.0	0.0	4.0	8.0

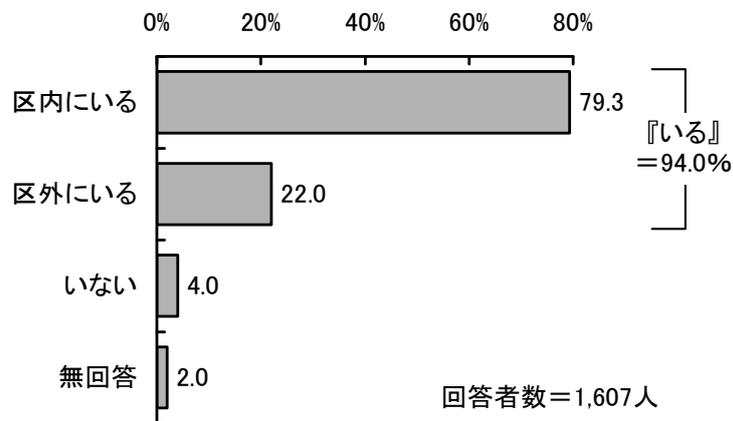
※「わからない」と「無回答」は掲載を省略している

### (3) かかりつけ医の有無

問 11 あなた(あて名のご本人)には、かかりつけの医師がいますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 242 頁参照】

かかりつけ医の有無は、「区内にいる」79.3%、「区外にいる」22.0%であり、『いる』が94.0%を占める。

図表4-18 かかりつけ医の有無(複数回答)



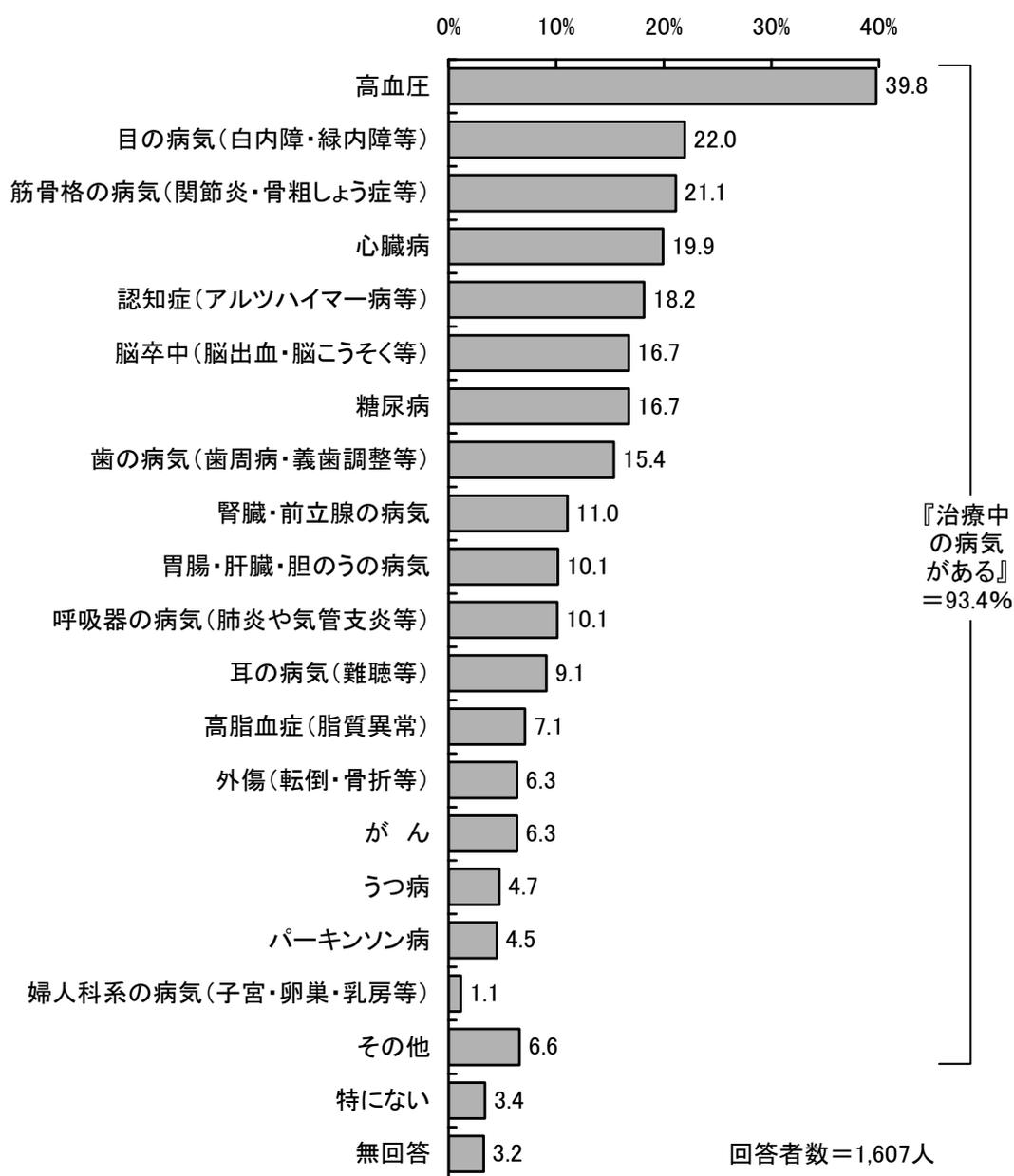
※『いる』=100% - 「いない」 - 「無回答」

#### (4) 現在治療中の病気

問 12 あなた(あて名のご本人)は、現在かかっている、または治療中の病気がありますか  
(あてはまるものすべてに○)

現在治療中の病気は、「高血圧」が 39.8%ともっとも高く、次いで、「目の病気（白内障・緑内障等）」22.0%、「筋骨格の病気（関節炎・骨粗しょう症等）」21.1%、「心臓病」19.9%、「認知症（アルツハイマー病等）」18.2%が続いている。

図表4-19 現在治療中の病気(複数回答)



※『治療中の病気がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

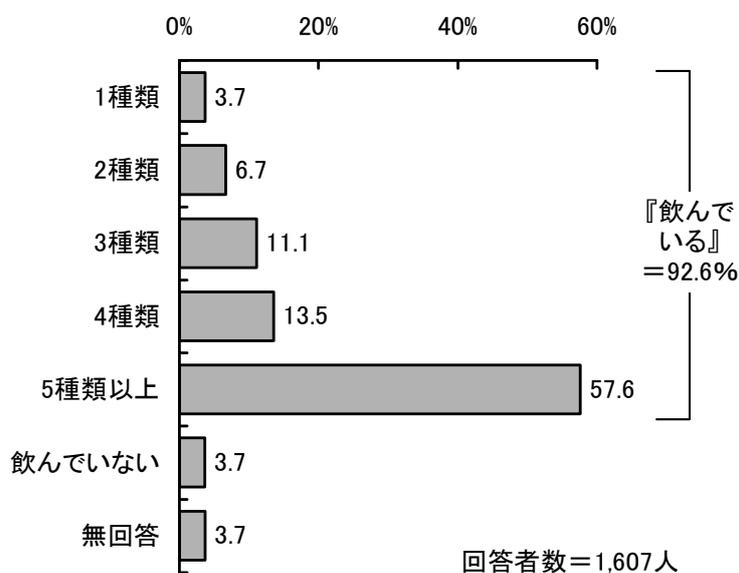
### (5) 飲んでいる薬の種類

問 13 あなた(あて名のご本人)は、現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。

(1つに○)

飲んでいる薬の種類は、「5種類以上」が57.6%と6割近くを占めている。「飲んでいない」は3.7%であった。

図表4-20 飲んでいる薬の種類(単数回答)



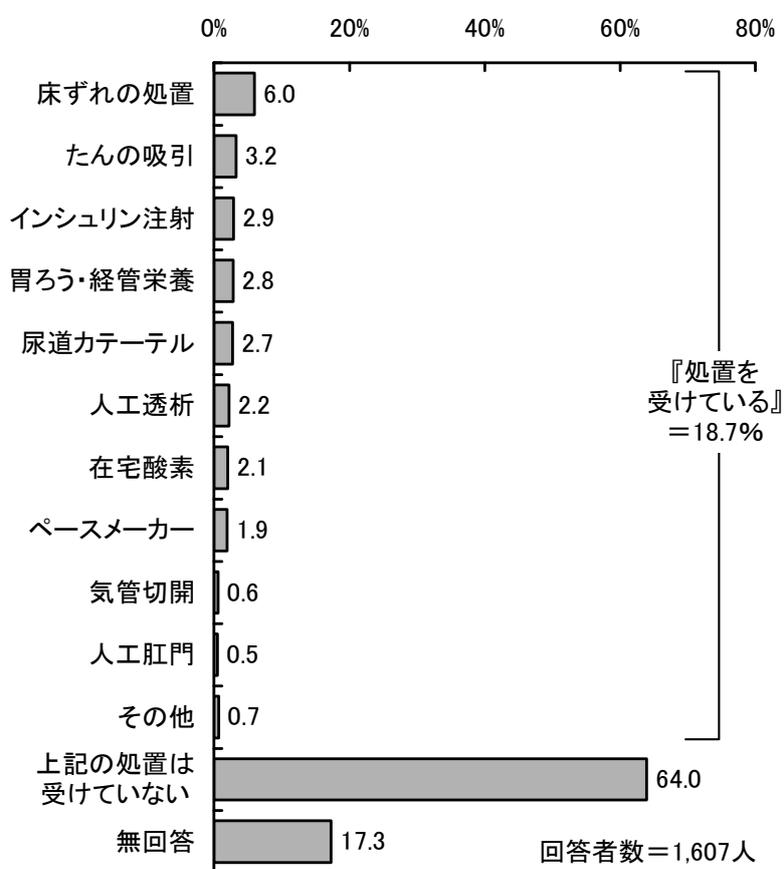
※『飲んでいる』 = 「1種類」 + 「2種類」 + 「3種類」 + 「4種類」 + 「5種類以上」

## (6) 医療処置の状況

問 14 あなた(あて名のご本人)は、次のような医療器具を利用したり、処置を受けたりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

医療処置の状況については、18.7%が『処置を受けている』と回答している。具体的には、「床ずれの処置」6.0%、「たんの吸引」3.2%、「インシュリン注射」2.9%、「胃ろう・経管栄養」2.8%、「尿道カテーテル」2.7%などとなっている。

図表4-21 医療処置の状況(複数回答)



※『処置を受けている』 = 100% - 「上記の処置は受けていない」 - 「無回答」

要介護度別にみると、介護度が高くなるに従って、『処置を受けている』割合も概ね高くなっており、要介護4の人は3割台、要介護5の人では5割台を占めている。

要介護5の人では、「床ずれの処置」を31.5%、「胃ろう・経管栄養」を25.4%、「たんの吸引」を21.5%が受けていると回答している。

図表4-22 医療処置の状況

	回答者数(人)	床ずれの処置	たんの吸引	インシュリン注射	胃ろう・経管栄養	尿道カテーテル	人工透析	在宅酸素	ペースメーカー	気管切開	人工肛門	その他	上記の処置は受けていない	『処置を受けている』	
全体	1,607	6.0	3.2	2.9	2.8	2.7	2.2	2.1	1.9	0.6	0.5	0.7	64.0	18.7	
要介護度別	要支援1	270	0.7	0.7	1.9	0.4	0.4	1.1	1.5	2.2	0.0	0.4	0.7	75.6	10.0
	要支援2	240	0.8	0.8	3.8	0.0	2.9	0.8	3.3	2.9	0.4	0.0	0.4	72.9	14.2
	要介護1	306	2.3	1.3	1.3	1.0	1.0	2.0	1.6	2.0	0.3	0.7	0.7	71.6	10.4
	要介護2	219	1.4	0.5	2.3	0.5	0.9	2.3	2.7	0.5	0.0	1.8	0.5	68.0	12.4
	要介護3	188	5.9	3.2	3.7	1.6	2.7	3.7	1.6	1.6	1.6	0.0	1.6	59.6	20.7
	要介護4	168	16.7	4.8	4.2	1.8	6.0	3.0	2.4	1.8	0.6	0.6	0.6	53.6	32.7
	要介護5	130	31.5	21.5	3.1	25.4	10.8	3.1	2.3	3.1	2.3	0.0	0.8	34.6	56.9
	わからない	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	12.0

※「無回答」は掲載を省略している

※『処置を受けている』=100%－「上記の処置は受けていない」－「無回答」

### 3. 日常生活の状況について

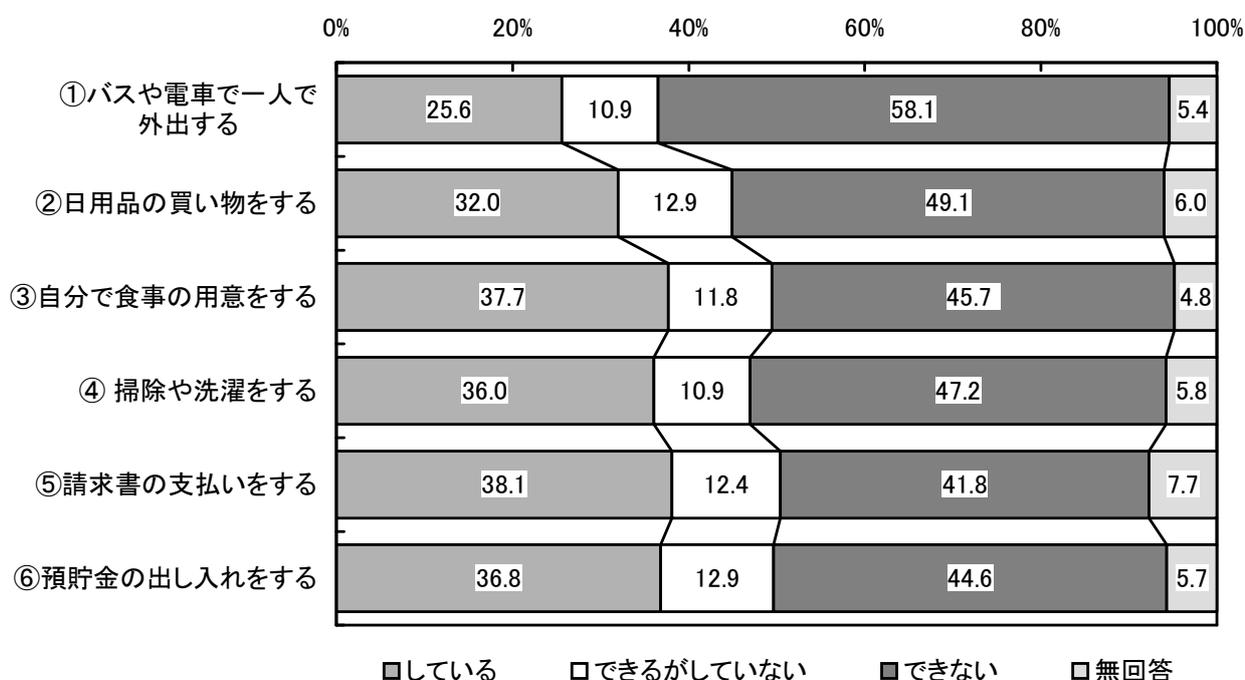
#### (1) 手段的日常生活動作 (IADL)・日常生活動作 (ADL) の自立度

問 15 あなた(あて名のご本人)の日常生活等についておうかがいします。①～⑰について、それぞれあてはまる番号1つに○をしてください。【比較調査 244 参照】

#### ①手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

要支援 1 から要介護 2 の人の手段的日常生活動作 ( I A D L ) の自立度をみると、「している」割合は、“①バスや電車で一人で外出する”が 2 割台、その他の項目はいずれも 3 割台であり、いずれの項目も「できない」がもっとも高い割合を占めている。

図表4-23 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度 (各単数回答)

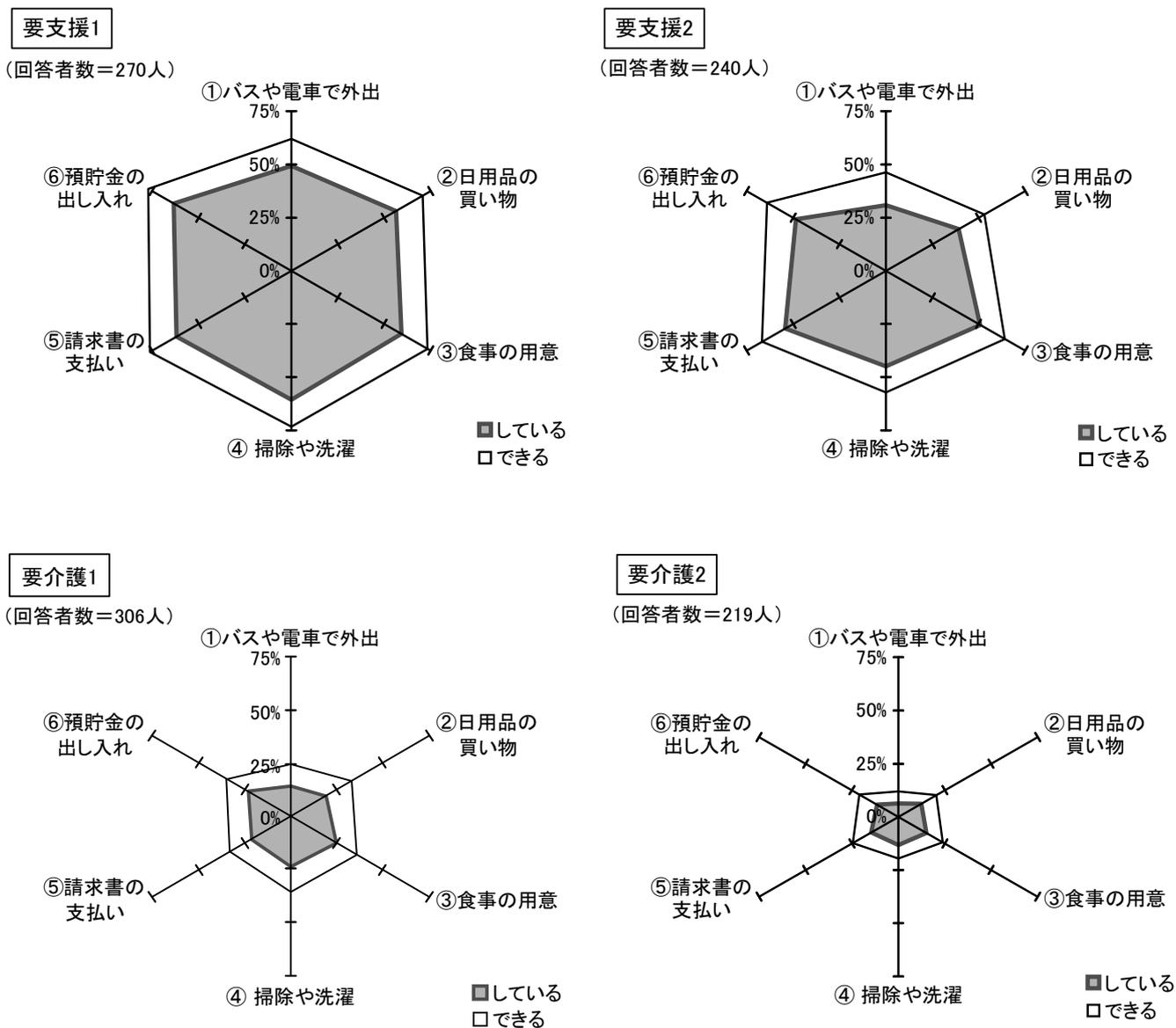


回答者数=1,035人

※手段的日常生活動作 ( I A D L ) については、6 ページ参照

要介護度別にみると、「している」割合（下図のグレーの網掛け部分）、『できる』割合（下図の外側の枠）とも、介護度が高くなるほど低下することがわかる。特に、要支援2と要介護1との差が顕著となっている。

図表4-24 要介護度別手段的日常生活動作(IADL)の自立度



※各項目の「している」、「できる」(「している」+「できるがしていない」)割合を掲載している

図表4-25 手段的日常生活動作(IADL)の自立度

		回答者数(人)	①バスや電車で外出			②日用品の買い物			③食事の用意			
			している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	
全体		1,035	25.6	10.9	58.1	32.0	12.9	49.1	37.7	11.8	45.7	
要介護度別	要支援	要支援	510	40.6	13.9	41.2	48.2	14.1	33.5	55.3	13.7	27.5
		要支援 1	270	49.3	12.6	33.7	56.3	14.4	25.6	59.3	14.1	23.3
		要支援 2	240	30.8	15.4	49.6	39.2	13.8	42.5	50.8	13.3	32.1
	要介護	要介護 1・2	525	11.0	8.0	74.5	16.2	11.8	64.2	20.6	9.9	63.4
		要介護 1	306	14.4	9.8	69.0	19.0	14.4	57.8	24.5	10.8	57.8
		要介護 2	219	6.4	5.5	82.2	12.3	8.2	73.1	15.1	8.7	71.2

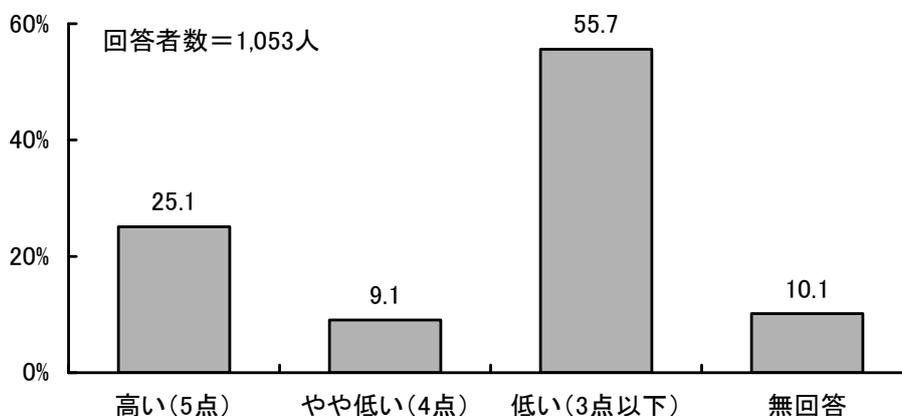
		回答者数(人)	④掃除や洗濯			⑤請求書の支払い			⑥預貯金の出し入れ			
			している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	している	していない できるが	できない	
全体		1,035	36.0	10.9	47.2	38.1	12.4	41.8	36.8	12.9	44.6	
要介護度別	要支援	要支援	510	53.3	12.4	29.8	58.2	13.5	21.4	56.3	14.7	24.9
		要支援 1	270	60.7	12.6	21.9	61.9	14.4	16.3	63.3	13.7	18.9
		要支援 2	240	45.0	12.1	38.8	54.2	12.5	27.1	48.3	15.8	31.7
	要介護	要介護 1・2	525	19.2	9.5	64.2	18.5	11.2	61.7	17.9	11.0	63.8
		要介護 1	306	23.5	11.8	56.5	21.2	12.1	56.9	22.5	12.1	58.2
		要介護 2	219	13.2	6.4	74.9	14.6	10.0	68.5	11.4	9.6	71.7

※「無回答」は掲載を省略している

手段的日常生活動作（IADL）に関する①～③・⑤・⑥の項目を5点満点となるよう点数化し、集計した結果（点数化の基準については6ページ参照）をみると、「高い（5点）」は25.1%であり、「低い（3点以下）」が55.7%と5割台を占めている。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど自立度が低下しているが、要支援と要介護で大きな差があることがわかる。要支援の人では「高い（5点）」が4割台を占め、「低い（3点以下）」は3割台であるが、要介護1・2の人では「高い（5点）」は9.7%と約1割にとどまっており、「低い（3点以下）」が73.9%を占める。

図表4-26 手段的日常生活動作(IADL)得点



図表4-27 手段的日常生活動作(IADL)得点

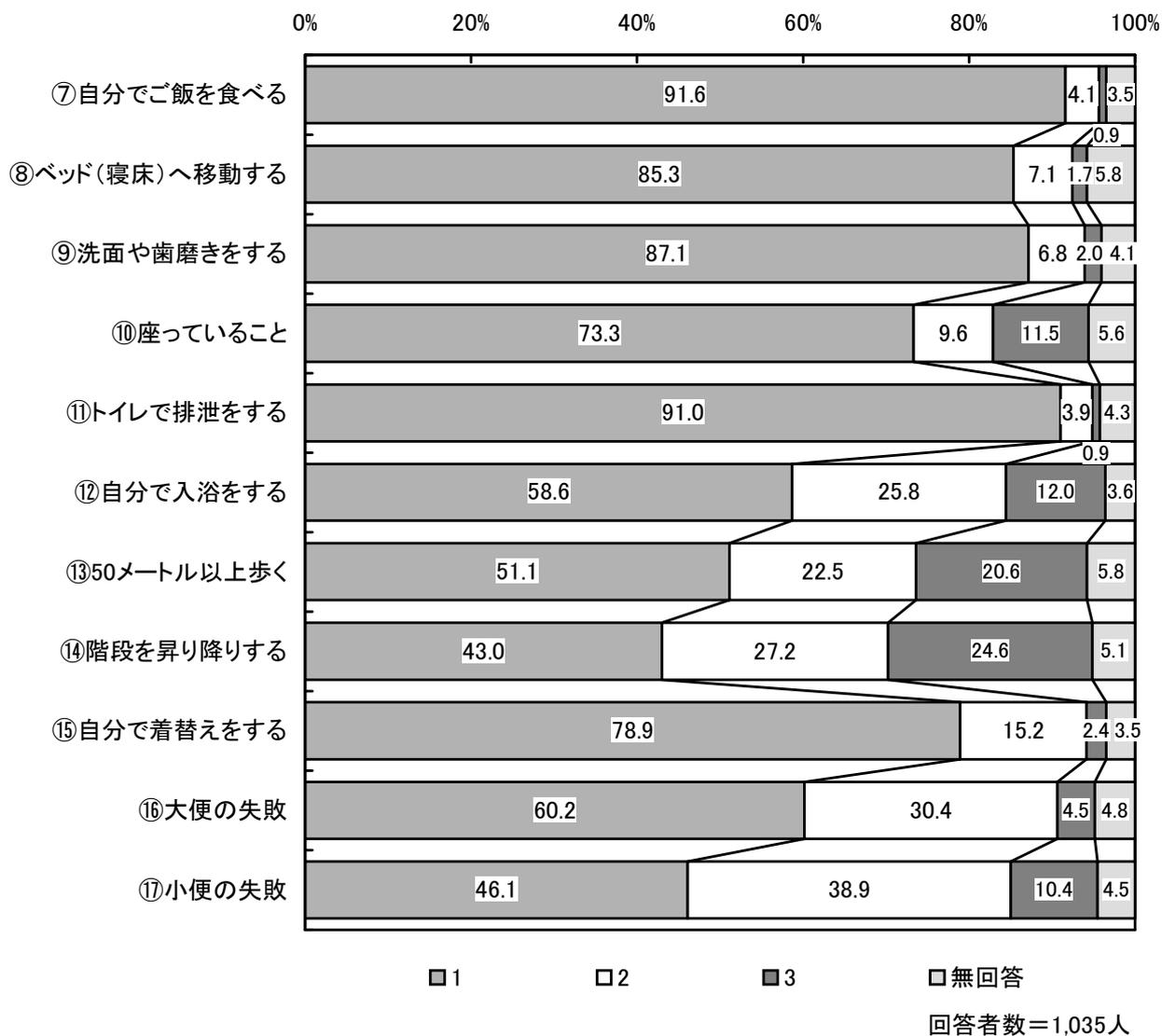
		回答者数(人)	高い(5点)	やや低い(4点)	低い(3点以下)	無回答	平均得点(点)	
全体		1,035	25.1	9.1	55.7	10.1	2.41	
要介護度別	要支援	要支援	510	41.0	13.1	36.9	9.0	3.42
		要支援1	270	47.4	13.3	29.3	10.0	3.76
		要支援2	240	33.8	12.9	45.4	7.9	3.04
	要介護	要介護1・2	525	9.7	5.1	73.9	11.2	1.40
		要介護1	306	11.4	6.5	69.3	12.7	1.67
		要介護2	219	7.3	3.2	80.4	9.1	1.04

## ②日常生活動作(ADL)の自立度

要支援1から要介護2の人の日常生活動作(ADL)の自立度をみると、⑦～⑮の各項目について「できる」割合は、“⑦自分でご飯を食べる”“⑪トイレで排泄をする”が9割台と高く、一方、“⑫自分で入浴をする”“⑬50メートル以上歩く”は5割台、もっとも割合が低い“⑭階段を昇り降りする”は4割台となっている。

また、“⑯大便の失敗”が「ない」は約6割、“⑰小便の失敗”が「ない」は4割台であった。

図表4-28 日常生活動作(ADL)の自立度(各単数回答)



※⑦～⑨、⑪～⑮の選択肢は、「1. できる」「2. 介助があればできる」「3. できない」

⑩の選択肢は、「1. できる」「2. 支えが必要」「3. できない」

⑯・⑰の選択肢は、「1. ない」「2. ときどきある」「3. よくある」

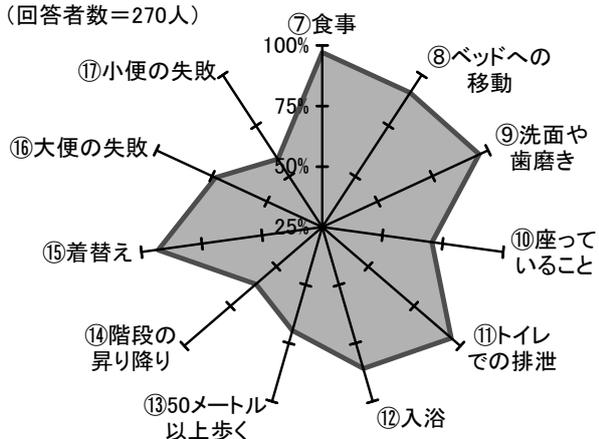
※日常生活動作(ADL)については、6ページ参照

要介護度別にみると、“⑫入浴”“⑬50メートル以上歩く”“⑭階段の昇り降り”“⑮着替え”“⑯大便の失敗”“⑰小便の失敗”は、介護度が高くなるほど「できる」(⑯・⑰は「ない」)割合が大きく低下している。なかでも“⑫入浴”は、要支援1の人の85.9%が「できる」一方、要介護2の人では28.3%と自立度の低下が顕著である。

図表4-29 要介護度別日常生活動作(ADL)の自立度

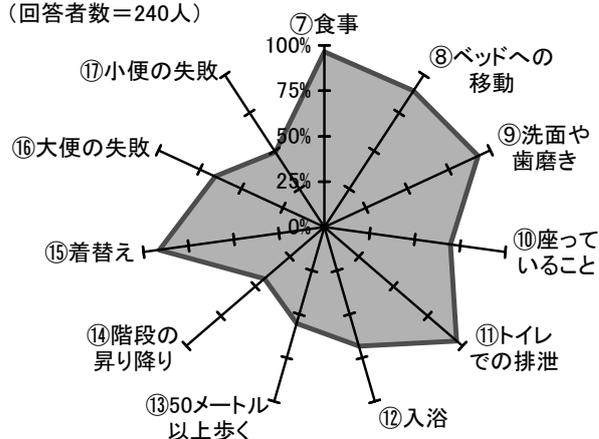
要支援1

(回答者数=270人)



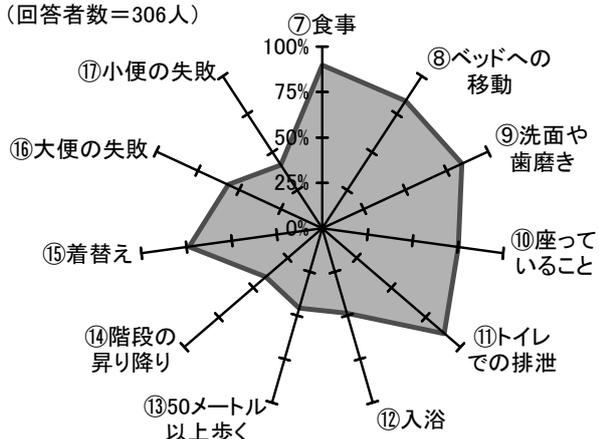
要支援2

(回答者数=240人)



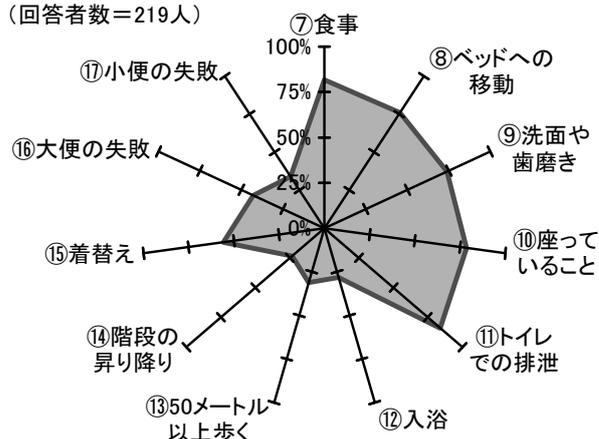
要介護1

(回答者数=306人)



要介護2

(回答者数=219人)



※⑦～⑮は「できる」、⑯・⑰は「ない」割合を掲載している

図表4-30 日常生活動作(ADL)の自立度

		回答者数(人)	⑦食事			⑧ベッドへの移動			⑨洗面や歯磨き			⑩座っていること			
			できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	支 え が 必 要	できない	
全体		1,035	91.6	4.1	0.9	85.3	7.1	1.7	87.1	6.8	2.0	73.3	9.6	11.5	
要介護度別	要支援	要支援	510	96.9	0.6	0.4	90.4	4.1	0.8	94.5	1.6	1.0	70.0	9.0	15.5
		要支援1	270	97.0	0.7	0.0	91.1	4.1	0.7	95.9	0.7	0.0	70.4	6.7	17.0
		要支援2	240	96.7	0.4	0.8	89.6	4.2	0.8	92.9	2.5	2.1	69.6	11.7	13.8
	要介護	要介護1・2	525	86.5	7.4	1.3	80.4	10.1	2.7	80.0	11.8	3.0	76.6	10.1	7.6
		要介護1	306	89.9	3.6	1.3	83.7	5.9	2.6	84.3	7.5	2.3	75.2	9.8	8.2
		要介護2	219	81.7	12.8	1.4	75.8	16.0	2.7	74.0	17.8	4.1	78.5	10.5	6.8

		回答者数(人)	⑪トイレでの排泄			⑫入浴			⑬50メートル以上歩く			⑭階段の昇り降り			
			できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	
全体		1,035	91.0	3.9	0.9	58.6	25.8	12.0	51.1	22.5	20.6	43.0	27.2	24.6	
要介護度別	要支援	要支援	510	95.5	1.8	0.2	77.6	14.5	5.3	62.9	19.0	13.9	52.7	23.7	19.6
		要支援1	270	95.2	1.9	0.4	85.9	10.0	1.9	69.6	14.8	11.5	61.1	20.0	15.2
		要支援2	240	95.8	1.7	0.0	68.3	19.6	9.2	55.4	23.8	16.7	43.3	27.9	24.6
	要介護	要介護1・2	525	86.7	5.9	1.5	40.2	36.8	18.5	39.6	25.9	27.0	33.5	30.7	29.5
		要介護1	306	88.6	2.9	1.6	48.7	31.0	14.7	45.8	24.5	21.6	40.8	26.5	25.8
		要介護2	219	84.0	10.0	1.4	28.3	44.7	23.7	31.1	27.9	34.7	23.3	36.5	34.7

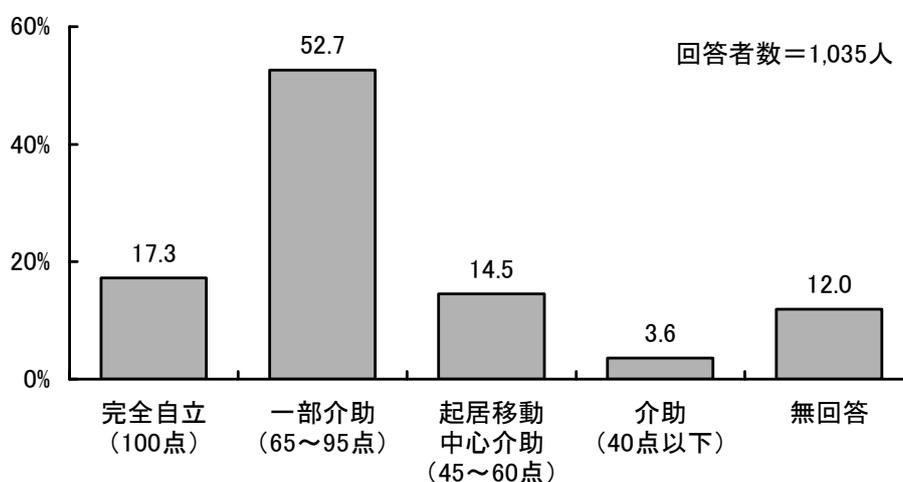
		回答者数(人)	⑮着替え			⑯大便の失敗			⑰小便の失敗			
			できる	ば 介 助 が あ れ ば で き る	できない	ない	ある とき ど き	よくある	ない	ある とき ど き	よくある	
全体		1,035	78.9	15.2	2.4	60.2	30.4	4.5	46.1	38.9	10.4	
要介護度別	要支援	要支援	510	92.2	5.5	0.4	69.8	24.3	2.5	54.1	34.9	7.3
		要支援1	270	93.0	4.8	0.0	73.3	20.7	2.2	58.5	30.4	6.7
		要支援2	240	91.3	6.3	0.8	65.8	28.3	2.9	49.2	40.0	7.9
	要介護	要介護1・2	525	66.1	24.6	4.4	50.9	36.4	6.5	38.3	42.9	13.5
		要介護1	306	73.5	16.0	4.2	56.5	30.4	5.6	41.5	37.9	13.7
		要介護2	219	55.7	36.5	4.6	42.9	44.7	7.8	33.8	49.8	13.2

※「無回答」は掲載を省略している

日常生活動作（ADL）の自立度に関する⑦～⑰の項目を100点満点となるよう点数化し、集計した結果（点数化の基準については6ページ参照）をみると、「完全自立（100点）」は17.3%であり、「一部介助（65～95点）」が52.7%ともっとも高い。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど徐々に平均得点が下がり、自立度が低下していることがわかる。要支援の人では「一部介助（65～95点）」54.1%に次いで、「完全自立（100点）」24.7%となるが、要介護1・2の人では「一部介助（65～95点）」51.2%に次いで、「起居移動中心介助（45～60点）」が20.2%となっている。

図表4-31 日常生活動作(ADL)得点



図表4-32 日常生活動作(ADL)得点

		回答者数(人)	完全自立(100点)	一部介助(65~95点)	起居移動中心介助(45~60点)	介助(40点以下)	無回答	平均得点(点)	
全体		1,035	17.3	52.7	14.5	3.6	12.0	78.68	
要介護度別	要支援	要支援	510	24.7	54.1	8.6	1.0	11.6	84.51
		要支援1	270	33.0	47.8	6.3	0.7	12.2	87.45
		要支援2	240	15.4	61.3	11.3	1.3	10.8	81.26
	要介護	要介護1・2	525	10.1	51.2	20.2	6.1	12.4	72.97
		要介護1	306	13.4	52.3	17.3	3.3	13.7	77.08
		要介護2	219	5.5	49.8	24.2	10.0	10.5	67.42

## (2)生活機能の状況

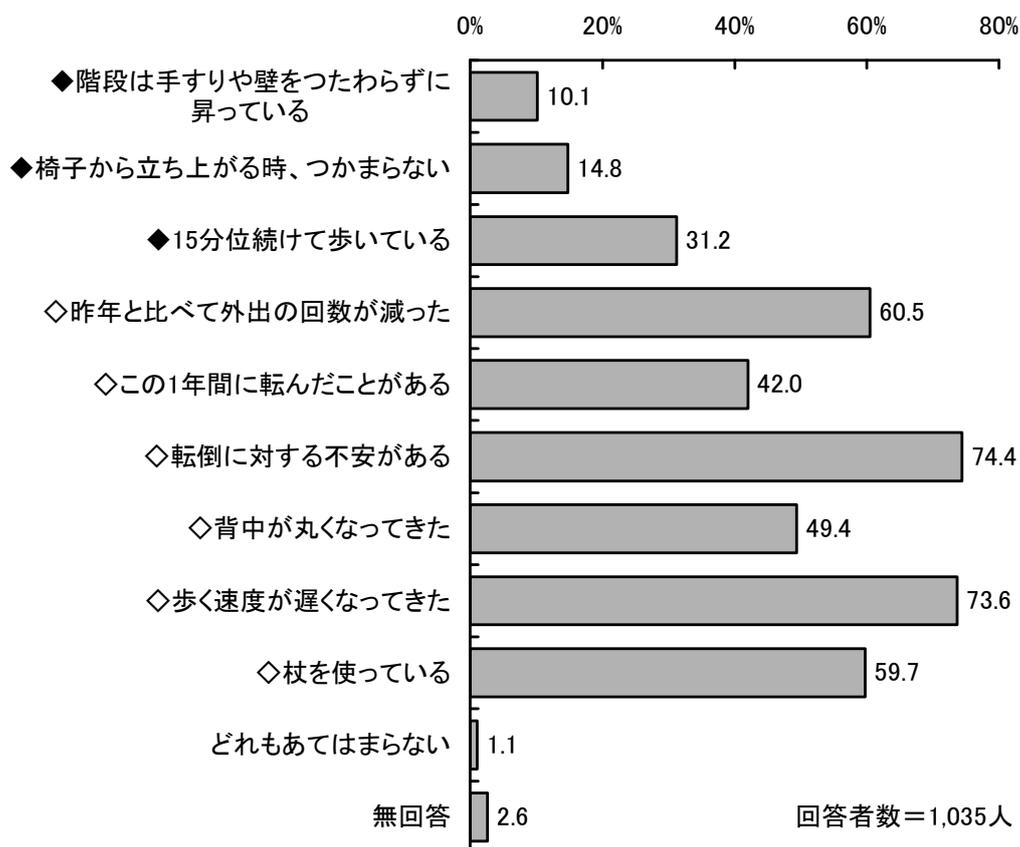
問 16 以下の①～④のすべてについて、あなた(あて名のご本人)に「あてはまる」ことに○をしてください。【比較調査 245～248 参照】

### ①運動や転倒の状況

要支援 1 から要介護 2 の人の運動や転倒の状況をみると、前半 3 項目の肯定的な内容のうち、「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」は 1 割台、「15 分位続けて歩いている」は 3 割台の回答にとどまっている。

一方、後半 6 項目の否定的な内容をみると、「転倒に対する不安がある」「歩く速度が遅くなってきた」が 7 割を超え、次いで「昨年と比べて外出の回数が減った」「杖を使っている」と約 6 割が回答している。

図表4-33 運動や転倒の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

要介護度別にみると、肯定的な内容である「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」「15分続けて歩いている」は、要支援の人の方が割合が高い。

否定的な内容のうち、要支援の人は「昨年と比べて外出の回数が減った」「歩く速度が遅くなってきた」「杖を使っている」の割合が、要介護1・2の人は「この1年間に転んだことがある」「転倒に対する不安がある」「背中が丸くなってきた」の割合が、比較的高くなっている。

図表4-34 運動や転倒の状況

		回答者数(人)	階段は手すりや壁をつたわずに昇っている	椅子から立ち上がる時、つかまらない	15分位続けて歩いている	昨年と比べて外出の回数が減った	この1年間に転んだことがある	転倒に対する不安がある	背中が丸くなってきた	歩く速度が遅くなってきた	杖を使っている	どれもあてはまらない	無回答
全体		1,035	10.1	14.8	31.2	60.5	42.0	74.4	49.4	73.6	59.7	1.1	2.6
要介護度別	要支援	510	13.3	18.0	40.4	64.5	41.0	74.1	48.8	78.8	62.5	0.4	1.8
	要支援1	270	14.8	21.5	44.1	64.1	41.1	71.5	47.4	81.9	57.0	0.4	2.2
	要支援2	240	11.7	14.2	36.3	65.0	40.8	77.1	50.4	75.4	68.8	0.4	1.3
	要介護1・2	525	7.0	11.6	22.3	56.6	43.0	74.7	49.9	68.6	57.0	1.7	3.4
	要介護1	306	9.2	13.7	28.8	57.8	40.8	74.5	47.4	71.2	56.9	1.3	3.6
	要介護2	219	4.1	8.7	13.2	54.8	46.1	74.9	53.4	64.8	57.1	2.3	3.2

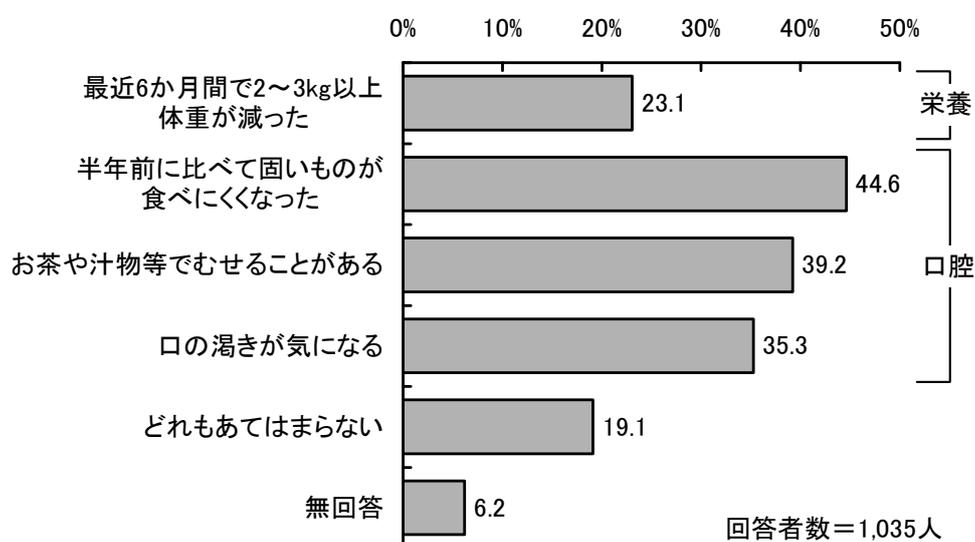
## ②栄養や口腔機能の状況

要支援1から要介護2の人の栄養や口腔機能の状況をみると、栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は23.1%となっている。

また、口腔機能に関しては、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」が4割台、「お茶や汁物等でむせることがある」「口の渇きが気になる」が3割台となっている。

要介護度別にみると、口腔機能に関する3項目のうち、「お茶や汁物等でむせることがある」「口の渇きが気になる」は、要支援の人の方が特に割合が高くなっている。

図表4-35 栄養や口腔機能の状況(複数回答)



図表4-36 栄養や口腔機能の状況

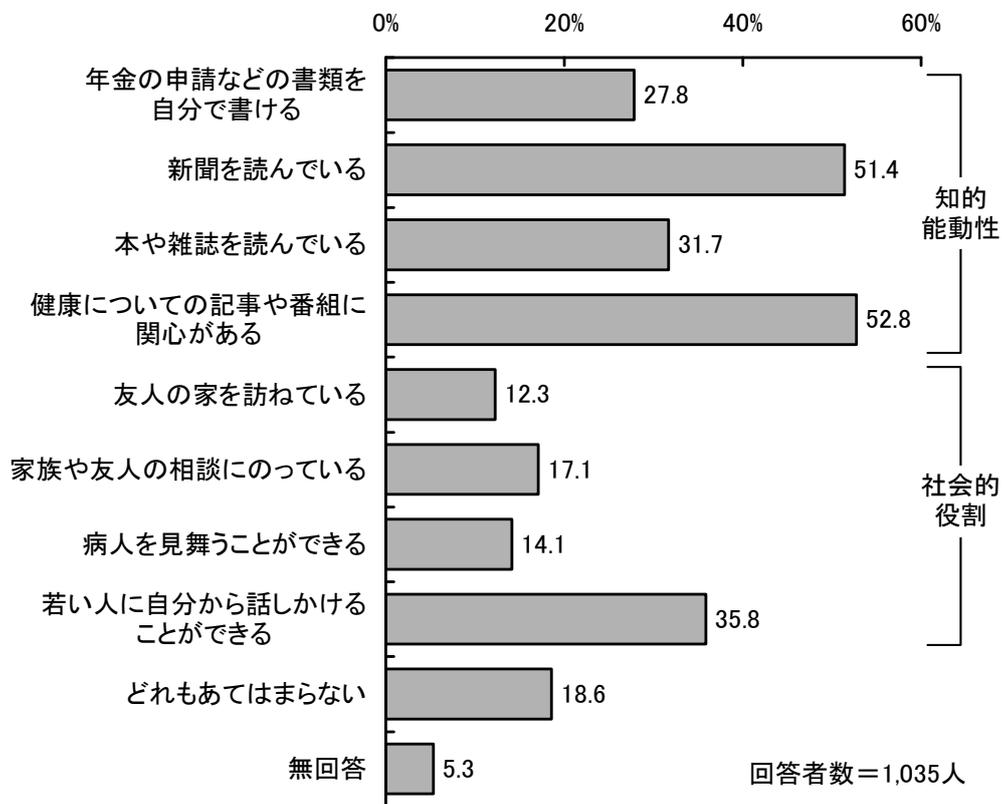
		回答者数(人)	最近6か月間で2～3kg以上体重が減った	半年前に比べて固いものが食べにくくなった	お茶や汁物等でむせることがある	口の渇きが気になる	どれもあてはまらない	無回答	
全体		1,035	23.1	44.6	39.2	35.3	19.1	6.2	
要介護度別	要支援	要支援	510	22.4	45.3	42.5	38.8	18.6	4.5
		要支援1	270	24.4	47.4	41.5	39.3	17.8	3.7
		要支援2	240	20.0	42.9	43.8	38.3	19.6	5.4
	要介護	要介護1・2	525	23.8	44.0	36.0	31.8	19.6	7.8
		要介護1	306	26.5	42.8	32.4	30.1	19.3	8.8
		要介護2	219	20.1	45.7	41.1	34.2	20.1	6.4

### ③社会活動の状況

要支援1から要介護2の人の社会活動の状況をみると、前半4項目の知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）に関しては、「健康についての記事や番組に関心がある」「新聞を読んでいる」は5割台であるものの、「年金の申請などの書類を自分で書ける」「本や雑誌を読んでいる」は3割前後となっている。

後半4項目の社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）に関しては、もっとも割合の高い「若い人に話しかけることができる」で3割台であり、他の「家族や友人の相談にのっている」「病人を見舞うことができる」「友人の家を訪ねている」はそれぞれ1割台にとどまっている。

図表4-37 社会活動の状況(複数回答)



要介護度別にみると、知的能動性に関する4項目、社会的役割に関する4項目ともに、介護度が高くなるほど割合が低くなっている。特に、知的能動性に関する「年金の申請などの書類を自分で書ける」「健康についての記事や番組に関心がある」は、要支援と要介護では大きな差がある。

図表4-38 社会活動の状況

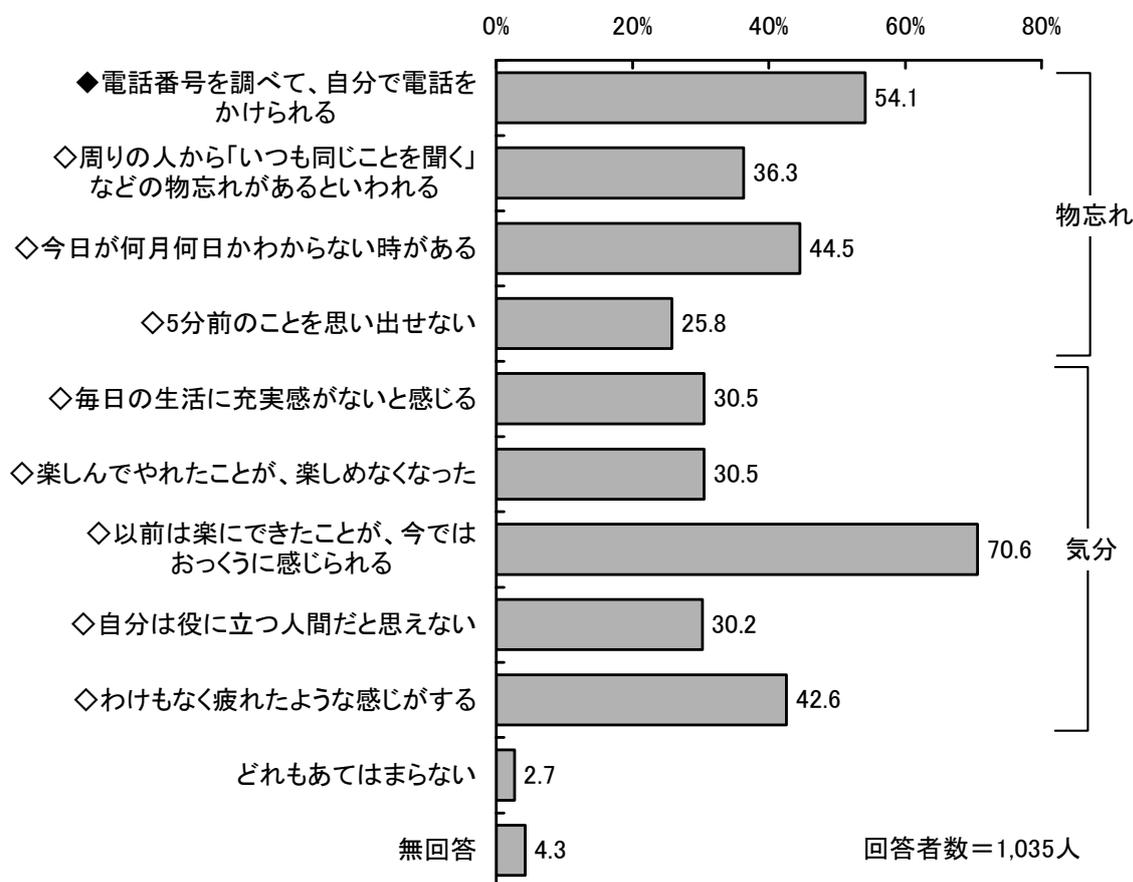
		回答者数(人)	知的能動性				社会的役割				どれもあてはまらない	無回答	
			年金の申請などの書類を自分で書ける	新聞を読んでいる	本や雑誌を読んでいる	健康についての記事や番組に関心がある	友人の家を訪ねている	家族や友人の相談にのっている	病人を見舞うことができる	若い人に自分から話しかけることができる			
全体		1,035	27.8	51.4	31.7	52.8	12.3	17.1	14.1	35.8	18.6	5.3	
要介護度別	要支援	要支援	510	41.2	61.8	39.0	70.0	18.0	23.9	20.6	40.4	8.8	3.9
		要支援1	270	45.9	66.7	40.7	71.9	21.9	25.9	25.6	40.4	7.8	4.1
		要支援2	240	35.8	56.3	37.1	67.9	13.8	21.7	15.0	40.4	10.0	3.8
	要介護	要介護1・2	525	14.9	41.3	24.6	36.0	6.7	10.5	7.8	31.4	28.0	6.7
		要介護1	306	14.4	44.8	26.5	38.2	9.2	11.4	9.5	32.7	24.2	7.2
		要介護2	219	15.5	36.5	21.9	32.9	3.2	9.1	5.5	29.7	33.3	5.9

#### ④物忘れや気分の状況

要支援1から要介護2の人の物忘れや気分の状況をみると、前半4項目の物忘れの状況のうち、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は5割台であり、否定的な内容である「今日が何月何日かわからない時がある」が4割台、「周りの人から“いつも同じことを聞く”などの物忘れがあるといわれる」が3割台となっている。

後半5項目の気分の状況に関しては、約7割が「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」と回答し、次いで「わけもなく疲れたような感じがする」が4割台となっている。

図表4-39 物忘れや気分の状況(複数回答)



※◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

要介護度別にみると、物忘れに関する4項目については、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は要支援、否定的な内容である「周りの人から“いつも同じことを聞く”などの物忘れがあるといわれる」「今日が何月何日かわからない時がある」「5分前のことを思い出せない」は要介護1・2の人の方が高くなっている。

一方で、気分に関する5項目については、いずれも要介護1・2の人よりも要支援の人の方が割合が高くなっている。

図表4-40 物忘れや気分の状況

		回答者数(人)	物忘れ				気分					どれもあてはまらない	無回答
			電話番号を調べて、自分で電話をかけられる	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれる	今日が何月何日かわからない時がある	5分前のことを思い出せない	毎日の生活に充実感がないと感じる	楽しんでやれたことが、楽しめなくなつた	以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる	自分は役に立つ人間だと思えない	わけもなく疲れたような感じがする		
全 体		1,035	54.1	36.3	44.5	25.8	30.5	30.5	70.6	30.2	42.6	2.7	4.3
要介護度別	要支援	510	70.0	27.1	36.5	18.0	31.2	31.2	75.1	32.5	48.0	2.0	3.1
	要支援1	270	73.0	27.0	36.3	15.9	27.4	26.7	73.3	25.6	50.4	2.2	2.6
	要支援2	240	66.7	27.1	36.7	20.4	35.4	36.3	77.1	40.4	45.4	1.7	3.8
	要介護1・2	525	38.7	45.3	52.4	33.3	29.9	29.9	66.3	28.0	37.3	3.4	5.3
	要介護1	306	42.5	47.1	52.9	35.9	32.0	31.0	69.0	30.1	41.2	1.6	5.2
	要介護2	219	33.3	42.9	51.6	29.7	26.9	28.3	62.6	25.1	32.0	5.9	5.5

### ⑤その日の活動の判断の可否、意思の伝達の可否

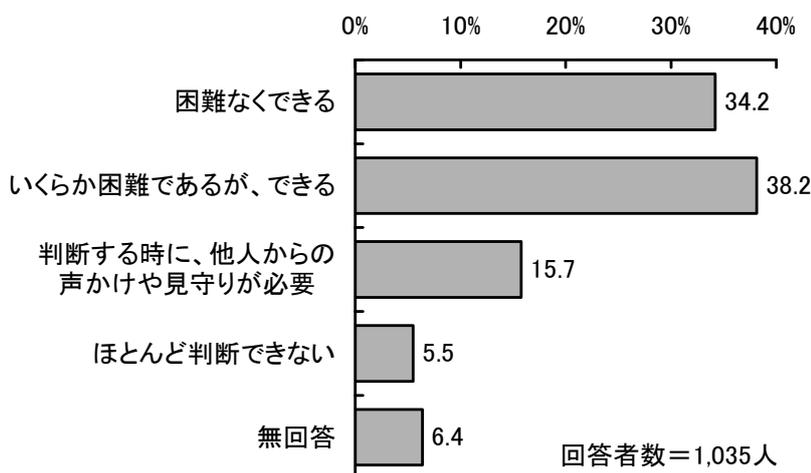
問 17 あなた(あて名のご本人)は、その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(1つに○)

問 18 あなた(あて名のご本人)は、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

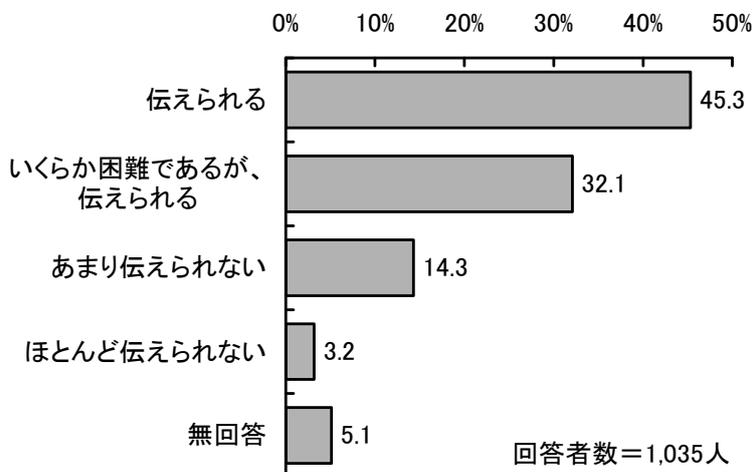
要支援1から要介護2の人のその日の活動の判断については、「いくらか困難であるが、できる」38.2%がもっとも高く、「困難なくできる」は34.2%となっている。「ほとんど判断できない」は5.5%であった。

意思の伝達については、「伝えられる」は45.3%であり、「いくらか困難であるが、伝えられる」32.1%とあわせると、8割弱が伝えられる状況にある。

図表4-41 その日の活動の判断の可否(単数回答)



図表4-42 意思の伝達の可否(単数回答)



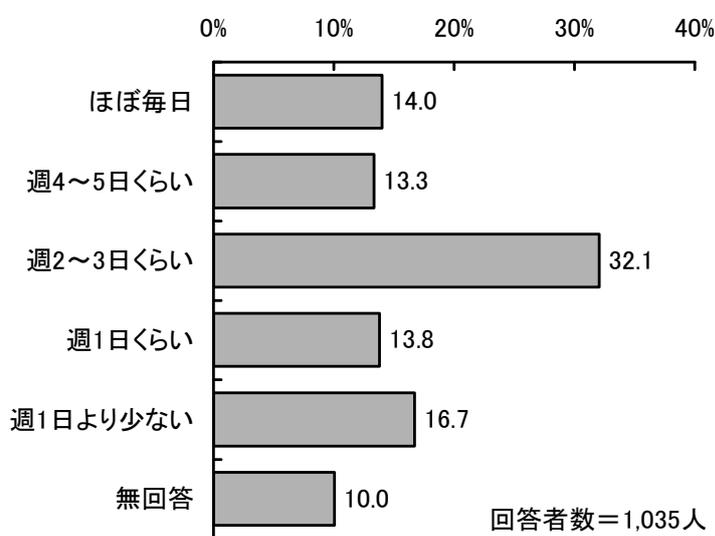
### (3)外出頻度

問 19 あなた(あて名のご本人)は、どのくらい外出をしていますか。(1つに○)

要支援1から要介護2の人の外出頻度は、「週2～3日くらい」32.1%がもっとも高く、次いで、閉じこもりリスクの高い「週1日より少ない」が16.7%で続いている。

要介護度別にみると、介護度が高くなるほど外出頻度は少なくなっており、「週1日より少ない」割合は、要支援の人では12.9%、要介護1・2の人で20.4%となっている。

図表4-43 外出頻度(単数回答)



図表4-44 外出頻度

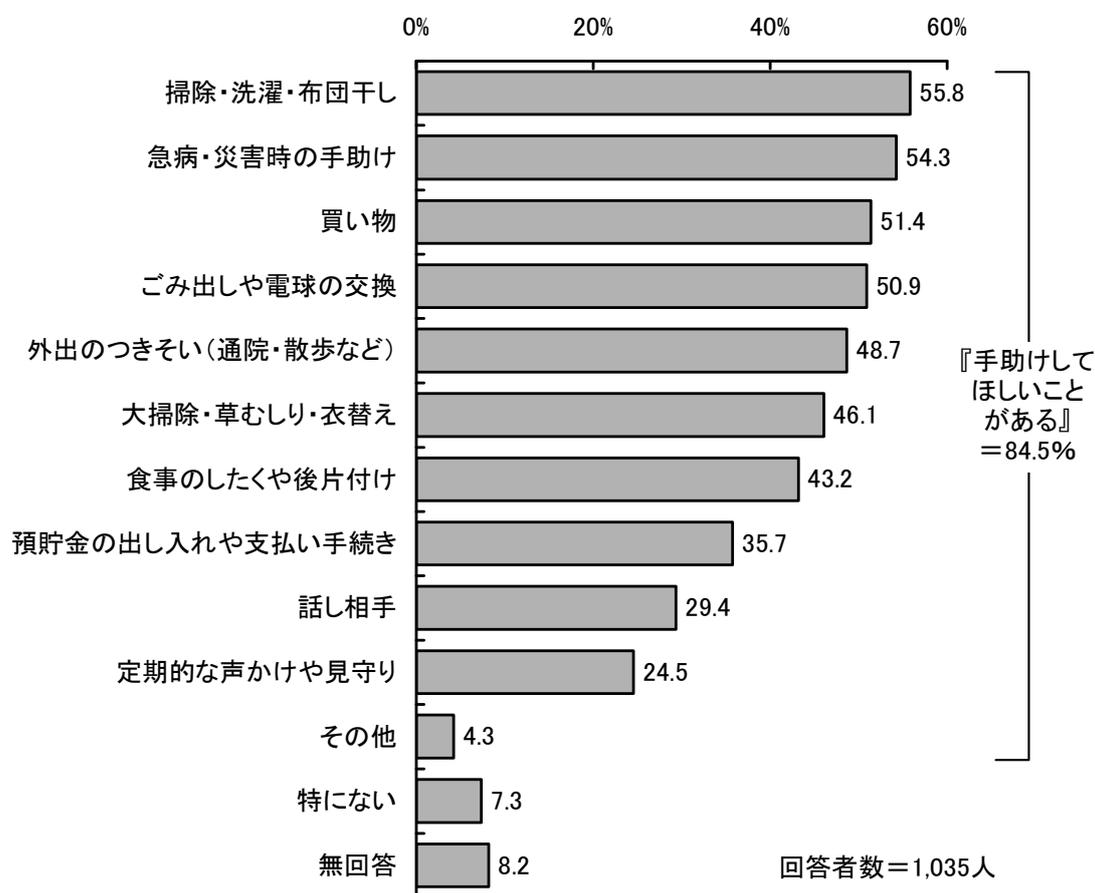
		回答者数(人)	ほぼ毎日	週4～5日くらい	週2～3日くらい	週1日くらい	週1日より少ない	無回答	
全体		1,035	14.0	13.3	32.1	13.8	16.7	10.0	
要介護度別	要支援	要支援	510	17.5	16.1	31.6	13.9	12.9	8.0
		要支援1	270	21.1	17.8	31.1	13.3	10.4	6.3
		要支援2	240	13.3	14.2	32.1	14.6	15.8	10.0
	要介護	要介護1・2	525	10.7	10.7	32.6	13.7	20.4	12.0
		要介護1	306	12.4	11.1	33.0	14.4	18.3	10.8
		要介護2	219	8.2	10.0	32.0	12.8	23.3	13.7

#### (4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

問 20 あなた(あて名のご本人)は、日常生活の中で、手助けしてほしいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 249 参照】

要支援 1 から要介護 2 の人の日常生活の中で手助けしてほしいことをみると、84.5%が『手助けしてほしいことがある』と回答している。具体的には、「掃除・洗濯・布団干し」「急病・災害時の手助け」「買い物」「ごみ出しや電球の交換」が 5 割を超え、「外出のつきそい(通院・散歩など)」「大掃除・草むしり・衣替え」「食事のしたくや後片付け」が 4 割台となっている。

図表4-45 日常生活の中で手助けしてほしいこと(複数回答)



※『手助けしてほしいことがある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

世帯構成別にみると、特にひとり暮らしの人において『手助けしてほしいことがある』割合が高い。具体的には、「急病・災害時の手助け」や「掃除・洗濯・布団干し」「ごみ出しや電球の交換」「買い物」「大掃除・草むしり・衣替え」といった生活支援、「話し相手」「定期的な声かけや見守り」が他に比べて高い。

要介護度別にみると、要支援1・2の人では「掃除・洗濯・布団干し」「急病・災害時の手助け」「ごみ出しや電球の交換」を半数以上の人があげ、要介護1・2の人では「外出のつきそい（通院・散歩など）」「食事のしたくや後片付け」「預貯金の出し入れや支払い手続き」「話し相手」「定期的な声かけや見守り」の割合が、要支援1・2の人に比べて高くなっている。

図表4-46 日常生活の中で手助けしてほしいこと

	回答者数(人)	掃除・洗濯・布団干し	急病・災害時の手助け	買い物	ごみ出しや電球の交換	歩など 外出のつきそい(通院・散歩など)	大掃除・草むしり・衣替え	食事のしたくや後片付け	預貯金の出し入れや支払い手続き	話し相手	定期的な声かけや見守り	その他	特にない	『手助けしてほしいことがある』
全体	1,035	55.8	54.3	51.4	50.9	48.7	46.1	43.2	35.7	29.4	24.5	4.3	7.3	84.5
世帯構成別	ひとり暮らし	311	65.3	65.6	59.2	60.5	45.7	54.0	38.3	30.2	34.4	30.5	3.5	93.0
	夫婦のみ	259	55.6	48.3	45.6	47.1	43.6	41.3	47.1	33.2	22.0	20.1	2.7	80.7
	子どもと同居	254	50.8	52.0	48.4	47.6	53.1	41.7	45.3	40.2	29.1	20.9	4.7	80.8
	子どもと孫と同居	140	46.4	47.1	50.7	47.1	56.4	45.0	42.9	45.0	35.7	26.4	5.0	77.8
	その他	51	56.9	49.0	54.9	41.2	49.0	47.1	47.1	39.2	23.5	23.5	11.8	90.2
要介護度別	要支援1	270	54.1	54.8	48.5	50.0	35.2	44.8	35.2	27.0	23.3	17.4	1.9	86.3
	要支援2	240	65.4	60.8	54.6	55.8	45.8	51.3	43.3	34.6	25.0	21.7	1.7	88.3
	要介護1	306	52.3	51.3	53.6	49.7	55.6	45.1	47.1	41.2	34.0	29.4	7.2	83.0
	要介護2	219	52.5	50.7	48.4	48.4	58.9	43.4	47.5	40.2	35.2	29.7	5.9	79.9

※「無回答」は掲載を省略している

※『手助けしてほしいことがある』=100%－「特にない」－「無回答」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

## 4. 介護保険サービスの利用状況について

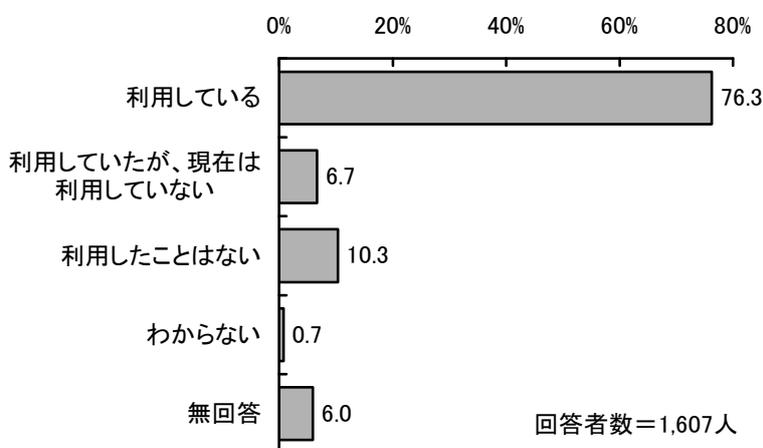
### (1) 介護保険サービスの利用状況

問 21 あなた(あて名のご本人)は、現在、介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

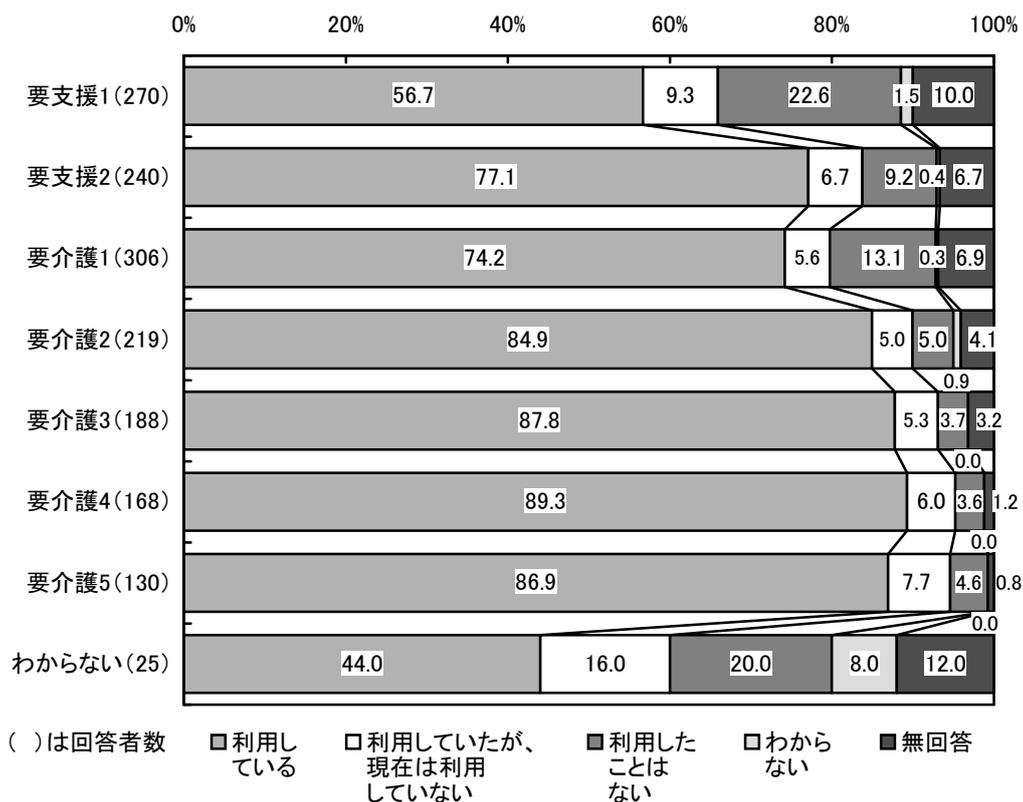
介護保険サービスの利用状況を見ると、「利用している」は 76.3%であり、「利用したことはない」10.3%、「利用していたが、現在は利用していない」6.7%となっている。

要介護度別にみると、要支援1の人では「利用している」は5割台であり、「利用したことはない」が2割を超えている。一方、要支援2・要介護1の人は7割台、要介護2～5の人では8割台が「利用している」と回答している。

図表4-47 介護保険サービスの利用状況(単数回答)



図表4-48 介護保険サービスの利用状況



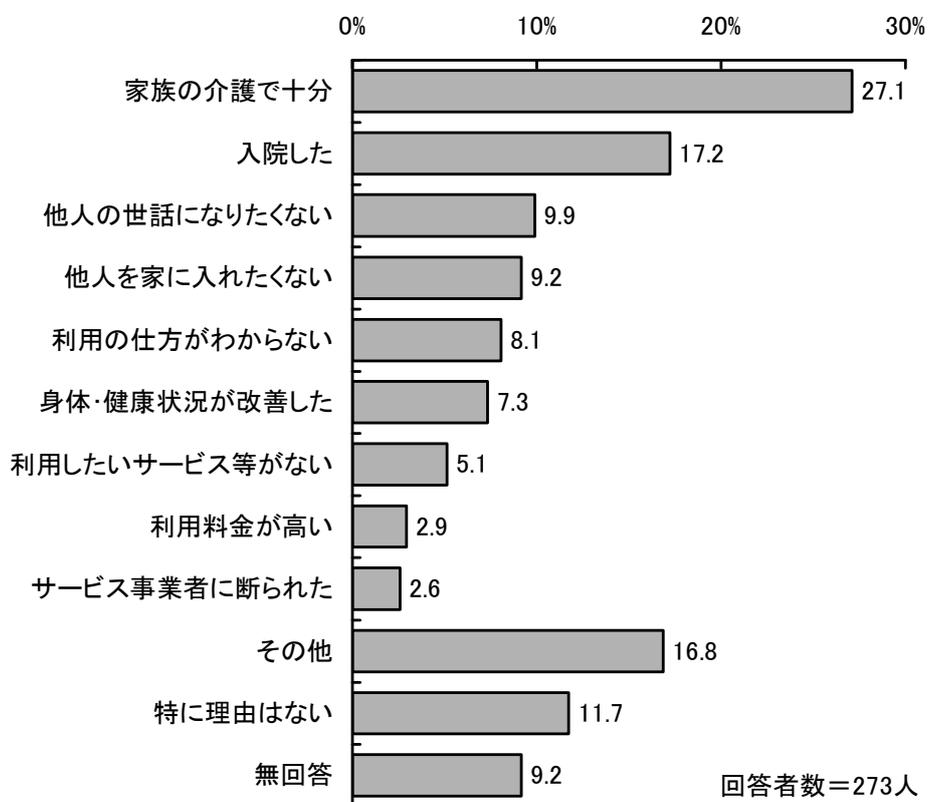
## (2) サービスを利用していない理由

介護保険サービスを利用していない方(問 21 で 2・3 に○)におうかがいします。

問 21-1 あなた(あて名のご本人)が、介護保険サービスを利用していないのはなぜですか。  
(あてはまるものすべてに○)

介護保険サービスを利用していない人に利用していない理由をたずねたところ、「家族の介護で十分」27.1%がもっとも高く、次いで「入院した」17.2%、「他人の世話になりたくない」9.9%、「他人を家に入れたくない」9.2%などとなっている。

図表4-49 サービスを利用していない理由(複数回答)



要介護度別にみると、要支援1から要介護3の人では「家族の介護で十分」の割合がもっとも高い。要介護4・5の人では「入院した」がもっとも高く、要介護4では6割台、要介護5では9割台の人があげている。

図表4-50 サービスを利用していない理由

	回答者数(人)	家族の介護で十分	入院した	他人の世話になりたくない	他人を家に入れたくない	利用の仕方がわからない	身体・健康状況が改善した	利用したいサービス等がない	利用料金が高い	サービス業者に断られた	その他	特に理由はない	無回答	
全体	273	27.1	17.2	9.9	9.2	8.1	7.3	5.1	2.9	2.6	16.8	11.7	9.2	
要介護度別	要支援1	86	27.9	4.7	10.5	8.1	9.3	4.7	10.5	1.2	3.5	18.6	12.8	12.8
	要支援2	38	23.7	2.6	7.9	10.5	5.3	10.5	7.9	7.9	0.0	15.8	15.8	15.8
	要介護1	57	31.6	8.8	15.8	15.8	14.0	3.5	1.8	3.5	0.0	19.3	12.3	12.3
	要介護2	22	27.3	4.5	4.5	4.5	0.0	18.2	0.0	0.0	4.5	40.9	18.2	4.5
	要介護3	17	47.1	41.2	17.6	5.9	0.0	11.8	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
	要介護4	16	12.5	62.5	0.0	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0
	要介護5	16	0.0	93.8	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
	わからない	9	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3	0.0

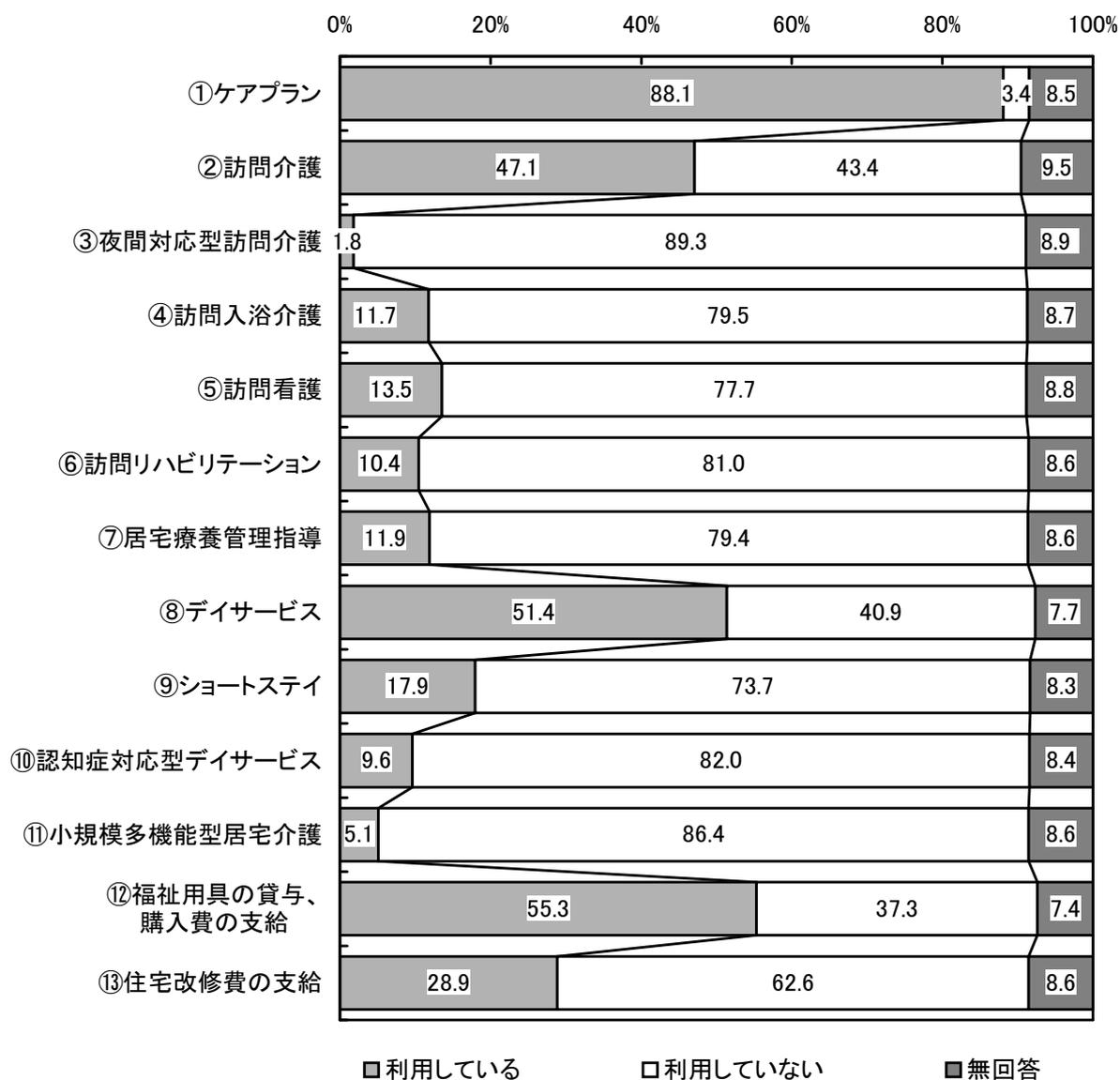
### (3) 在宅の介護保険サービスの利用状況、満足度

問 22 在宅の介護保険サービスの満足度についておたずねします。以下の①～⑬すべてについて、それぞれもっとも近い意見1つに○をしてください。  
現在利用していないサービスは、「6. 利用していない」に○をしてください。

#### ①在宅の介護保険サービスの利用状況

在宅の介護保険サービスの利用状況をみると、利用率が高いサービスは“⑫福祉用具の貸与、購入費の支給”“⑧デイサービス”が5割台、“②訪問介護”が4割台、“⑬住宅改修費の支給”が2割台と続いている。

図表4-51 在宅の介護保険サービスの利用状況(各単数回答)

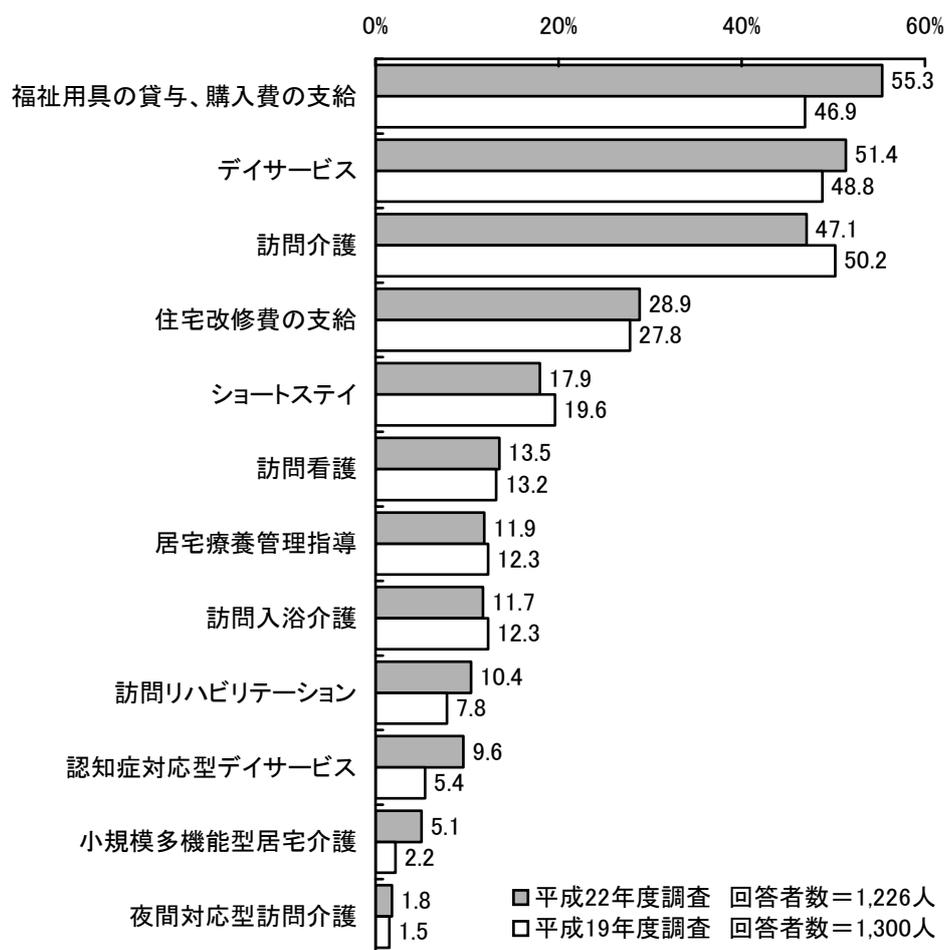


回答者数=1,226人

在宅の介護保険サービスの利用状況を平成19年度調査結果と比較すると、「福祉用具の貸与、購入費の支給」が8.4ポイント、「認知症対応型デイサービス」が4.2ポイント、「小規模多機能型居宅介護」が2.9ポイント、「デイサービス」「訪問リハビリテーション」が2.6ポイント増加している。

反対に、「訪問介護」は3.1ポイント、「ショートステイ」は1.7ポイント減少している。

図表4-52 在宅の介護保険サービスの利用状況(平成19年度調査との比較)



※「利用している」割合を比較している

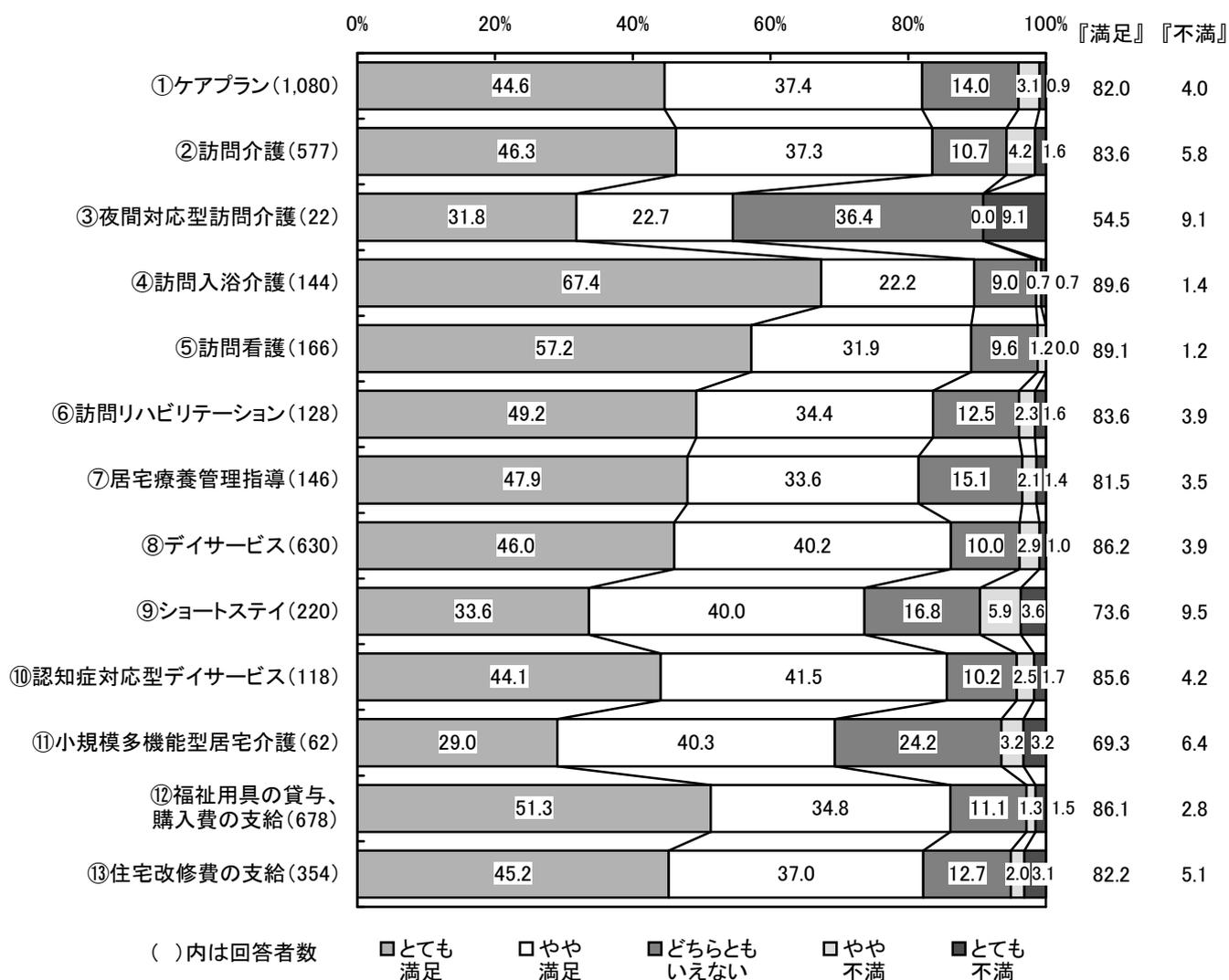


## ②在宅の介護保険サービスの満足度

在宅の介護保険サービスの満足度をみると、「とても満足」と「やや満足」をあわせた『満足』の割合は、“④訪問入浴介護”89.6%がもっとも高く、以下、“⑤訪問看護”89.1%、“⑧デイサービス”86.2%、“⑫福祉用具の貸与、購入費の支給”86.1%、“⑩認知症対応型デイサービス”85.6%と続く。

一方、“⑨ショートステイ”と“③夜間対応型訪問介護”は「やや不満」と「とても不満」をあわせた『不満』が1割近くになっている。

図表4-54 在宅の介護保険サービスの満足度(各単数回答)



※『満足』 = 「とても満足」 + 「やや満足」

※『不満』 = 「やや不満」 + 「とても不満」

## 【『不満』の理由】

(123 件について要約して掲載)

### ■ケアプラン(29 件より抜粋)

- ・めったにケアマネジャーが来ない。
- ・形式的な書面（介護内容等）の作成でピンと来ない。
- ・雑で気に入っていない。
- ・介護者の大変な部分の理解不足。
- ・即妙な対応に欠ける。
- ・説明が不十分。
- ・障害が重くなったのにリハビリ重視の所を紹介してくれなかった。
- ・規則でできない事が多い。
- ・普段の対応が不足している。提出すればそれで終わり。
- ・何の相談もなく、一方的に会社の変更などがあり戸惑うことがあるが、お世話になっているので何も言えない。
- ・仕事しか考えていない。
- ・あと 30 分増やして頂けると、ヘルパーさん達も充分して下さると思う。

### ■訪問介護(24 件より抜粋)

- ・人材を増加して、夜・朝にも対応してほしい。
- ・オムツの交換のみ 10 分で終了。できたら身体や顔など拭いてほしい。
- ・時間が短くなって、やってほしいことが終わらない。
- ・ヘルパーさんと合わない。
- ・同居を理由にサービスが受けられず、仕事をしていた子どもが結果退職せざるをえなかった。
- ・希望に合う事が少なく、理解不足が多い（無理は言っていない）。
- ・買い物などに連れて行ってもらえない。
- ・決められた時間に来てくれない。
- ・短すぎる。話し相手はできない。時間帯が制限される。
- ・調理技術が未熟。

### ■夜間対応型訪問介護(2 件より抜粋)

- ・電話だけで、家に来て状態を確認しないで救急車を呼んでくれと言われた。

### ■訪問入浴介護(2 件より抜粋)

- ・きちんと消毒していない（洗った時にしないし、水を入れる時もしない）。

### ■訪問看護(2 件)

- ・訪問時間がまちまちで、ヘルパーとぶつかってしまう恐れがある。
- ・リハビリのために来てもらったが、あまり進まない。

### ■訪問リハビリテーション(2件より抜粋)

- ・満足していない。

### ■居宅療養管理指導(2件)

- ・利用者側の都合がないがしろ気味。
- ・総義歯なので、上下の噛み合わせが合わない。

### ■デイサービス(17件より抜粋)

- ・もう1回程度サービスを増やしてほしい。
- ・体が不自由なのに皆と同じ事をさせる。
- ・もっとリハビリ重視にしてもらいたかった。
- ・外出などもっと楽しみがほしい。
- ・本人に合った生きがい活動・リハビリがなされていない。
- ・施設へ行っても、ただボーッとしている状態が多く、ヒマつぶしだけ。
- ・つまらない、話し相手がいない。
- ・食事がまずい。

### ■ショートステイ(14件より抜粋)

- ・予約が2か月も前なので予定が立てられない。急なときは使えない。予約が取れない(キャンセル待ちが多い)。
- ・4泊5日位で利用しているが、実質3日で5日分の支払いになる。
- ・金銭面の負担が大きい。施設によってかなり金額が違う。
- ・日中食堂に集められたり、一日中車いすでの行動に対して自由が無く不満。
- ・家では床ずれができないのに、ショートステイに行くことができる。あざがよくあった。
- ・入浴時の対応。部屋が共同。朝早く起こされる。

### ■認知症対応型デイサービス(3件)

- ・連絡したことがスタッフに伝わっていない事があり、いい加減なところがある。
- ・利用すると体調がすぐれない。
- ・リハビリとお風呂だけにしてほしい。家族と一緒に過ごしたい。

### ■小規模多機能型居宅介護(1件)

- ・働いている人がだまってリュックをあけた。

### ■福祉用具の貸与、購入費の支給(14件より抜粋)

- ・押車が重くて、押すのにつらい様だ。
- ・ベッドを借りた時に不自由な足からしか降りられない方向にセットされてしまった。
- ・病状によっては、指定された用具以外のものが使用したい場合に認められないので、自分で購入する。保険料を支払っていても利用できないケースが多い。
- ・自分にあつた車いすがない。長時間座っても楽な車いすが必要。
- ・メンテナンスに来ない。
- ・レンタル料が高い。じっくりくるものがなかなかない。

- ・費用が高すぎる。

#### ■住宅改修費の支給(11件より抜粋)

- ・料金がかかりすぎる。
- ・指定業者のため、材料・技術が悪くても費用が高く、一般業者の方が材料・技術もよい。
- ・手すりの位置が移動に合っていない。一割負担は苦しい。
- ・改修費の支給をお願いしたが、許可されなかった。
- ・料金の還付まで3か月でなく、せめて1か月にしてほしい。

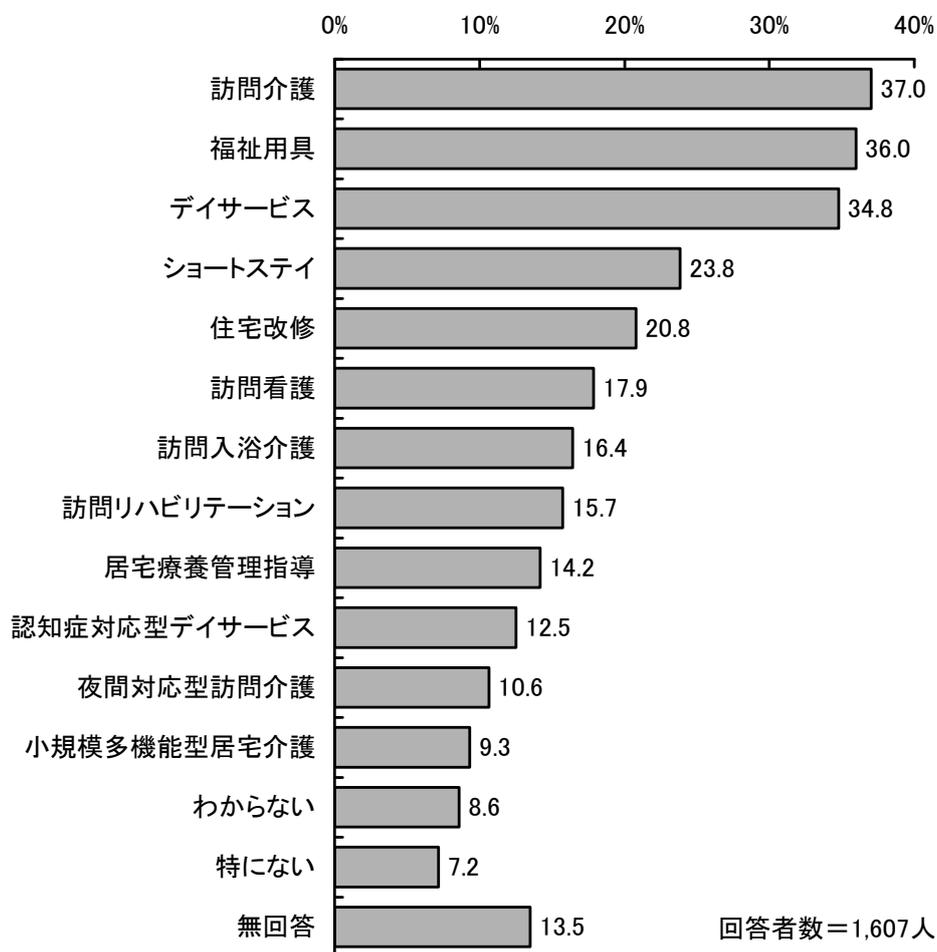
## 5. 今後の暮らしや介護について

### (1) 今後利用したい介護保険サービス

問 23 あなた(あて名のご本人)は、今後、ご自宅で生活するうえで、どのような介護保険サービスを利用したい(し続けたい)と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

今後利用したい介護保険サービスは、「訪問介護」「福祉用具」「デイサービス」が3割を超えている。次いで、「ショートステイ」「住宅改修」が2割台で続いている。

図表4-55 今後利用したい介護保険サービス(複数回答)



世帯構成別にみると、「訪問介護」や「夜間対応型訪問介護」は他に比べてひとり暮らしの人の利用意向が高い。一方、「福祉用具」「デイサービス」や「ショートステイ」は、子どもや孫との同居世帯の人の利用意向が高くなっている。

要介護度別にみると、「訪問介護」「デイサービス」「ショートステイ」は要介護4の人の利用意向がもっとも高く、それぞれ4割を超えている。「福祉用具」は要介護5の人の利用意向がもっとも高く、6割台が希望している。また、「訪問看護」「訪問入浴介護」も要介護5の人の利用意向がもっとも高く、5割近くとなっている。

図表4-56 今後利用したい介護保険サービス

		回答者数(人)	訪問介護	福祉用具	デイサービス	ショートステイ	住宅改修	訪問看護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	認知症対応型デイサービス	夜間対応型訪問介護	小規模多機能型居宅介護	わからない
全体		1,607	37.0	36.0	34.8	23.8	20.8	17.9	16.4	15.7	14.2	12.5	10.6	9.3	8.6
世帯構成別	ひとり暮らし	379	52.5	29.6	33.8	15.8	19.3	15.6	11.1	13.5	12.9	9.5	14.8	7.7	9.0
	夫婦のみ	382	34.6	33.2	30.6	19.6	20.2	16.2	14.9	16.0	12.3	12.8	8.4	9.4	10.2
	子どもと同居	467	33.4	42.2	36.2	28.9	21.0	20.1	20.6	16.5	15.4	15.8	10.1	10.1	7.5
	子どもと孫と同居	233	30.0	42.1	45.9	34.8	24.5	20.6	20.6	18.0	16.3	13.7	10.3	12.4	8.6
	その他	88	30.7	30.7	23.9	26.1	22.7	17.0	18.2	15.9	18.2	9.1	8.0	6.8	6.8
要介護度別	要支援1	270	33.0	22.6	23.7	11.1	16.7	12.2	8.1	11.1	8.1	4.1	6.7	4.4	9.6
	要支援2	240	40.0	28.8	27.5	10.8	19.6	11.7	7.9	12.1	12.1	5.4	5.4	7.1	11.7
	要介護1	306	35.0	30.1	37.6	21.9	20.3	14.1	11.8	10.1	12.7	15.7	11.1	8.2	10.1
	要介護2	219	35.2	31.5	38.8	26.5	20.1	10.5	11.0	9.6	8.2	16.4	9.1	7.8	10.0
	要介護3	188	34.6	51.1	45.7	32.4	23.9	18.6	19.1	21.8	15.4	20.2	10.6	14.4	4.8
	要介護4	168	48.8	52.4	47.0	45.2	30.4	32.1	32.7	29.8	25.0	20.2	18.5	18.5	4.2
	要介護5	130	48.5	63.8	36.9	41.5	22.3	47.7	47.7	32.3	31.5	15.4	20.0	13.1	2.3
	わからない	25	16.0	16.0	8.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0	8.0	0.0	20.0

※「特になし」「無回答」は掲載を省略している

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

## (2) 今後利用したい介護保険外サービス

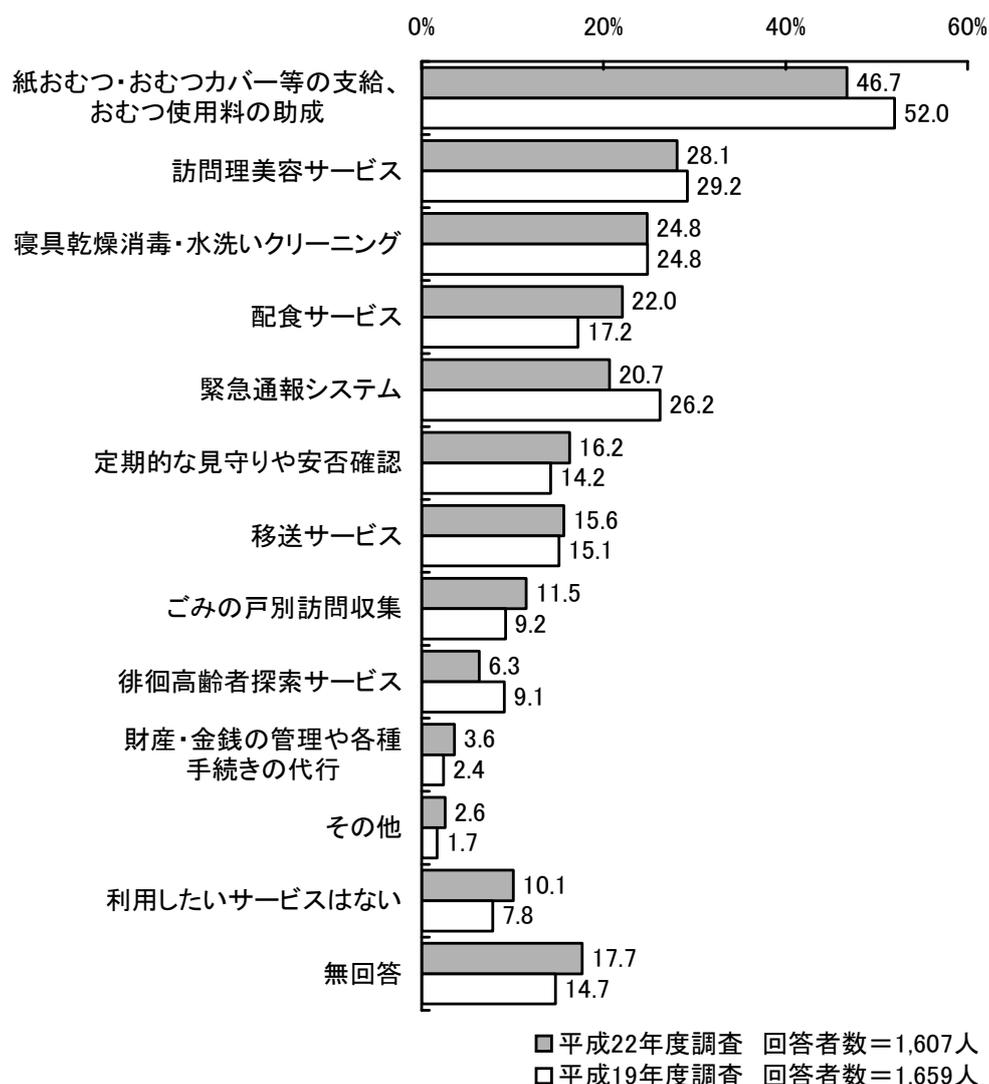
問 24 あなた(あて名のご本人)は、今後、ご自宅で生活するうえで、江戸川区が実施する介護保険以外のサービスについて、利用したいサービスはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

今後利用したい介護保険外サービスは、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」46.7%がもっとも高い。次いで、「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」「配食サービス」「緊急通報システム」が2割台で続いている。

平成19年度調査結果と比較すると、「配食サービス」(4.8ポイント)、「ごみの戸別訪問収集」(2.3ポイント)、「定期的な見守りや安否確認」(2.0ポイント)などの生活支援サービスを希望する人の割合が増加している。

図表4-57 今後利用したい介護保険外サービス<平成19年度調査との比較>(複数回答)



世帯構成別にみると、ひとり暮らしの人では「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」に次いで、「緊急通報システム」「配食サービス」が上位3項目であり、それぞれ3割を超える人が希望している。夫婦のみや子どもや孫との同居世帯の人では、「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」が5割前後でもっとも高く、「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」と続いている。

要介護度別にみると、要支援1・2の人では、要介護者に比べて「配食サービス」「緊急通報システム」「定期的な見守りや安否確認」「ごみの戸別訪問収集」などの生活支援サービスの意向が高い。要介護3～5の人では、他に比べて「紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成」「訪問理美容サービス」「寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング」「移送サービス」などの介護支援サービスの利用意向が高くなっている。

図表4-58 今後利用したい介護保険外サービス

		回答者数(人)	紙おむつ・おむつカバー等の支給、おむつ使用料の助成	訪問理美容サービス	寝具乾燥消毒・水洗いクリーニング	配食サービス	緊急通報システム	定期的な見守りや安否確認	移送サービス	ごみの戸別訪問収集	徘徊高齢者探索サービス	財産・金銭の管理や各種手続きの代行	その他	利用したいサービスはない	無回答
全体		1,607	46.7	28.1	24.8	22.0	20.7	16.2	15.6	11.5	6.3	3.6	2.6	10.1	17.7
世帯構成別	ひとり暮らし	379	36.4	23.5	26.6	30.6	31.4	24.8	12.1	21.4	5.3	3.2	1.8	10.0	19.0
	夫婦のみ	382	45.3	25.1	24.3	22.3	23.3	15.7	20.2	14.9	5.5	5.5	3.7	7.3	21.2
	子どもと同居	467	52.9	31.0	23.8	18.0	14.1	11.3	15.8	6.4	7.1	3.0	2.8	13.1	14.6
	子どもと孫と同居	233	54.9	36.1	24.5	17.6	13.3	13.3	15.9	2.1	7.3	2.1	1.7	10.7	12.4
	その他	88	46.6	28.4	23.9	19.3	15.9	13.6	11.4	6.8	5.7	2.3	3.4	8.0	22.7
要介護度別	要支援1	270	30.4	18.5	22.6	23.0	24.1	21.1	14.4	14.1	5.6	4.4	1.5	14.8	22.2
	要支援2	240	32.5	20.8	24.6	23.8	25.0	17.1	12.1	17.5	5.8	2.1	1.3	12.1	23.3
	要介護1	306	42.2	25.8	23.2	20.6	18.6	18.3	10.5	16.3	7.5	3.3	5.6	11.8	16.3
	要介護2	219	48.9	27.4	20.5	22.4	17.4	12.8	14.6	7.8	6.4	4.6	3.2	10.0	13.2
	要介護3	188	60.1	30.3	26.1	18.6	20.7	13.3	17.6	5.3	6.9	2.1	2.7	10.6	12.2
	要介護4	168	66.7	50.6	30.4	29.2	20.8	20.2	26.2	10.7	7.7	6.0	1.8	3.0	11.9
	要介護5	130	78.5	43.1	36.2	16.2	20.0	8.5	27.7	4.6	5.4	3.1	1.5	1.5	12.3
	わからない	25	16.0	4.0	8.0	24.0	4.0	8.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	16.0	44.0

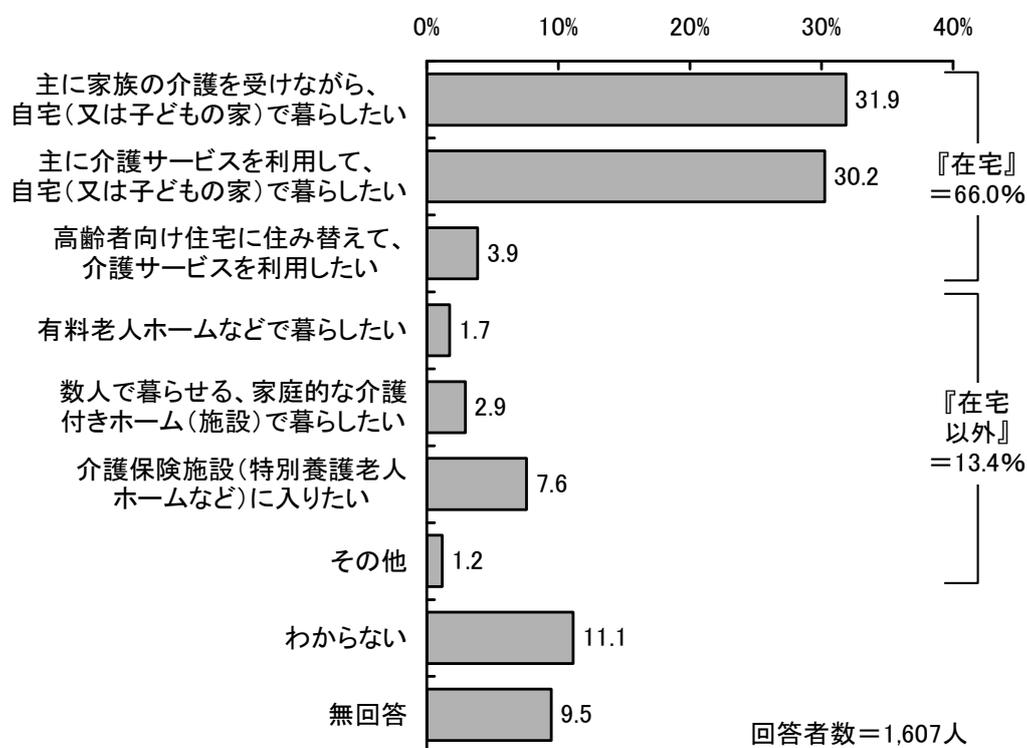
※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

### (3) 今後介護を受けたい場所

問 25 あなた(あて名のご本人)は、今後、介護が必要になった場合、どのように暮らしたいですか。(もっとも近い考え1つに○)【比較調査 254 参照】

今後介護を受けたい場所をみると、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」31.9%、「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」30.2%、「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」3.9%の順であり、これらをあわせた66.0%が『在宅』での暮らしを希望している。一方、『在宅以外』を希望する割合は13.4%となっている。

図表4-59 今後介護を受けたい場所(単数回答)



※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
+ 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
+ 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
+ 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
+ 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」  
+ 「その他」

世帯構成別にみると、子どもや孫との同居世帯の人では7割以上が『在宅』を希望しており、なかでも「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」が4割を超えている。一方、ひとり暮らしの人では『在宅』希望は5割であり、他に比べて「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」割合が高くなっている。

要介護度別にみると、『在宅』を希望している人の割合は、要介護1～5の人では7割前後を占めている。また、要介護4・5の人では1割強が「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」と希望しており、他の介護度に比べて高い割合となっている。

図表4-60 今後介護を受けたい場所

		回答者数(人)	主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい	高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい	有料老人ホームなどで暮らしたい	数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい	介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい	その他	わからない	無回答	『在宅』	『在宅以外』
全体		1,607	31.9	30.2	3.9	1.7	2.9	7.6	1.2	11.1	9.5	66.0	13.4
世帯構成別	ひとり暮らし	379	14.2	30.9	6.6	1.8	5.5	12.1	1.6	16.9	10.3	51.7	21.0
	夫婦のみ	382	32.2	29.3	5.5	2.6	1.8	7.1	0.5	9.7	11.3	67.0	12.0
	子どもと同居	467	41.5	30.6	1.7	1.3	1.9	4.7	1.5	9.2	7.5	73.8	9.4
	子どもと孫と同居	233	42.9	31.8	1.3	0.9	2.1	6.4	0.4	7.7	6.4	76.0	9.8
	その他	88	23.9	25.0	4.5	1.1	3.4	12.5	3.4	12.5	13.6	53.4	20.4
要介護度別	要支援1	270	27.0	26.7	5.9	1.1	5.2	6.7	0.7	16.7	10.0	59.6	13.7
	要支援2	240	17.9	35.0	5.0	3.8	5.8	5.0	0.4	15.0	12.1	57.9	15.0
	要介護1	306	36.6	27.1	5.6	2.0	2.0	7.2	2.6	8.8	8.2	69.3	13.8
	要介護2	219	35.6	33.3	1.8	1.8	1.4	8.7	1.4	7.3	8.7	70.7	13.3
	要介護3	188	38.3	33.0	2.7	1.1	2.1	6.9	0.0	9.0	6.9	74.0	10.1
	要介護4	168	37.5	31.0	2.4	0.6	1.8	11.9	1.2	5.4	8.3	70.9	15.5
	要介護5	130	36.2	34.6	1.5	0.8	0.8	11.5	1.5	6.2	6.9	72.3	14.6
	わからない	25	16.0	16.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	40.0	20.0	32.0	8.0

※『在宅』＝「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」＋「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』＝「有料老人ホームなどで暮らしたい」＋「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」＋「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」＋「その他」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

#### (4) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

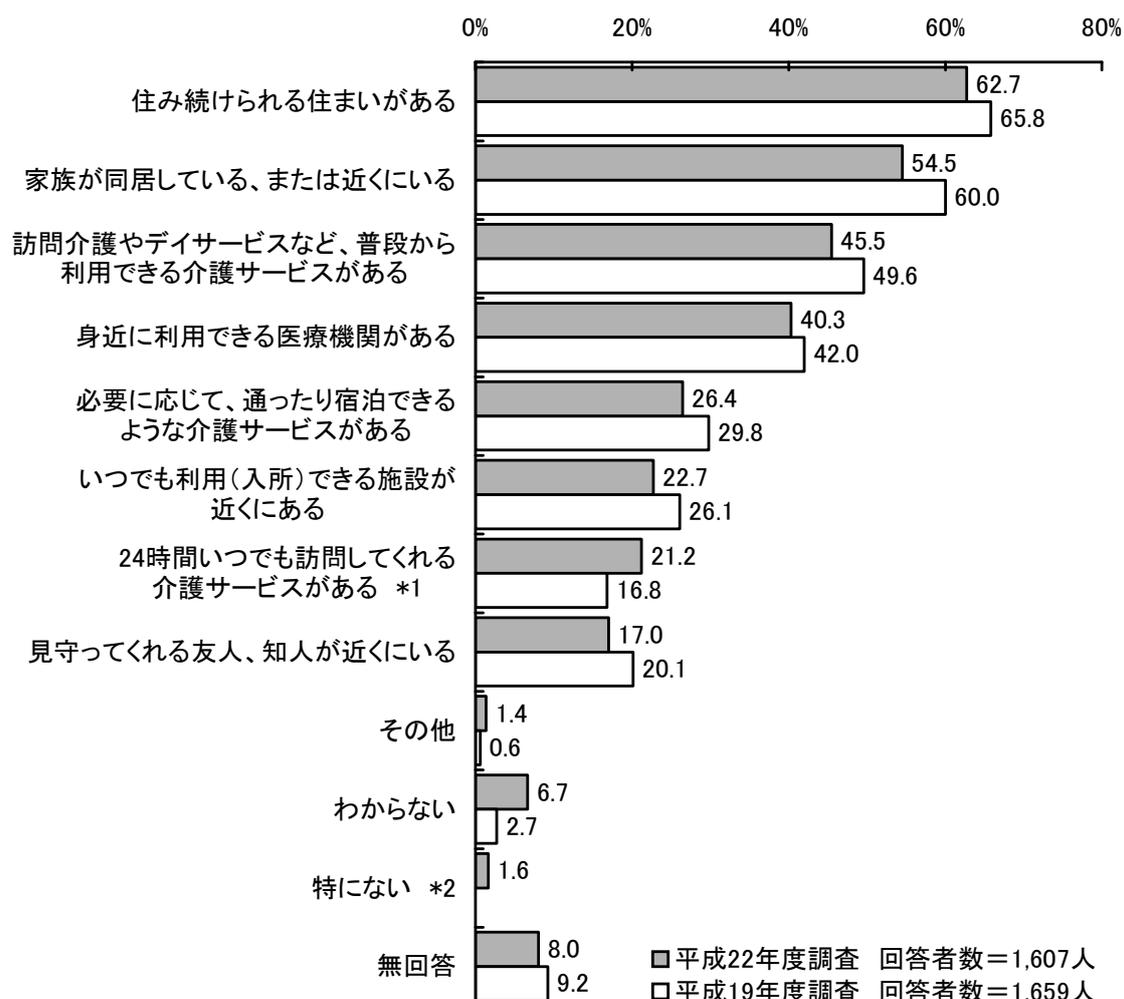
問 26 あなた(あて名のご本人)は、介護が必要になっても在宅で暮らし続けるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【比較調査 255 参照】

在宅で暮らし続けるために必要と思うこととしては、「住み続けられる住まいがある」62.7%がもっとも高い。次いで、「家族が同居している、または近くにいる」が5割台、「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」「身近に利用できる医療機関がある」が4割台と続いている。

平成19年度調査結果と比較すると、「24時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある」(平成19年度調査では「夜間でも訪問してくれる介護サービスがある」)を除いて、割合は減少している。

図表4-61 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと<平成19年度調査との比較>(複数回答)



※\*1 の選択肢は平成19年度調査では「夜間でも訪問してくれる介護サービスがある」

※\*2 「特にない」の選択肢は平成22年度調査のみ

## (5) 介護保険サービスの利用に対する考え、介護保険料の家計への影響

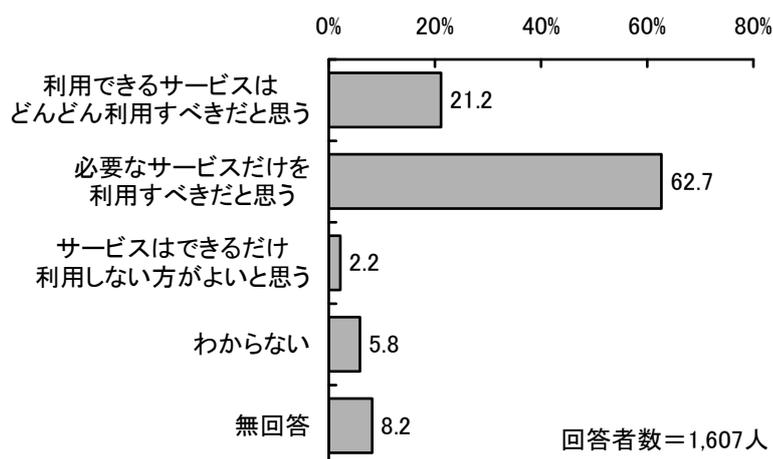
問 27 あなたは、介護保険サービスの利用のあり方について、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

問 28 介護保険の保険料について、家計への影響は次のうちどれに近いですか。(1つに○)【比較調査 256 参照】

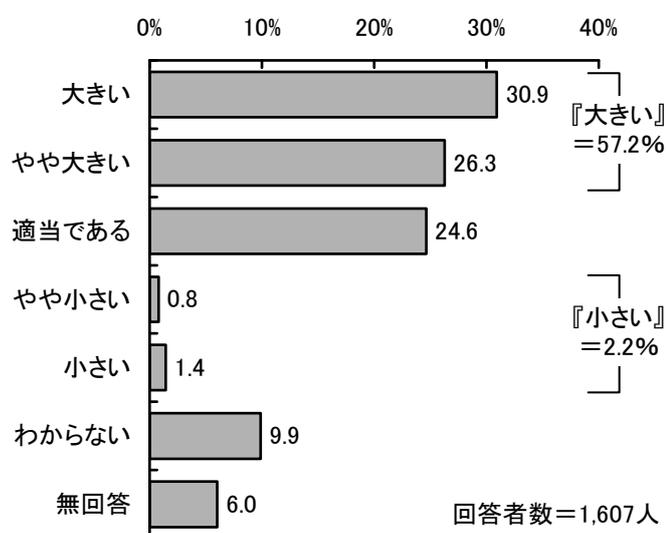
介護保険サービスの利用に対する考えをみると、「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」が 62.7%を占める。「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」は 21.2%、「サービスはできるだけ利用しない方がよいと思う」は 2.2%となっている。

介護保険料の家計への影響は、「大きい」30.9%、「やや大きい」26.3%をあわせた 57.2%が『大きい』と回答している。「適当である」と回答したのは、24.6%で約 4 人に 1 人となっている。

図表4-62 介護保険サービスの利用に対する考え(単数回答)



図表4-63 介護保険料の家計への影響(単数回答)



※『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

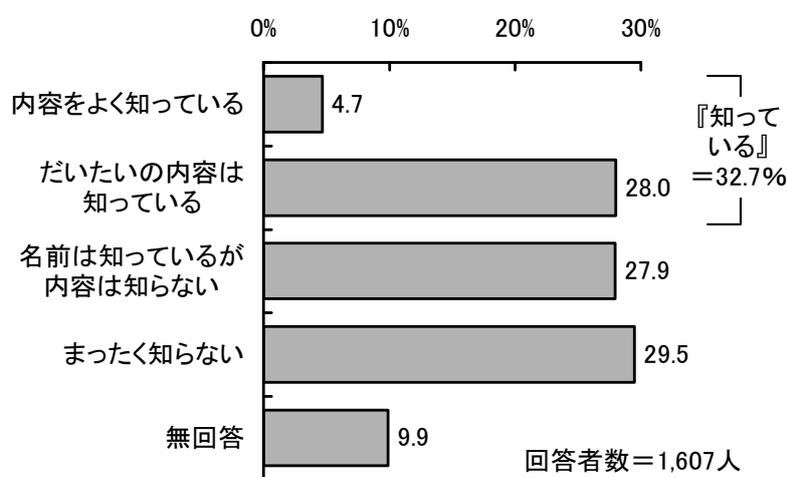
※『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

## (6) 地域包括支援センターの認知度

問 29 あなた(あて名のご本人)は、地域包括支援センターについて、どのくらい知っていますか。(1つに○)

地域包括支援センターの認知度をみると、「内容をよく知っている」4.7%、「だいたいの内容は知っている」28.0%をあわせた32.7%が『知っている』と回答している。「名前は知っているが内容は知らない」は27.9%、「まったく知らない」は29.5%となっている。

図表4-64 地域包括支援センターの認知度(単数回答)



※『知っている』 = 「内容をよく知っている」 + 「だいたいの内容は知っている」

## (7) 地域包括支援センター利用経験、利用したことがない理由

内容や名前を知っている方(問 29 で 1~3 に○)におうかがいします。

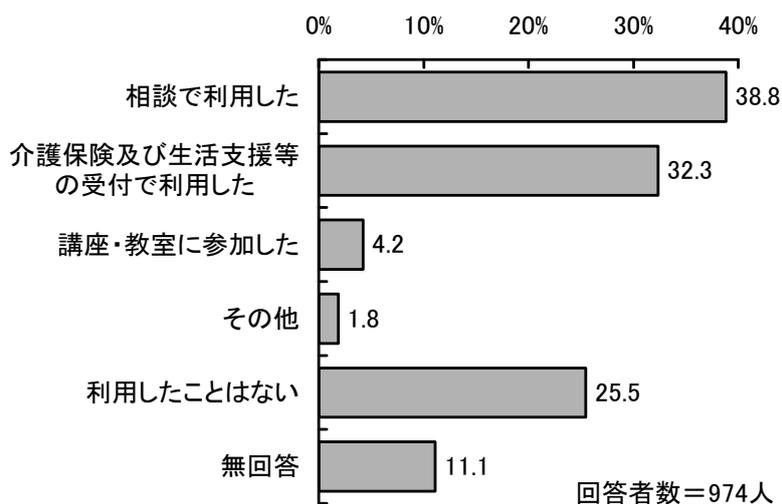
問 29-1 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

問 29-2 「利用したことはない」方におうかがいします。利用したことがない理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

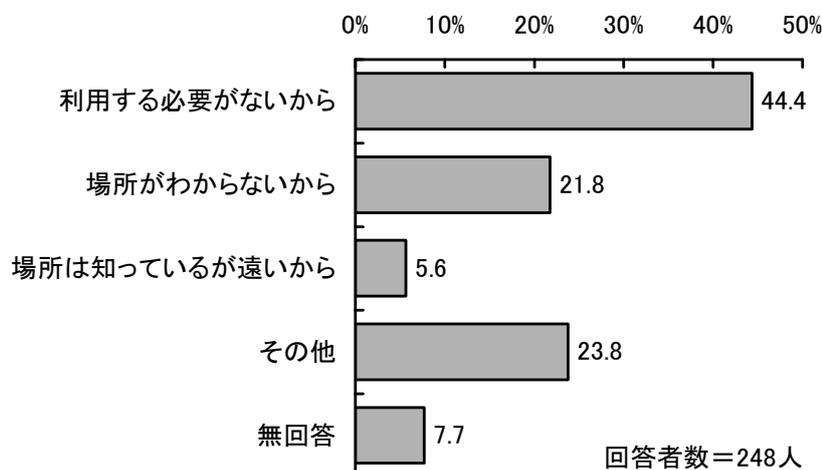
内容や名前を知っている人の地域包括支援センターの利用経験は、「相談で利用した」38.8%、「介護保険及び生活支援等の受付で利用した」32.3%であり、「利用したことはない」は25.5%となっている。

利用したことがない理由としては、「利用する必要があるから」が44.4%、「場所がわからないから」21.8%、「場所は知っているが遠いから」5.6%となっている。

図表4-65 地域包括支援センター利用経験(複数回答)



図表4-66 利用したことがない理由(複数回答)



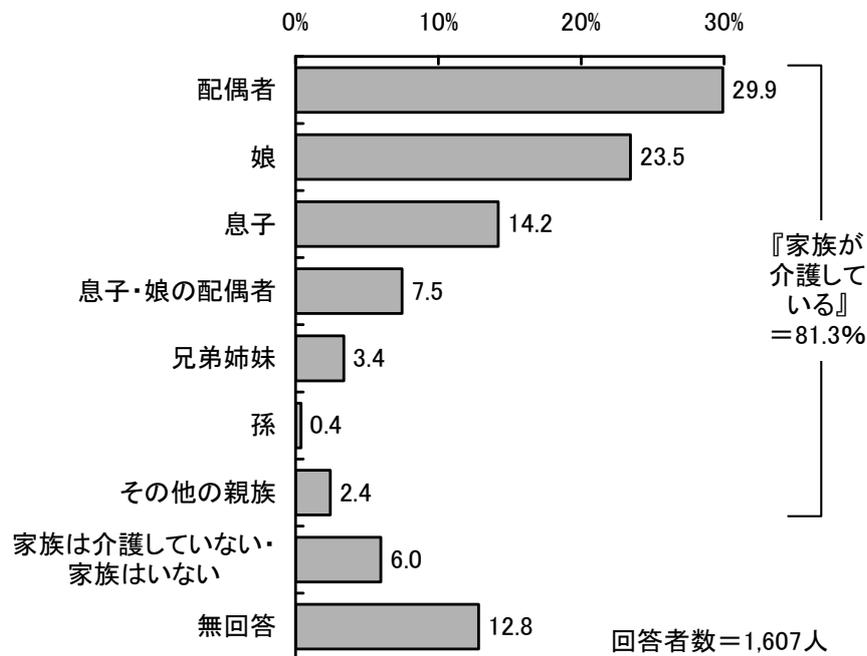
## 6. 介護者の状況について

### (1) 家族介護の状況

問 32 現在、あて名のご本人を主に介護しているご家族(同居・別居問わず)は、あて名のご本人からみてどなたにあたりますか。(主な介護者ひとりに○)

家族介護の状況を見ると、『家族が介護している』が81.3%を占める。具体的な介護者は、「配偶者」29.9%に次いで、「娘」23.5%、「息子」14.2%、「息子・娘の配偶者」7.5%の順となっている。

図表4-67 家族介護の状況(単数回答)



※『家族が介護している』 = 「配偶者」 + 「娘」 + 「息子」 + 「息子・娘の配偶者」  
+ 「兄弟姉妹」 + 「孫」 + 「その他の親族」

世帯構成別にみると、夫婦のみの人への介護者は「配偶者」が7割を超えている。子どもや孫との同居世帯の人では「配偶者」は2割台になり、「娘」「息子」「息子・娘の配偶者」の割合が高くなっている。ひとり暮らしの人では『家族が介護している』は約6割と他より低く、介護者は「娘」がもっとも高い。

図表4-68 家族介護の状況

		回答者数(人)	配偶者	娘	息子	息子・娘の配偶者	兄弟姉妹	孫	その他の親族	家族は介護していない・家族はいない	無回答	『家族が介護している』
全体		1,607	29.9	23.5	14.2	7.5	3.4	0.4	2.4	6.0	12.8	81.3
世帯構成別	ひとり暮らし	379	0.0	27.2	15.6	5.3	7.1	0.3	5.3	16.4	23.0	60.8
	夫婦のみ	382	72.3	10.2	1.6	0.5	0.3	0.0	0.5	3.7	11.0	85.4
	子どもと同居	467	24.0	28.7	24.2	8.8	1.3	0.2	1.1	2.1	9.6	88.3
	子どもと孫と同居	233	25.3	32.6	12.9	21.0	0.4	1.3	1.3	0.4	4.7	94.8
	その他	88	15.9	11.4	13.6	6.8	20.5	1.1	10.2	6.8	13.6	79.5

※『家族が介護している』＝「配偶者」＋「娘」＋「息子」＋「息子・娘の配偶者」＋「兄弟姉妹」＋「孫」＋「その他の親族」

※世帯構成別の「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

## (2) 主な介護者の年齢

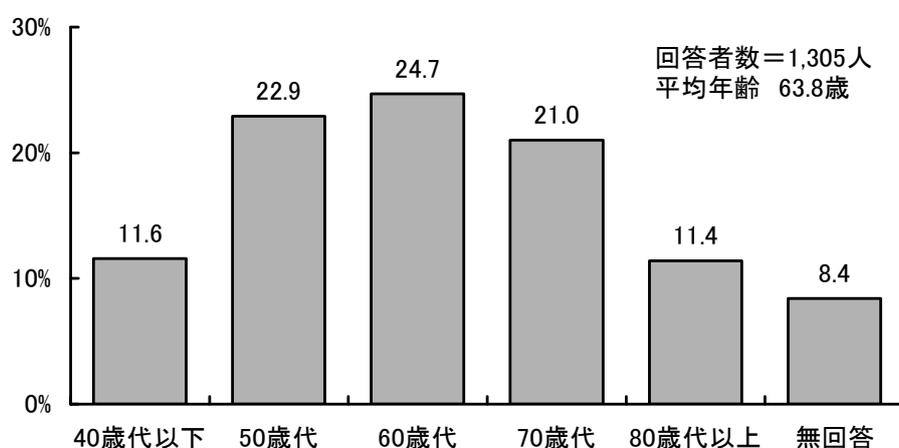
介護をしている方(問 32 で 1～7 に○)におうかがいします。

問 32-1 あて名のご本人を主に介護している方の年齢をお教えてください。

主な介護者の年齢は、「60 歳代」が 24.7%を占め、平均年齢は 63.8 歳となっている。

主な介護者別にみると、主な介護者が配偶者の場合の平均年齢は 75.7 歳であり、息子、娘、息子・娘の配偶者の場合には 50 歳代となっている。

図表4-69 主な介護者の年齢(単数回答)



図表4-70 主な介護者の年齢

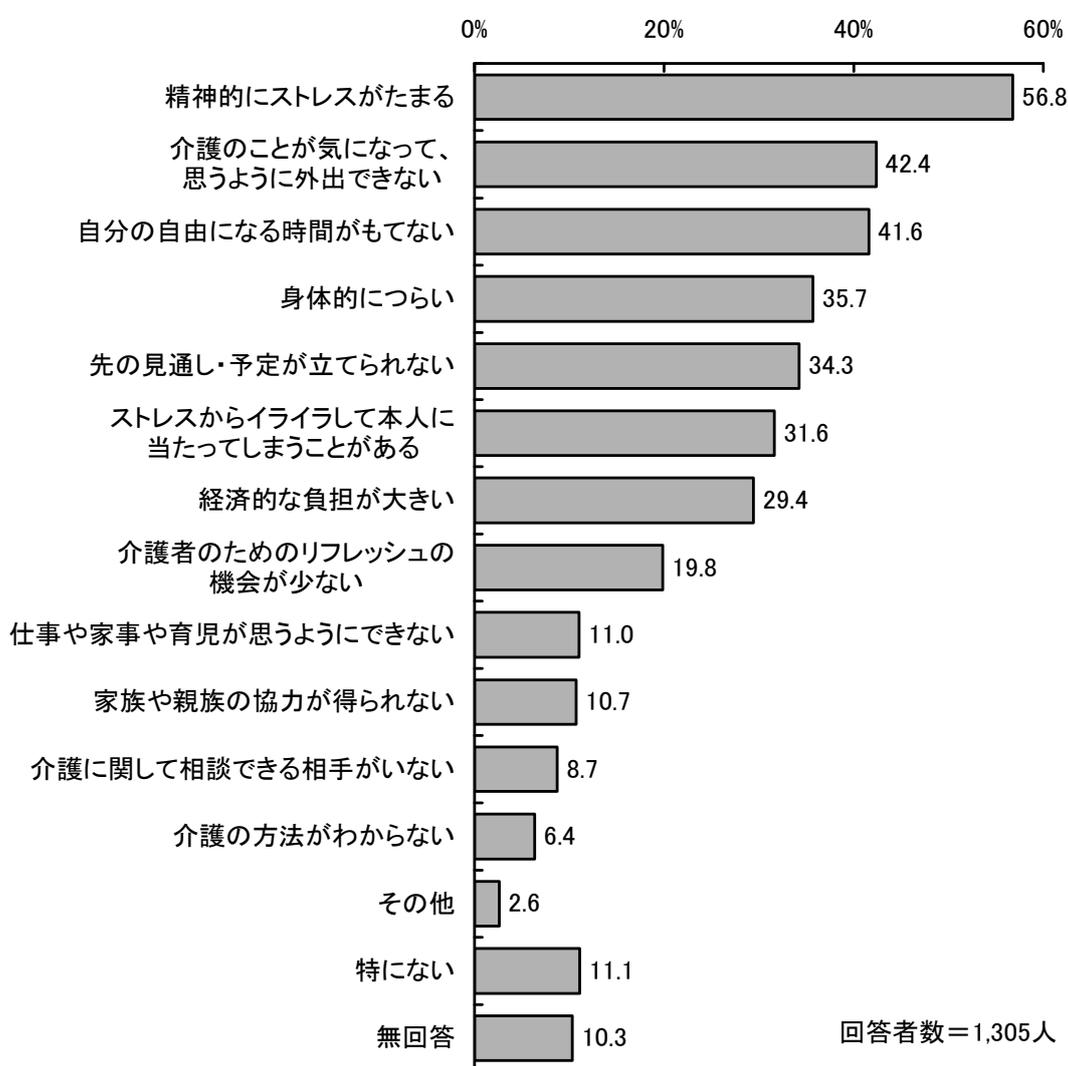
		回答者数(人)	40歳代以下	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	無回答	平均年齢(歳)
全体		1,305	11.6	22.9	24.7	21.0	11.4	8.4	63.8
主な介護者別	配偶者	481	0.0	0.4	17.7	45.7	28.3	7.9	75.7
	息子	228	20.2	38.2	31.1	3.5	0.4	6.6	56.1
	娘	377	20.7	38.2	27.1	4.0	0.5	9.5	55.0
	息子・娘の配偶者	120	15.8	36.7	35.8	3.3	2.5	5.8	58.0
	孫	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.8
	兄弟姉妹	54	1.9	7.4	27.8	37.0	7.4	18.5	68.3
	その他の親族	39	2.6	46.2	15.4	17.9	7.7	10.3	62.9

### (3) 介護をするうえで困ること

問 32-2 介護をしていくうえで、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護をするうえで困ることとしては、「精神的にストレスがたまる」56.8%がもっとも高く、次いで「介護のことが気になって、思うように外出できない」「自分の自由になる時間がもてない」が4割台、「身体的につらい」「先の見通し・予定が立てられない」「ストレスからイライラして本人に当たってしまうことがある」が3割台で続いている。

図表4-71 介護をするうえで困ること(複数回答)

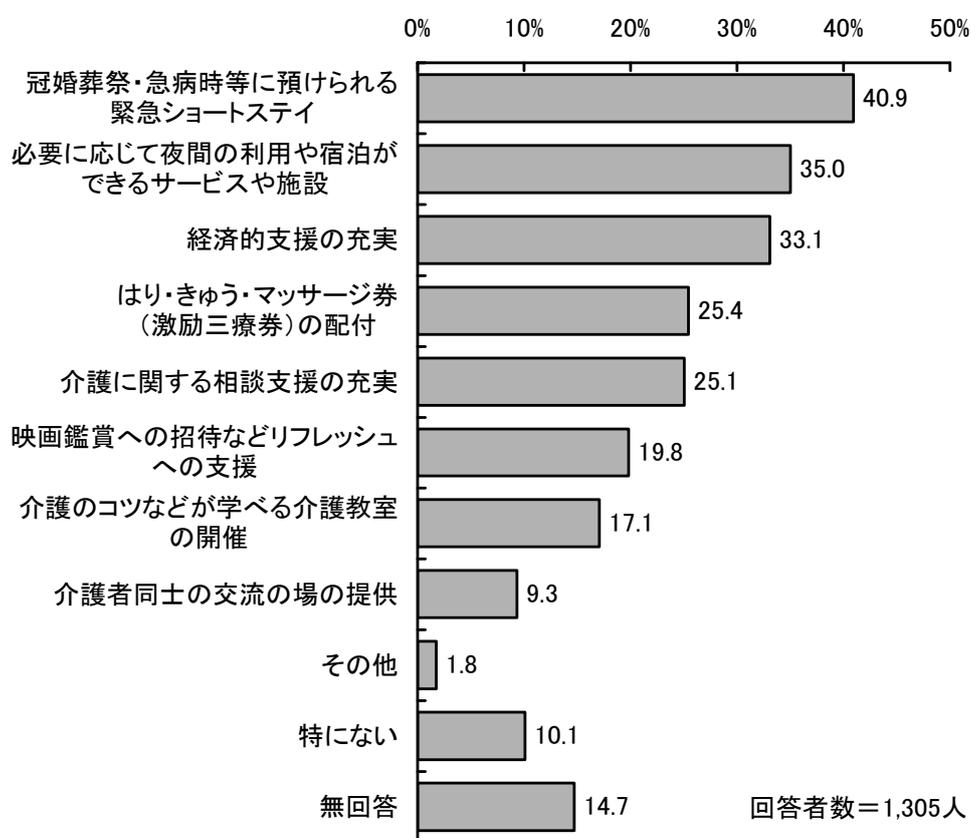


#### (4) 介護者にとって必要な支援

問 32-3 介護をしているご家族に対して、どのような支援やサービスがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

介護者にとって必要な支援は、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」40.9%がもっとも高く、次いで「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」35.0%、「経済的支援の充実」33.1%が3割を超え続いている。

図表4-72 介護者にとって必要な支援(複数回答)



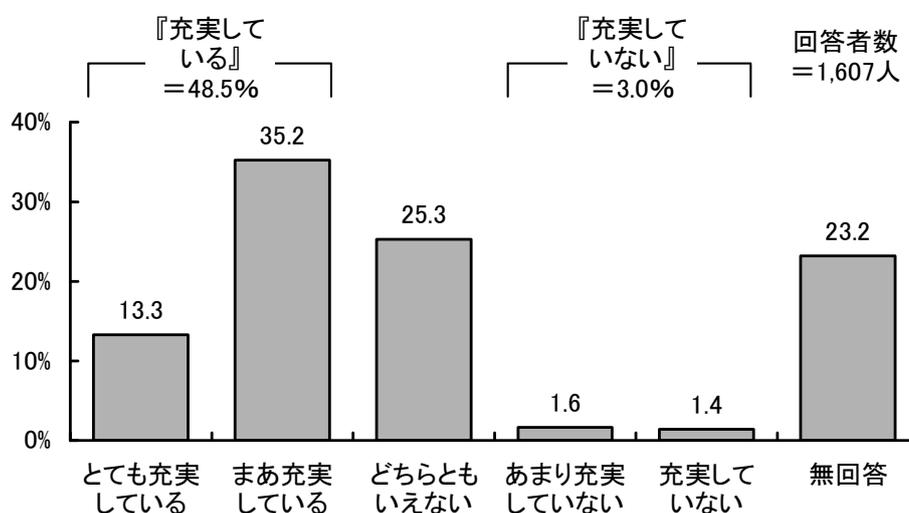
## 7. 江戸川区の熟年者施策について

### (1) 区の熟年者施策の充実度

問 30 江戸川区の熟年者施策について、あなた(あて名のご本人)はどのように感じますか。  
(1つに○)【比較調査 257 参照】

区の熟年者施策の充実度は、「とても充実している」13.3%、「まあ充実している」35.2%をあわせた『充実している』が48.5%と半数近くを占める。「あまり充実していない」1.6%、「充実していない」1.4%をあわせた『充実していない』は3.0%であった。

図表4-73 区の熟年者施策の充実度(単数回答)



※『充実している』 = 「とても充実している」 + 「まあ充実している」

※『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

#### (『充実していない』理由：29件より抜粋して記載)

- ・ 普段利用していない者が、1日1~2回の胃ろうをお願いしても、手が足りず断られたことが何度かあり、残念に思った。
- ・ 年金で2人で生活をしなければならぬ。週5日デイサービスに行く持ち出しが大きく不安。
- ・ 家族が相談したくても、どこに相談してよいかわかりづらい。
- ・ 介護保険に加入していても、胃ろうや点液をしている利用者はサービスさえも断られる。
- ・ 特別養護老人ホームが少ない。
- ・ 公的施設にはほとんど入所できない。

要介護度別にみると、概ね介護度が高くなるに従って、『充実している』と回答した人の割合も高くなっており、要介護5の人では6割台を占めている。

図表4-74 区の熟年者施策の充実度

		回答者数(人)	とても充実している	まあ充実している	どちらともいえない	あまり充実していない	充実していない	無回答	『充実している』	『充実していない』
全 体		1,607	13.3	35.2	25.3	1.6	1.4	23.2	48.5	3.0
要介護度別	要支援1	270	12.2	31.9	24.4	1.9	2.6	27.0	44.1	4.5
	要支援2	240	10.8	33.8	25.0	1.3	1.7	27.5	44.6	3.0
	要介護1	306	10.5	36.6	29.1	1.3	1.0	21.6	47.1	2.3
	要介護2	219	13.7	38.8	24.2	1.8	0.5	21.0	52.5	2.3
	要介護3	188	14.9	35.1	28.2	1.6	1.1	19.1	50.0	2.7
	要介護4	168	14.3	38.7	27.4	1.2	1.2	17.3	53.0	2.4
	要介護5	130	20.0	41.5	17.7	2.3	1.5	16.9	61.5	3.8
	わからない	25	20.0	12.0	20.0	4.0	4.0	40.0	32.0	8.0

※『充実している』＝「とても充実している」＋「まあ充実している」

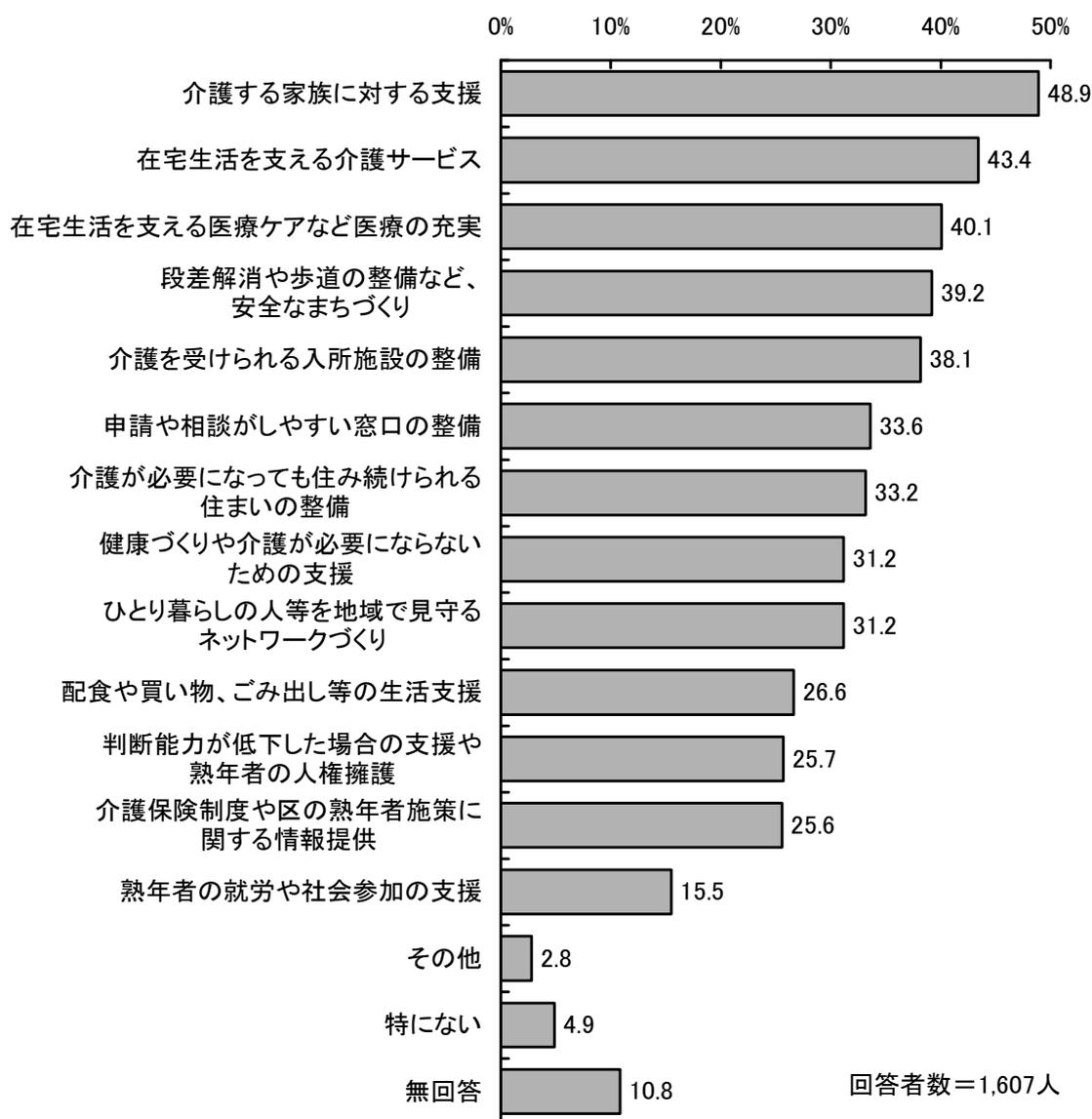
※『充実していない』＝「あまり充実していない」＋「充実していない」

## (2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

問 31 江戸川区が今後充実すべきと思う熟年者施策は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)【比較調査 258 参照】

区の熟年者施策で充実してほしいことをみると、「介護する家族に対する支援」「在宅生活を支える介護サービス」「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」が上位3項目であり、それぞれ4割以上の人からあげられている。次いで、「段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり」「介護を受けられる入所施設の整備」が続いている。

図表4-75 区の熟年者施策で充実してほしいこと(複数回答)



### (3) 区への意見・要望

江戸川区へのご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

---

(486 件について分類・要約して記載)

#### 【1】介護保険・区の介護支援に対する意見・要望(230 件より抜粋)

- ・介護保険を利用し始めてから 1 か月程だが、もっと利用しやすいシステムにしてほしい。最初のうちはシステムがわかりづらく、なかなか利用するふんざりがつかなかった。
- ・この先寝たきり、車いす等になった場合、24 時間とまでいかななくても安心して預けたり、家に誰か手伝いに来てもらえるのか、生活費、医療費のことなど不安はとても大きい。
- ・全般的に介護支援制度は充実していると思うが、利用者の増加に伴い、必ず利用料の増加や制限の増大があるのではと思っている。
- ・介護認定や役所の申し込みの回答が遅すぎる。これが遅れたため症状が悪化した。
- ・介護度の認定の基準がおかしいと思う。当初認知症の症状が出ていて、幻覚・幻聴があったりしたのに、日常的な事はほぼできるというので、わかってもらうのに苦労した。認定の方法をもっと広い目で見えて、変えてほしい。
- ・どのような形で本人がいくら利用しているか説明をうけてもわからない。ポイントと言われても、それが何のことだかわからない。年齢的にわかりやすい説明を考えてほしい。
- ・書類、契約書等はできるだけ減らしてほしい。介護で忙しく、いろいろな書類が多くわずらわしいことがあるので。
- ・介護サービスをもっとわかりやすくしてほしい。
- ・何かあった時にすぐ相談できる窓口があったらと思う。
- ・緊急時に相談にのってもらえたり、往診もより利用しやすくする仕組みがあるとよい。
- ・介護や認知症に関する情報など、広報に載せてほしい。
- ・身近にサービスが必要なのに、情報を全然得られないでいる人がいるので、ある程度は区などから高齢者に働きかけることが必要だと思う。
- ・ヘルパーさんの買い物の時に、お花を買ってきてもらえない。
- ・一見すると元気そうに見えるが、掃除機等が使えず、自分自身もどかしく感じる。1 回 1 時間、お手伝いくださるのはありがたいが、時間が少ないと思う。
- ・住宅改修費や介護用具の支給が遅い。間に合わないのて立て替えて支払っておくが、その間の生活が苦しいのが現状。もっとスピーディーに対処してほしい。
- ・短い時間、ちょっと声をかけ様子をみてくれるようなサービスを気軽に使えるとよい。
- ・夜間の見守り等がほしい。
- ・デイサービスの食事の負担が大きいので、食事負担の補助がほしい。
- ・現在デイサービスへリハビリに通っているが、時間が決められてしまっているのて、ある程度融通のきく施設があればいいと思う。
- ・緊急時にはすぐに預けられる施設があるとよいのだが。
- ・ショートステイが希望通り取れない事が多くなつてきて、急な用事ができても使えない。介護度の高い家庭のショートステイ、夜間の対応サービスを優先してほしい。
- ・母は胃ろうのため、ショートステイ利用が制限されている。日曜日等も利用できるようにしてほしい。
- ・ショートステイを利用時、6 か月先の日程に合わせなくてはならないので、不自由に感じる。
- ・これから家庭での生活ができなくなった場合、年金収入の少ない我々にも安い費用で老人ホームに入所できるようにしてほしい。

- ・現在1人で暮らしているが、先行きを考えると心細いので、自由に動けなくなったらすぐ入所できる特別養護老人ホームなどがあると心強い。
- ・低所得者に充実した施設がもっとほしい。特別養護老人ホームを希望するが、何年も入れず、家族がいない者にはもう少し早めに入所できる様、お願いしたい。
- ・近くに費用の安い老人ホームができればよいと思う。
- ・胃ろう等病気があると入れる施設が余りにも少なく、金銭的にも絶対無理なところばかりだった。医療型の老人ホームを充実させてほしい。
- ・認知症になった人を受け入れてくれる施設がもっとたくさんほしい。
- ・紙おむつの支給、大変助かっている。これからも利用させてほしい。
- ・ケアマネジャーやホームヘルパーの質が悪い。ほとんど働かないホームヘルパーが多い。もっと介護される側の事を見てあげてほしい。
- ・いずれ後見人制度のお世話になるのかと思うが、時に不祥事もあるようで心配。安心して利用できるようにしてほしい。
- ・福祉事業の従業員に対するあらゆる面での待遇をよくすること。区の政策に取り入れ改善することを切に希望する。
- ・マニュアルにこだわらず、人として対処してほしい。苦情をよけるために一律な対応は不便を感じるし、不快な面もある。
- ・介護サービスのスタッフの介護者への心遣いも教育してほしい。

## **【2】生活支援、外出・通院支援、地域の見守り等に対する意見・要望(21件より抜粋)**

- ・昼食や夕食のサービス(有料)が充実するとありがたい。
- ・低価格で、塩分やカロリーが計算されたお弁当の提供をしてもらいたい。
- ・ヘルパーさんにガラスふきその他家事の雑用、電球取り替え等してもらえない。介護する私も体調が悪いので困っている。
- ・通院等のタクシーサービス(補助)があると助かる。
- ・外出の時、車いすを押してくださるボランティアの方がいれば、安心して外出ができる。
- ・日中、家に独りでいる人に話し相手が訪問してくれるといいと思う。
- ・これから介護保険を使う人がどんどん増えるので、家事援助は地域で助け合う仕組みをつくってほしい。

## **【3】介護、介護者への支援に対する意見・要望(72件より抜粋)**

- ・介護をしている家族に少しでも経済支援をお願いしたい。
- ・映画鑑賞や、はり・きゅう等は重度の介護をしている者にはなかなか出られない。商品券みたいなものがよい。
- ・激励三療券のほかに理容券もつくってほしい。
- ・冠婚葬祭など、急な外出時に対応できる緊急ショートステイがあるとありがたい。
- ・介護者が泊りがけの外出ができない。1泊が簡単に泊まれる宿泊施設(要介護者用)を。
- ・介護者の入院等において、預ける場所がない。老老介護が増えるにつれて、このような対策を考えてほしい。
- ・現在デイサービスを受けているが、時間が9:30~4:30までなので、夕食まで食べて7:00頃帰って来る時間の長いデイサービスをつくってほしい。
- ・先の見えない介護には大変不安がある。訪問医、看護師等が来てくれたときに介護をする側も健康診断してもらえたら助かる。
- ・介護する人と介護される人、介護スタッフが同時に(一緒に)楽しめるレクリエーションの場(鑑賞、親睦会他)を設けてほしい。

- ・介護と仕事をしているので、介護者同士の茶話会や交流の場は、ほとんど平日で行けない。せめて、土曜日に行ってもらいたい。
- ・施設の入居手続きや本人を搬送する際、介護者は会社を休まざるを得なかった。土・日曜日でも対応できるようにしてほしい。
- ・認知症の家族を支えている者にとって、時間をかけて話を聞いてくれる場所があるとよい。区の無料法律相談も、電話予約できるとうれしい。

#### 【4】保健医療福祉施策に対する意見・要望(76件より抜粋)

- ・緊急時の医療体制を充実してほしい。
- ・夜間でも診察してくださる個人的な医療機関が多くできることを望む。
- ・高齢者の親が病気になった時に通院するのが困難である。江戸川区は往診してくれる医療機関がほとんどない。医師会にどんどん協力依頼をすべきである。
- ・大学病院を誘致することも必要。病院が少なすぎる。
- ・江戸川区はすべてにおいて、高齢者、子どもに対して手厚くやってくれていると思う。
- ・認知症の診断と治療のできる診療所を増やしてほしい。
- ・ネット環境が整っていない家庭や、若年層がいない家の人は、利用方法がわからなかったり、サービス等を知らないことがあると思うので、不利のない情報提供をしてほしい。
- ・窓口手続きや相談に行った時など、親切にしていただけるととてもうれしい。
- ・提出書類が様々で、縦割り行政で困っている。
- ・休日にも行政窓口を開いてほしい。
- ・本人が突然病気になり、年金以外の収入が途絶えた場合、前年度の収入に対する税金など納税に対する軽減の手立てを用意してほしい。

#### 【5】就労・生きがい・社会参加に対する意見・要望(3件より抜粋)

- ・高齢者も何か生産・販売し、少しの収入でも得られるようにする。このような政策があれば、喜びになり元気になっていくのではないかな？
- ・同年代の人との交流がなく、ひとり暮らしの方とお話できる場所があればと思う。また、未亡人になった人の集いがあると聞いたが、どこにあるのか教えてほしい。

#### 【6】健康づくり・介護予防について(2件)

- ・介護において食事はとても重要なので、手早く簡単においしくつくれる「糖尿病予防の料理講座」があればと思う。
- ・自分の認知症への不安が高まっている。予防方法や、健診（脳ドック等）の充実を期待する。

#### 【7】道路・公園等のまちづくり、住宅に対する意見・要望(31件より抜粋)

- ・散歩するため、公園、河川敷等の整備・充実を。
- ・健康のため散歩するが（杖使用）、疲れた時に休める場所、イス等がほしいと思う。近所に全然ない。
- ・車いす用のトイレに、大人のおむつ交換ができるベッドを増やしてほしい。
- ・公共の身体障害者用の場所だけでなく、トイレの便器を高くしてほしい。老人は膝に負担がかかるので。
- ・スーパー等の店舗は幅が狭い所が多いので、シルバーカーを使ってゆっくり歩ける位の広さの店が増えるといい。
- ・道路がデコボコだったりして危ないので、バリアフリーをもっと取り入れてほしい。

- ・ 区内を走るコミュニティバスがあれば通院等に便利になると思う。
- ・ 駅のエスカレーターは下りがないので、手すりにつかまって一段ずつ降りることが不自由で困っている。
- ・ 駅前通りにとめてある自転車が、ひどい時には2列になっていて車いすが通れない。駅前に立派な駐輪場があるのだから、もう少し有効利用を考えてほしい。

#### **【8】その他(51件より抜粋)**

- ・ この先、病気がもっと進んだ時のことを考えるととても心配。
- ・ 一人ひとりが身体に気をつけて自分ができることをする。前向きな生活をしていくつもりなので、皆様の手助けを望む。
- ・ アンケートの量が多すぎる。もう少し簡単にしてほしい。高齢者自身が記入する場合は大変な作業だった。

# 第 5 章

## 区民向け4調査間の 比較結果

※区民を対象とした4調査間の比較結果では、各調査名を下記のとおり省略して表記する。

「健康と生きがいに関する調査」	⇒【 団 塊 調 査 】
「熟年者の健康と生きがいに関する調査」	⇒【 一般高齢者調査 】
「介護予防に関する調査」	⇒【 介護予防調査 】
「介護保険サービス利用に関する調査」	⇒【 利用者調査 】



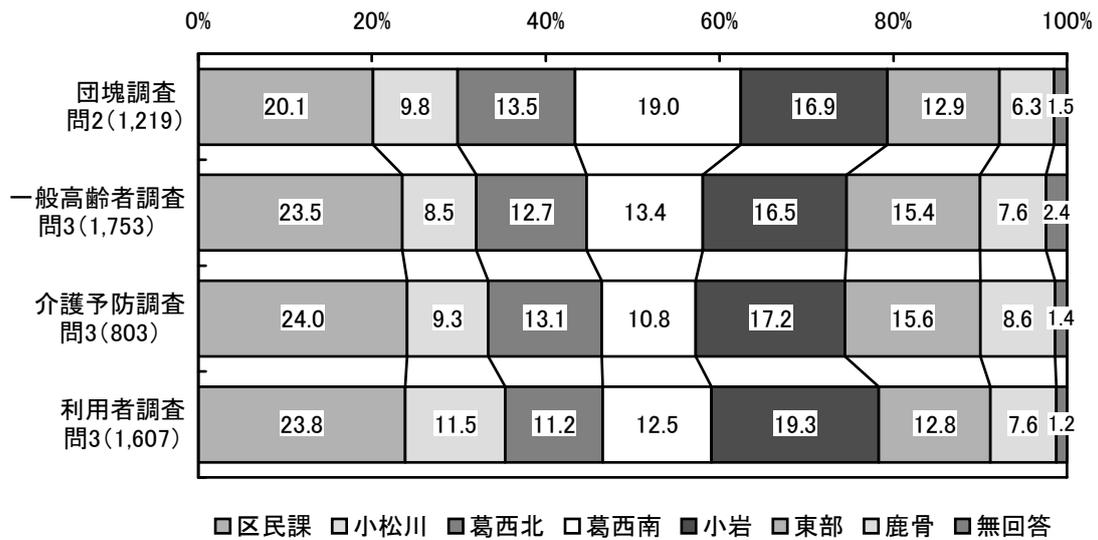
# 1. 基本的属性

## (1)居住地(日常生活圏域)

【団塊調査】は、【一般高齢者調査】に比べて「葛西南」居住者の割合が高い。

【介護予防調査】【利用者調査】は、【一般高齢者調査】に比べて「小松川」「小岩」居住者の割合が高くなっている。

図表5-1 居住地(日常生活圏域)



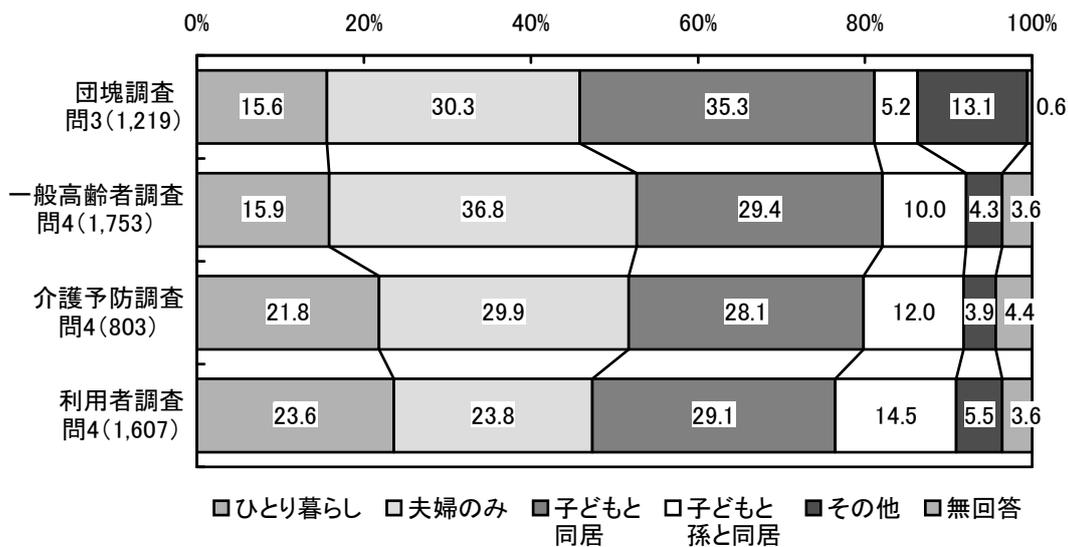
※ ( ) は回答者数

## (2) 世帯構成

【団塊調査】と【利用者調査】は「子どもと同居」、【一般高齢者調査】と【介護予防調査】は「夫婦のみ」の割合がそれぞれもっとも高い。

また、「ひとり暮らし」の割合は、【団塊調査】と【一般高齢者調査】では1割台であるのに対し、【介護予防調査】と【利用者調査】では2割を超える。

図表5-2 世帯構成



※ ( ) は回答者数

※ 「親と同居」「親と子どもと同居」は「その他」に含めて集計している

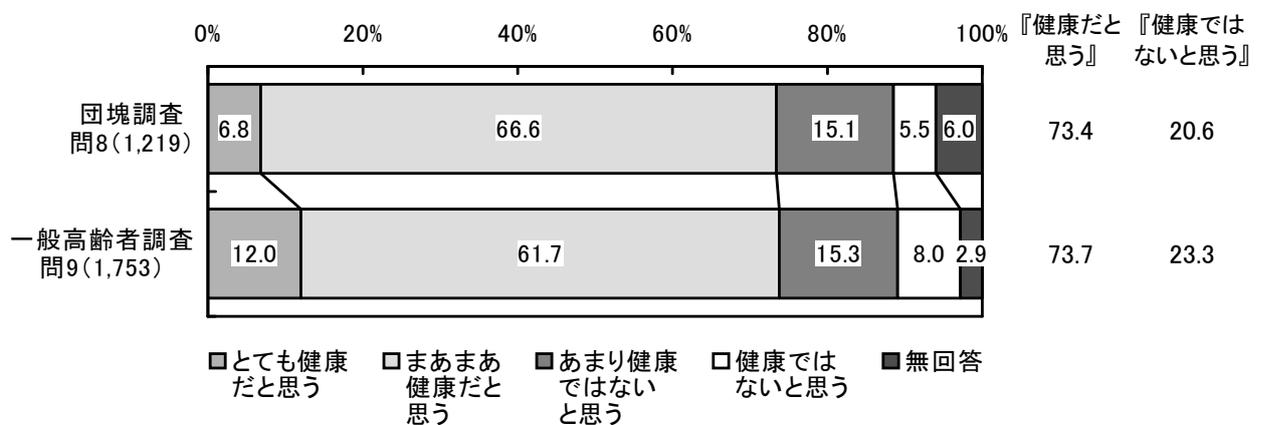
## 2. 健康・介護予防について

### (1)健康状態

『健康だと思う』割合は、【団塊調査】73.4%、【一般高齢者調査】73.7%と、結果にほとんど差はないが、【一般高齢者調査】は【団塊調査】に比べて「とても健康だと思う」と回答した人の割合が高い。

一方、『健康ではないと思う』と回答した人の割合は、【団塊調査】20.6%、【一般高齢者調査】23.3%であり、【一般高齢者調査】の方が2.7ポイント高くなっている。

図表5-3 健康状態



※ ( ) は回答者数

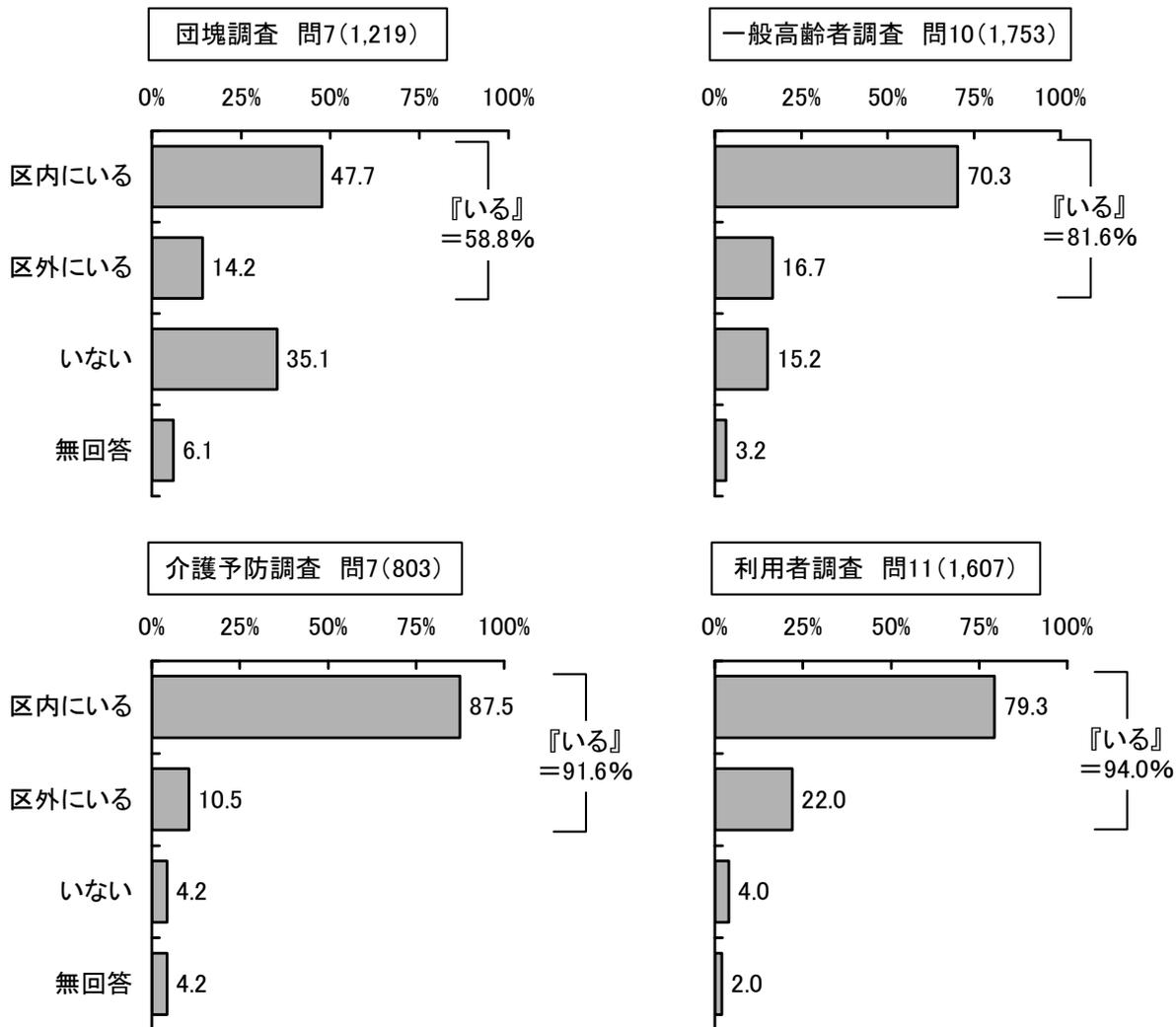
※『健康だと思う』 = 「とても健康だと思う」 + 「まあまあ健康だと思う」

※『健康ではないと思う』 = 「あまり健康ではないと思う」 + 「健康ではないと思う」

## (2) かかりつけ医の有無

かかりつけ医が「いる」割合は、【団塊調査】は5割台、【一般高齢者調査】は8割台、【介護予防調査】と【利用者調査】は9割台となっている。

図表5-4 かかりつけ医の有無



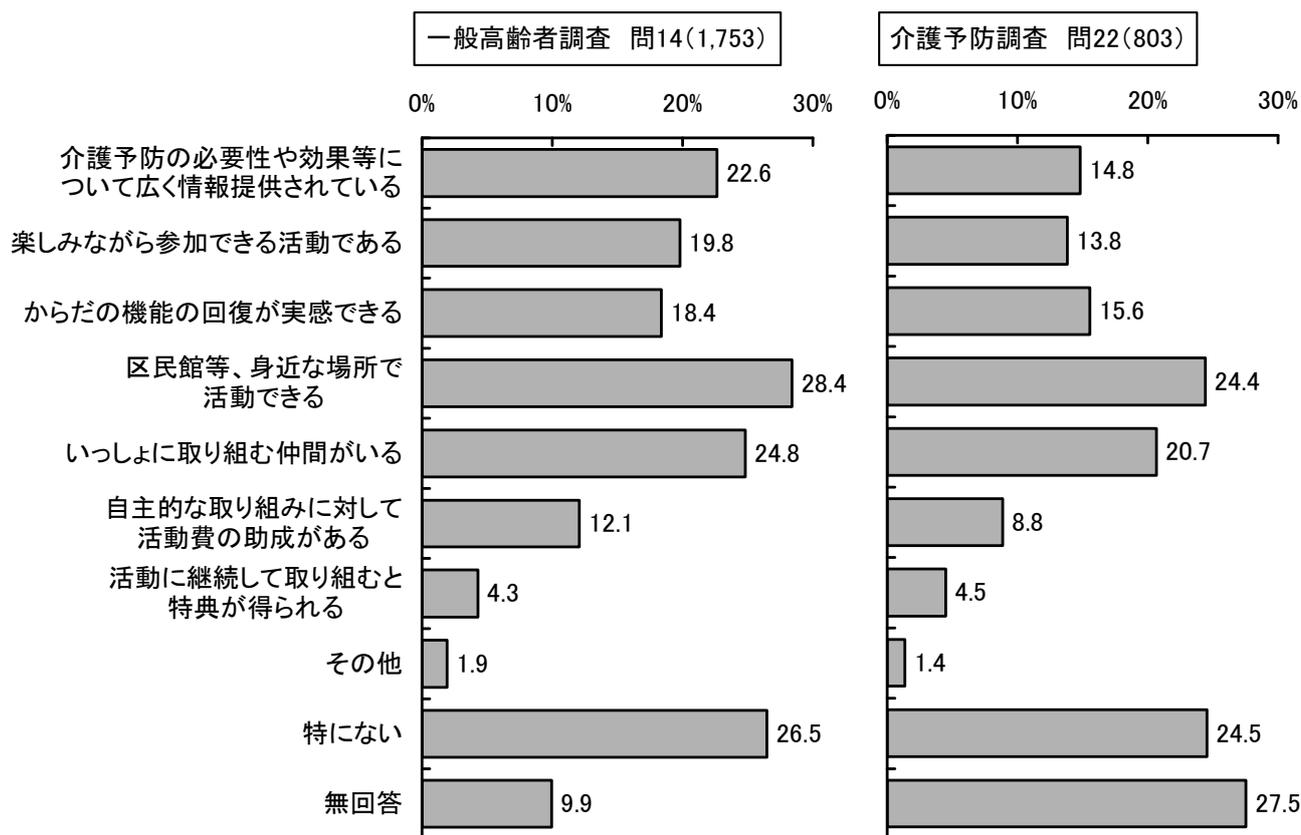
※ ( ) は回答者数

※ 『いる』 = 100% - 「いない」 - 「無回答」

### (3) 介護予防に取り組みやすくするための条件

【一般高齢者調査】【介護予防調査】とも、「区民館等、身近な場所で活動できる」「いっしょに取り組む仲間がいる」が上位2項目である。次いで、【一般高齢者調査】では「介護予防の必要性や効果等について広く情報提供されている」が、【介護予防調査】では「からだの機能の回復が実感できる」がそれぞれ第3位となっている。

図表5-5 介護予防に取り組みやすくするための条件



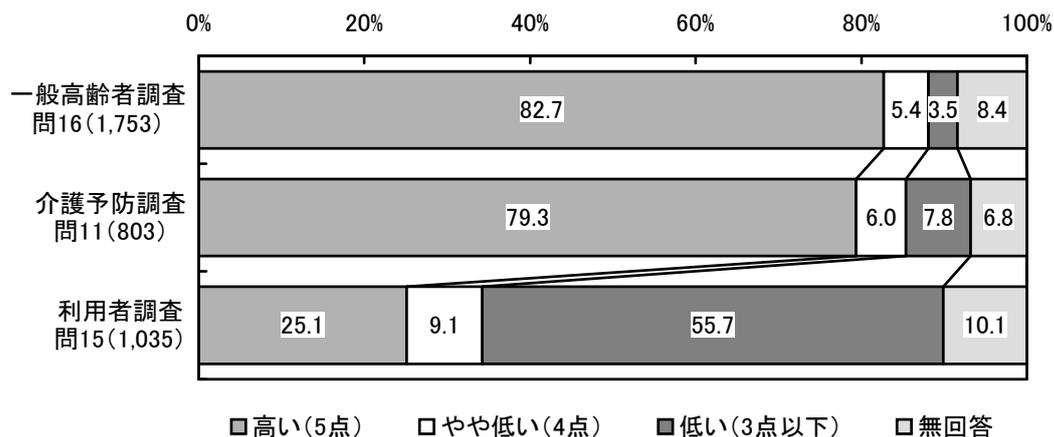
※ ( ) は回答者数

### 3. 日常生活の状況について

#### (1) 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度

手段的日常生活動作 (IADL) については、【一般高齢者調査】と【介護予防調査】では「高い (5点)」が8割前後を占めるが、【利用者調査】では2割台であり、「低い (3点以下)」が55.7%と過半数を占める。

図表5-6 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度



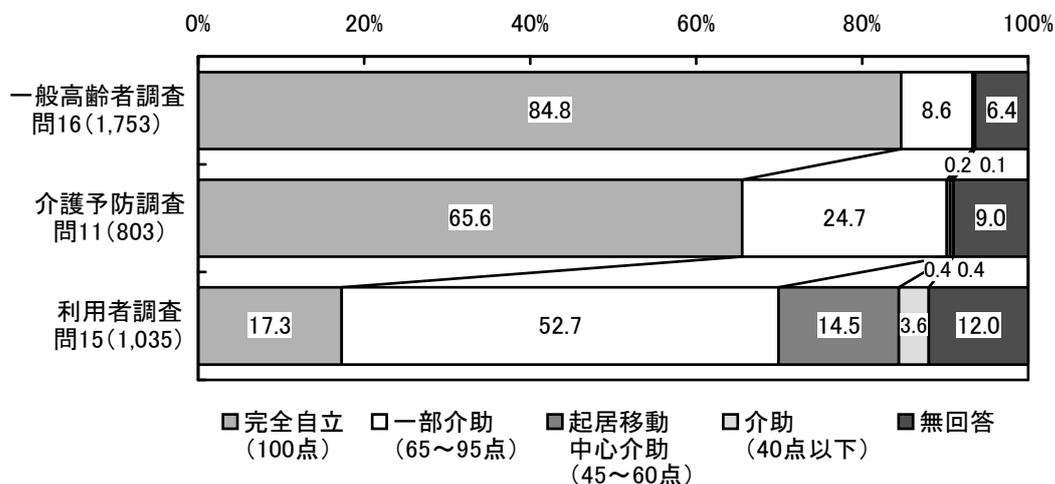
※ ( ) は回答者数

#### (2) 日常生活動作 (ADL) の自立度

日常生活動作 (ADL) については、【一般高齢者調査】では8割台、【介護予防調査】では6割台が「完全自立 (100点)」となっている。

一方、【利用者調査】では「完全自立 (100点)」は1割台であり、「一部介助 (65~95点)」が52.7%、「起居移動中心介助 (45~60点)」が14.5%となっている。

図表5-7 日常生活動作 (ADL) の自立度



※ ( ) は回答者数

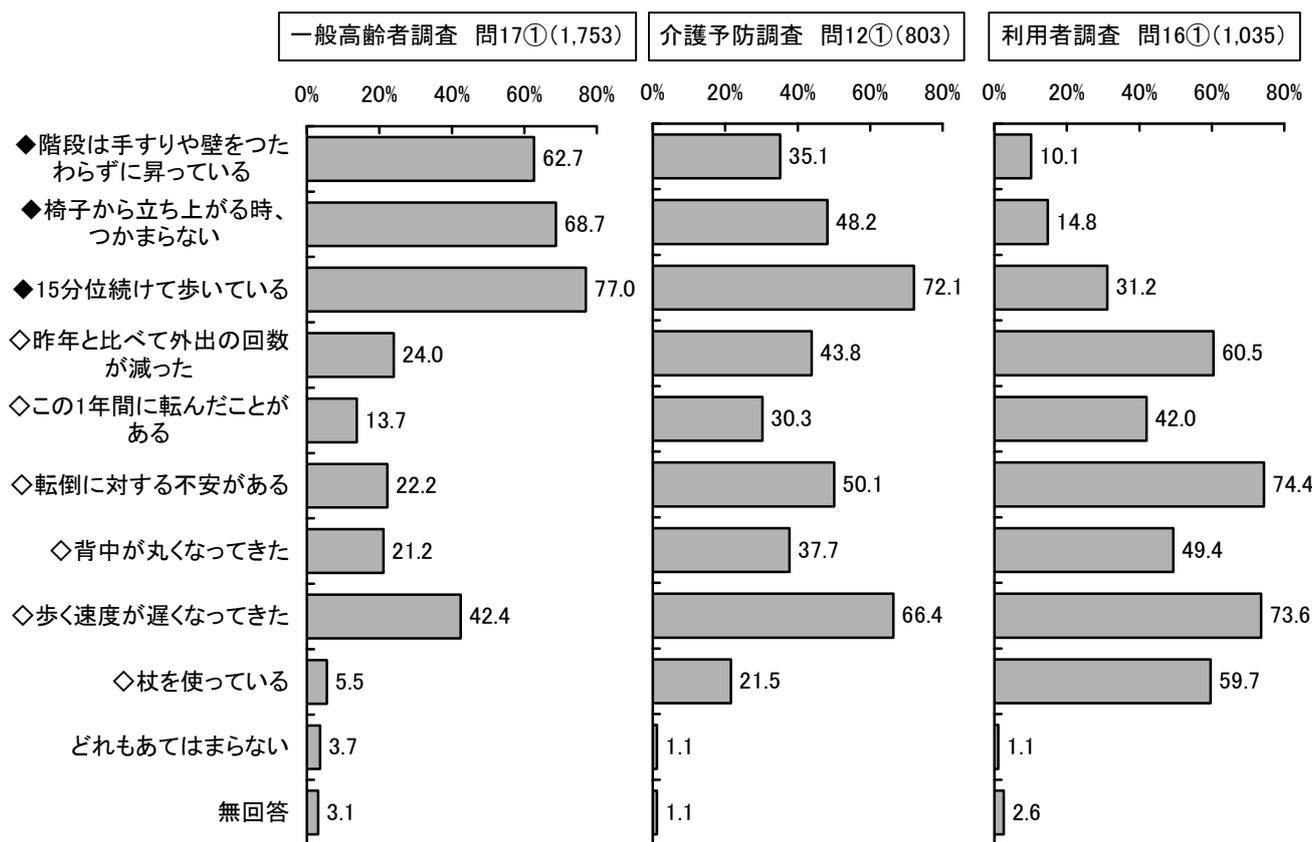
### (3)生活機能の状況

#### ①運動や転倒の状況

肯定的な内容である前半3項目、「階段は手すりや壁をつたわずに昇っている」「椅子から立ち上がる時、つかまらない」「15分位続けて歩いている」については、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど割合が低くなっている。特に「15分位続けて歩いている」は、【利用者調査】における割合の低下が顕著である。

反対に、否定的な内容である「昨年と比べて外出の回数が減った」「この1年間に転んだことがある」「転倒に対する不安がある」「背中が丸くなってきた」「歩く速度が遅くなってきた」「杖を使っている」については、介護の必要性が高くなるほど割合が高くなっている。

図表5-8 運動や転倒の状況



※ ( ) は回答者数

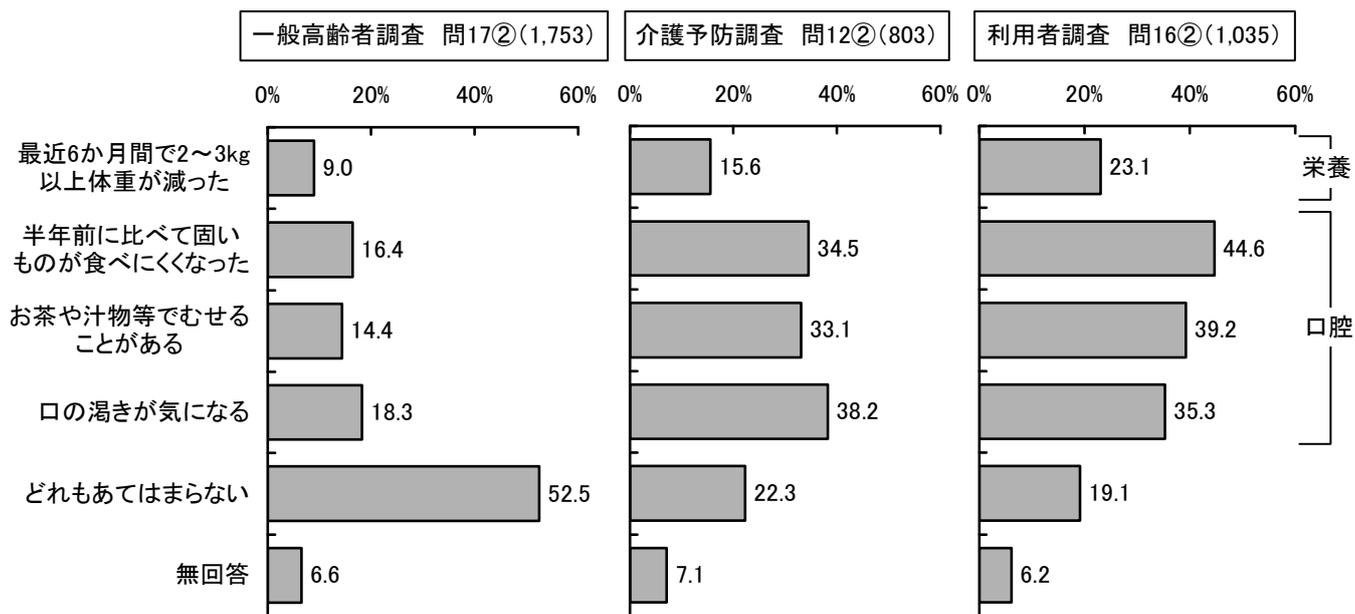
※ ◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

## ②栄養や口腔機能の状況

栄養に関する「最近6か月間で2～3kg以上体重が減った」は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど割合が高くなっている。

口腔機能に関する3項目も概ね同様の結果であるが、【一般高齢者調査】1割台に対し、【介護予防調査】と【利用者調査】では3～4割台と割合の変化が顕著になっている。

図表5-9 栄養や口腔機能の状況

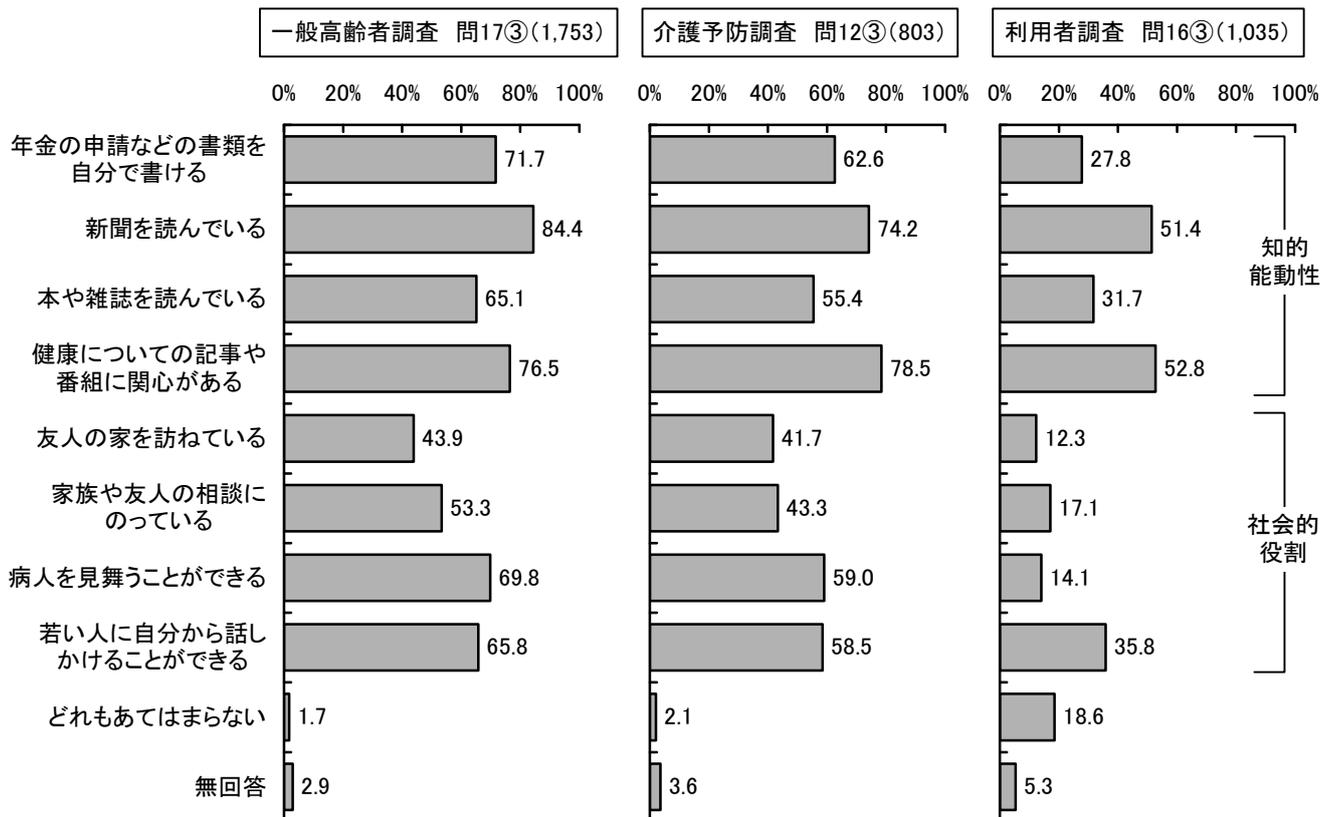


※ ( ) は回答者数

### ③社会活動の状況

知的能動性（余暇や創作など生活を楽しむ能力）に関する4項目、社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）に関する4項目ともに、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど割合が概ね低くなっている。特に、社会的役割に関する4項目に関しては、【利用者調査】において大きく割合が低下していることがわかる。

図表5-10 社会活動の状況



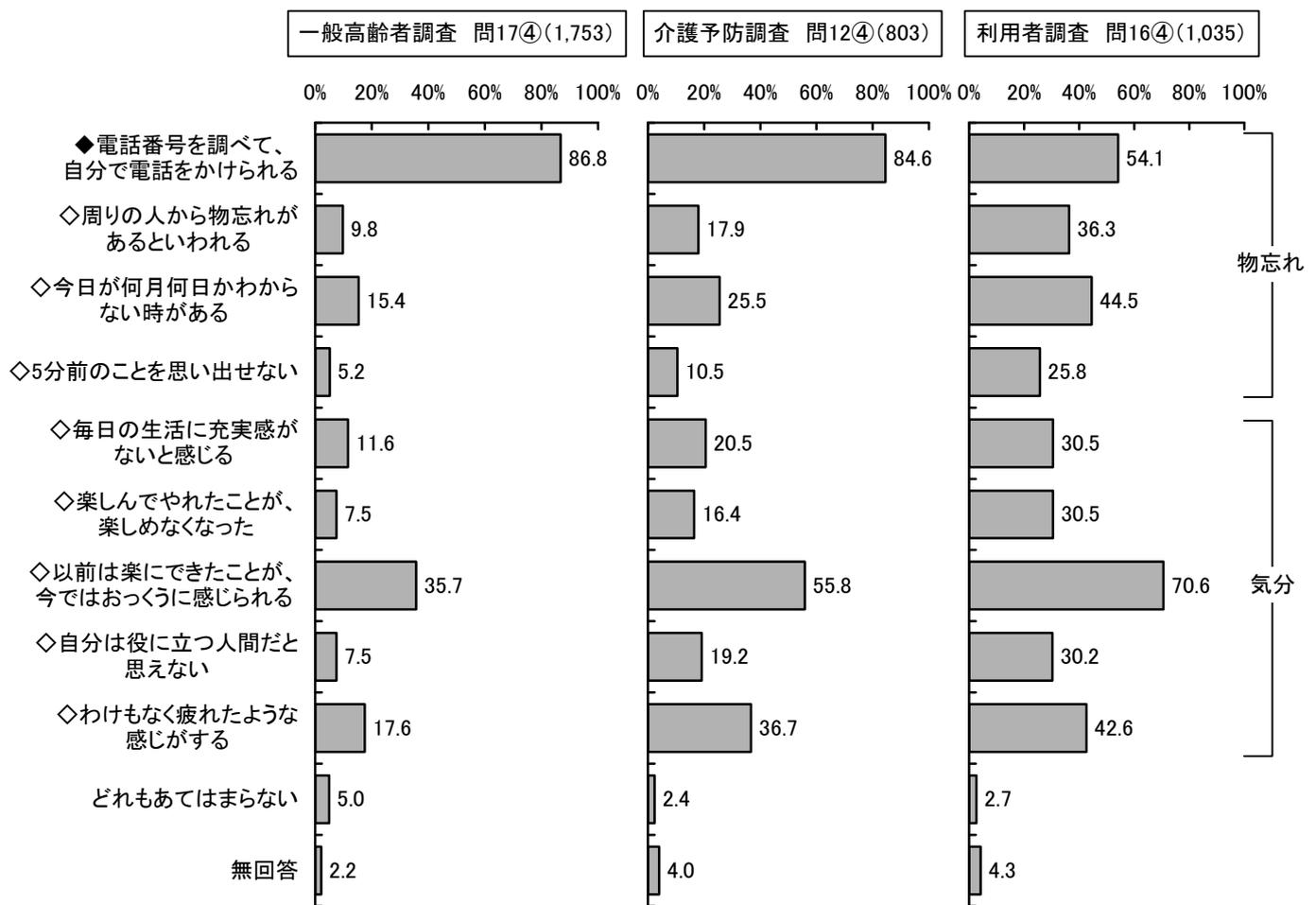
※（ ）は回答者数

#### ④物忘れや気分の状況

物忘れに関する4項目のうち、肯定的な内容である「電話番号を調べて、自分で電話をかけられる」は【利用者調査】において、大きく割合が低下している。否定的な内容であるその他の3項目は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と介護度の必要性が高くなるほど割合が高くなっている。

気分に関する5項目については、いずれも介護度の必要性が高くなるほど割合が高くなっており、【利用者調査】では約7割が「以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる」と回答している。

図表5-11 物忘れや気分の状況



※ ( ) は回答者数

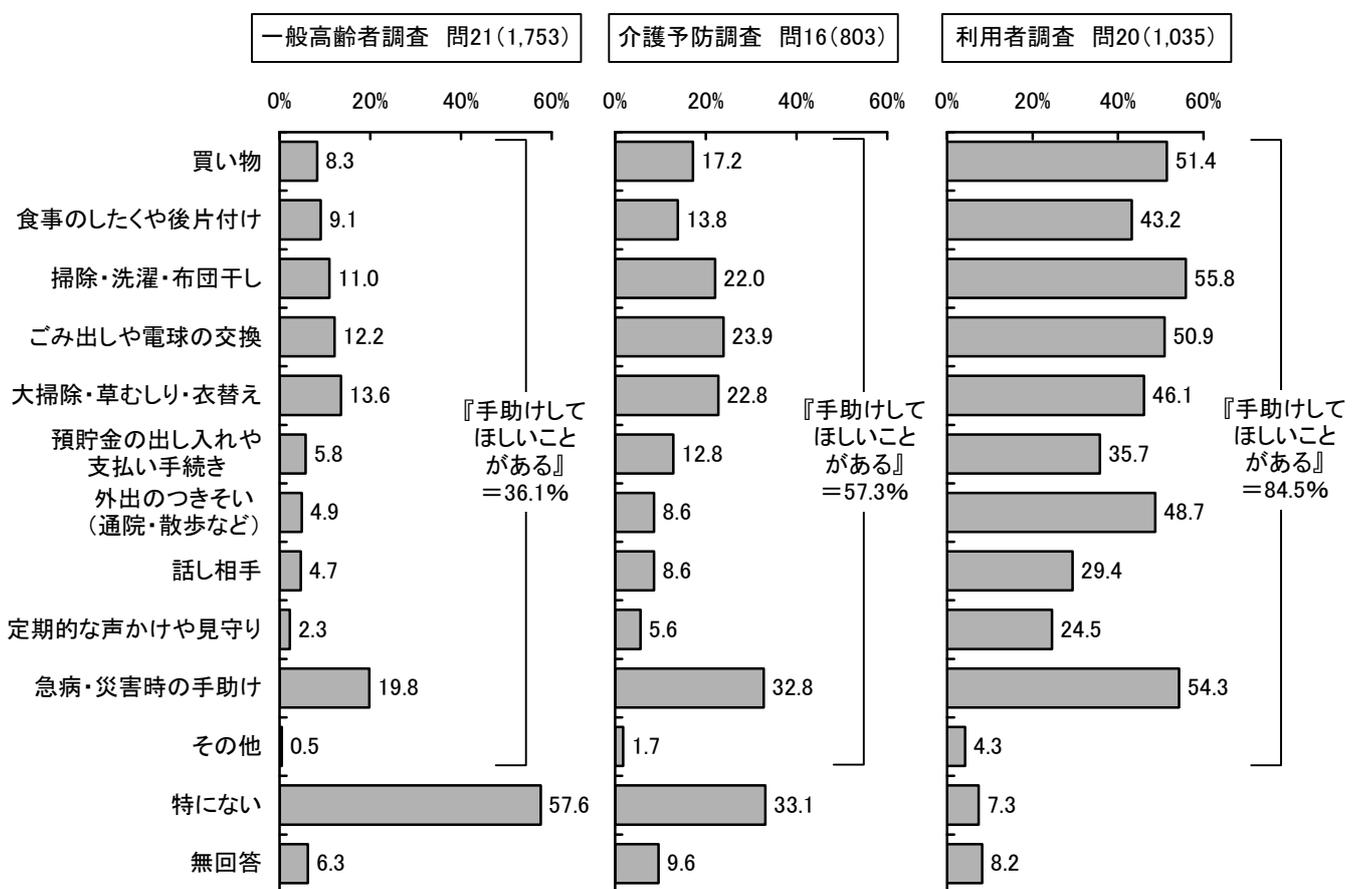
※ ◆は肯定的な内容、◇は否定的な内容

#### (4) 日常生活の中で手助けしてほしいこと

『手助けしてほしいことがある』と回答した人の割合は、【一般高齢者調査】、【介護予防調査】、【利用者調査】と、介護の必要性が高くなるほど高くなっている。

手助けしてほしい内容をみると、【一般高齢者調査】【介護予防調査】では「急病・災害時の手助け」がもっとも高い。一方、【利用者調査】では「掃除・洗濯・布団干し」55.8%がもっとも高く、また、「急病・災害時の手助け」「買い物」「ごみ出しや電球の交換」についても半数以上が手助けしてほしいと回答している。

図表5-12 日常生活の中で手助けしてほしいこと



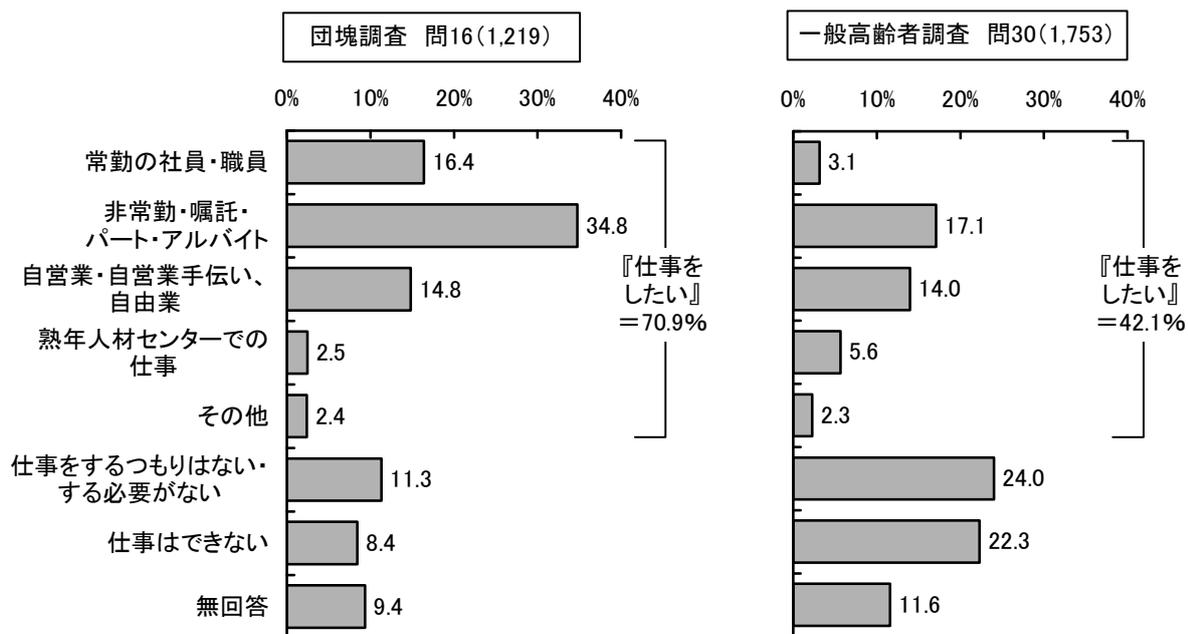
※ ( ) は回答者数

## 4. 就労状況、参加活動、生きがいづくりについて

### (1) 今後の就労意向と就労を継続したい年齢

【団塊調査】では70.9%、【一般高齢者調査】では42.1%が、今後『仕事をしたい』との意向を示している。就労を継続したい年齢は、【団塊調査】は「70歳くらいまで」、【一般高齢者調査】は「元気であればいつまでも働きたい」がそれぞれもっとも高い。

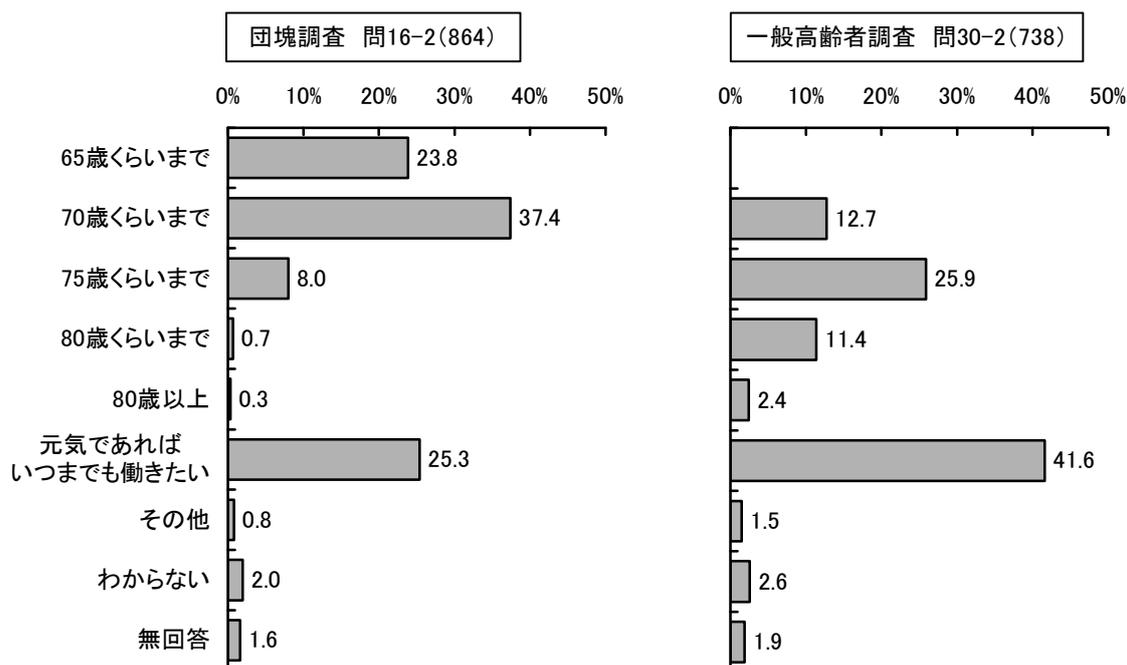
図表5-13 今後の就労意向



※ ( ) は回答者数

※『仕事をしたい』=100%－「仕事をするつもりはない・する必要がない」－「仕事はできない」－「無回答」

図表5-14 就労を継続したい年齢



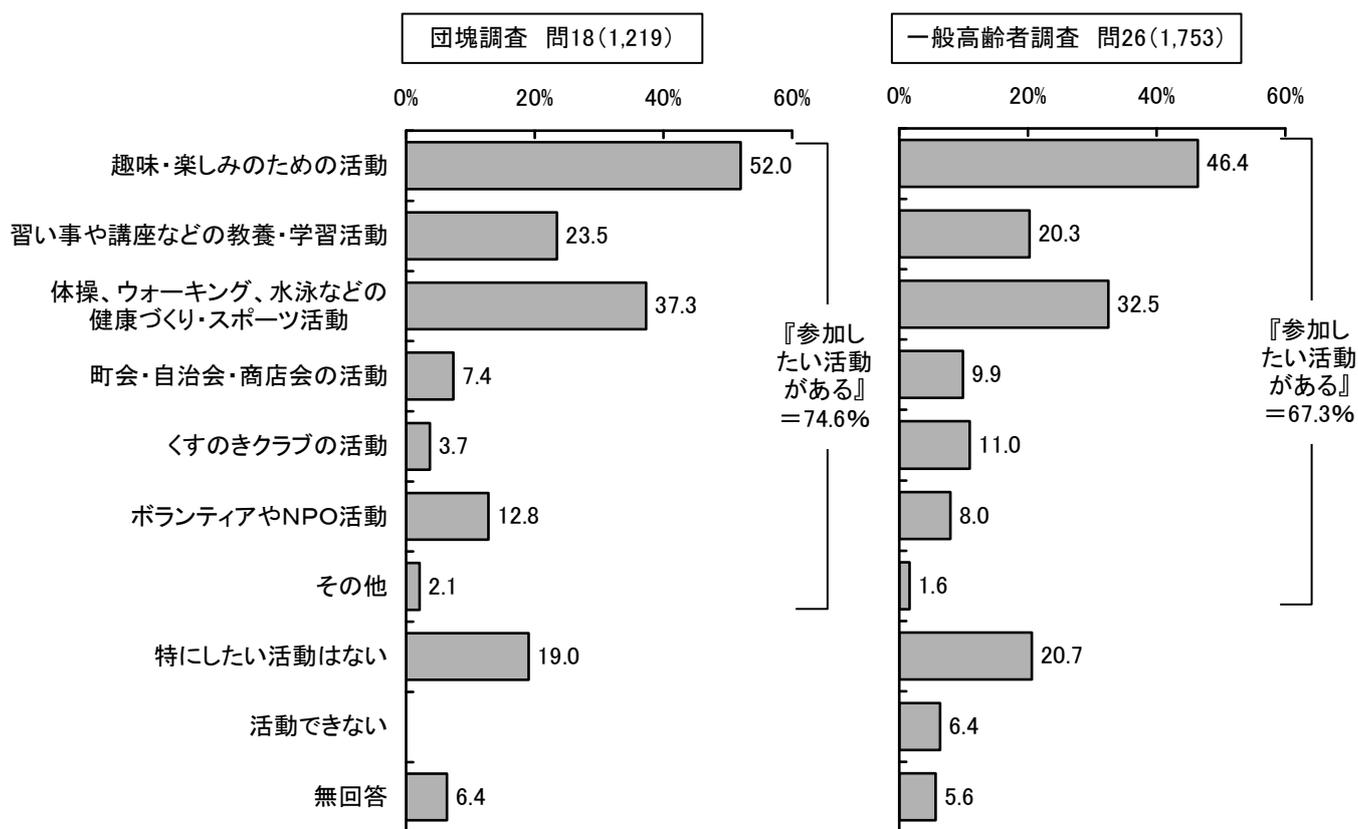
※ ( ) は回答者数

## (2) 今後参加したい余暇活動・社会参加活動

余暇活動・社会参加活動について、【団塊調査】の74.6%、【一般高齢者調査】の67.3%が『参加したい活動がある』と回答している。

【団塊調査】【一般高齢者調査】とも、「趣味・楽しみのための活動」「体操、ウォーキング、水泳などの健康づくり・スポーツ活動」「習い事や講座などの教養・学習活動」が、参加したい活動の上位3項目となっている。

図表5-15 今後参加したい余暇活動・社会参加活動



※ ( ) は回答者数

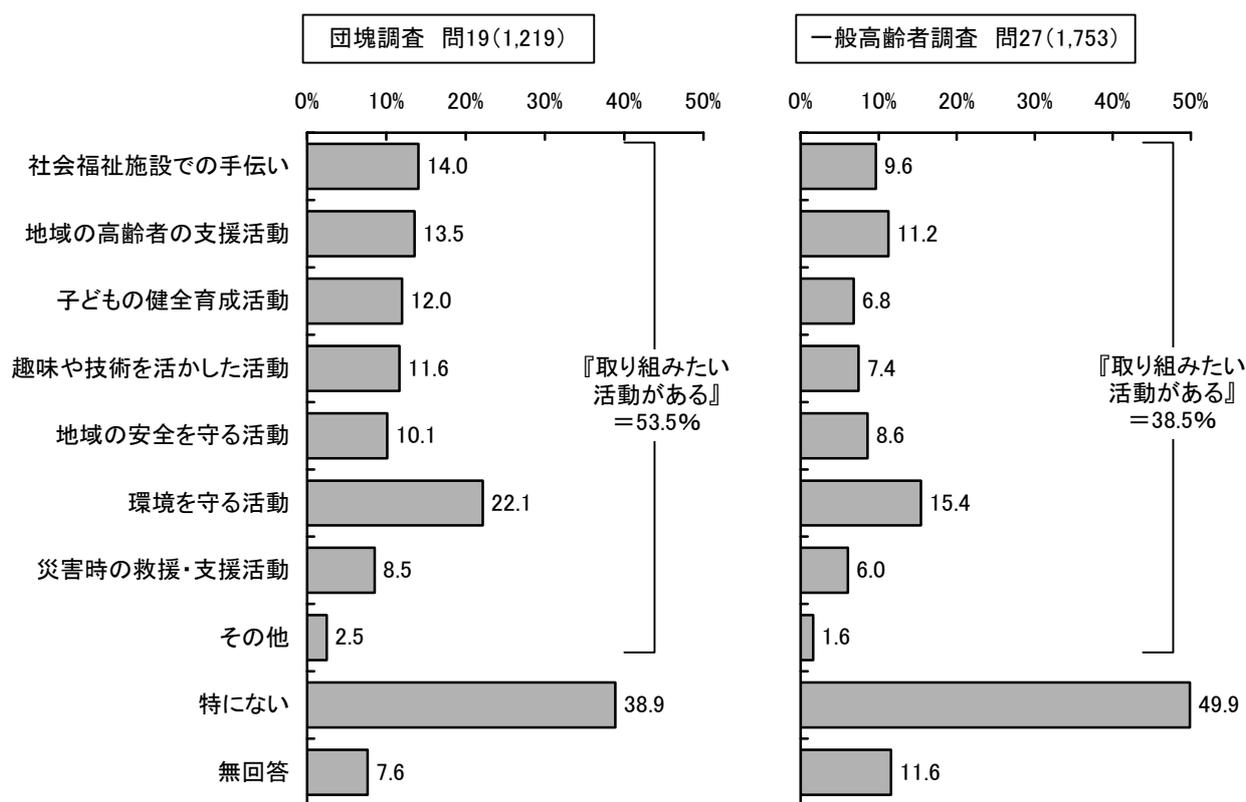
※ 『参加したい活動がある』 = 100% - 「特にしたい活動はない」 - 「活動できない」 - 「無回答」

### (3) 取り組んでみたいボランティア活動

ボランティア活動については、【団塊調査】の53.5%、【一般高齢者調査】の38.5%が『取り組みたい活動がある』と回答している。

【団塊調査】では「環境を守る活動」に次いで「社会福祉施設での手伝い」、【一般高齢者調査】では「環境を守る活動」に次いで「地域の高齢者の支援活動」への意向が高くなっている。

図表5-16 取り組んでみたいボランティア活動



※ ( ) は回答者数

※ 『取り組みたい活動がある』 = 100% - 「特にない」 - 「無回答」

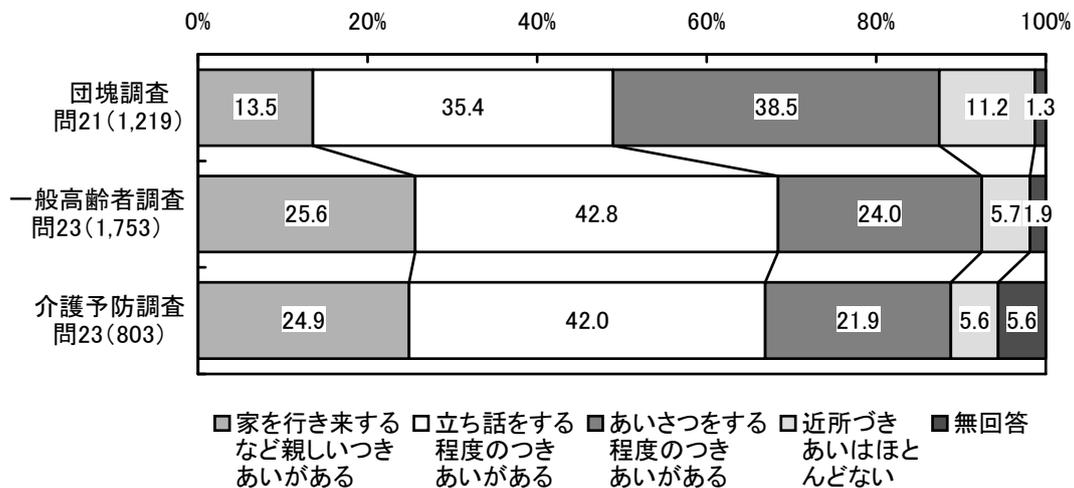
## 5. 地域とのかかわりについて

### (1) 近所の人とのつきあいの程度

【団塊調査】では「あいさつをする程度のつきあいがある」が4割近くを占めてもっとも高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいがある」が続く。また、約1割が「近所づきあいはほとんどない」と回答している。

【一般高齢者調査】と【介護予防調査】では、「立ち話をする程度のつきあいがある」が約4割を占めてもっとも高く、次いで「家を行き来するなど親しいつきあいがある」となっている。

図表5-17 近所の人とのつきあいの程度



※ ( ) は回答者数

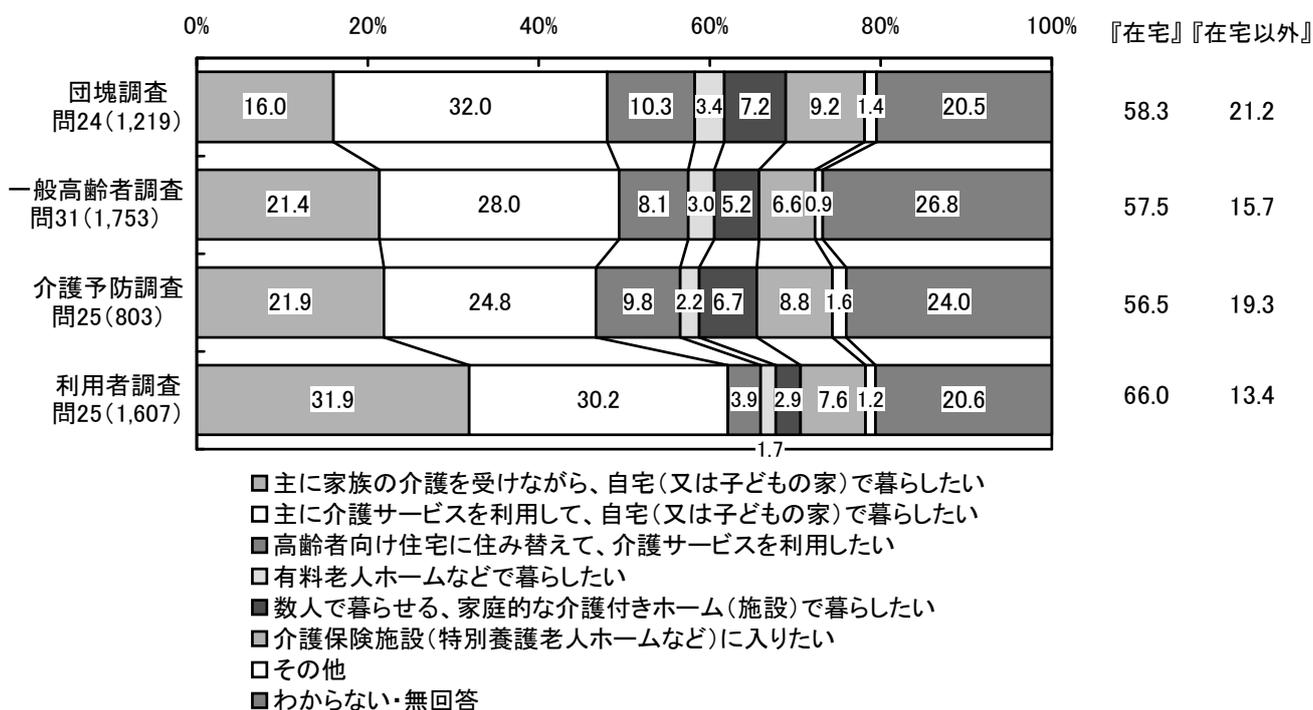
## 6. 今後の暮らしや介護について

### (1) 今後介護を受けたい場所

『在宅』を希望する割合は、すべての調査で5割を超えている。

「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」との意向が各調査とも高いが、【利用者調査】においては、「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」の割合がもっとも高くなっている。

図表5-18 今後介護を受けたい場所



※ ( ) は回答者数

※『在宅』 = 「主に家族の介護を受けながら、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 + 「主に介護サービスを利用して、自宅（又は子どもの家）で暮らしたい」  
 + 「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」

※『在宅以外』 = 「有料老人ホームなどで暮らしたい」  
 + 「数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム（施設）で暮らしたい」  
 + 「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入りたい」  
 + 「その他」

## (2) 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

いずれの調査においても、「住み続けられる住まいがある」「家族が同居している、または近くにいる」が、上位2項目となっている。次いで、【団塊調査】【一般高齢者調査】【利用者調査】では「訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある」が、【介護予防調査】では「身近に利用できる医療機関がある」が第3位にあげられている。

図表5-19 在宅で暮らし続けるために必要と思うこと

	団塊 調査 問 25	一般高齢 者調査 問 32	介護予防 調査 問 26	利用者 調査 問 26
回答者数	1,219 人	1,753 人	803 人	1,607 人
住み続けられる住まいがある	66.1%	60.7%	57.0%	62.7%
家族が同居している、または近くにいる	53.5%	49.1%	43.2%	54.5%
見守ってくれる友人、知人が近くにいる	18.0%	14.4%	13.8%	17.0%
訪問介護やデイサービスなど、普段から利用できる介護サービスがある	46.9%	31.7%	25.4%	45.5%
必要に応じて、通ったり宿泊できるような介護サービスがある	29.9%	20.3%	17.1%	26.4%
24 時間いつでも訪問してくれる介護サービスがある	33.8%	22.0%	19.7%	21.2%
身近に利用できる医療機関がある	39.2%	31.1%	29.8%	40.3%
いつでも利用(入所)できる施設が近くにある	31.2%	20.5%	17.7%	22.7%
その他	0.9%	0.9%	0.4%	1.4%
わからない	9.6%	10.6%	11.8%	6.7%
特になし	2.1%	2.9%	3.0%	1.6%
無回答	2.6%	6.7%	9.3%	8.0%

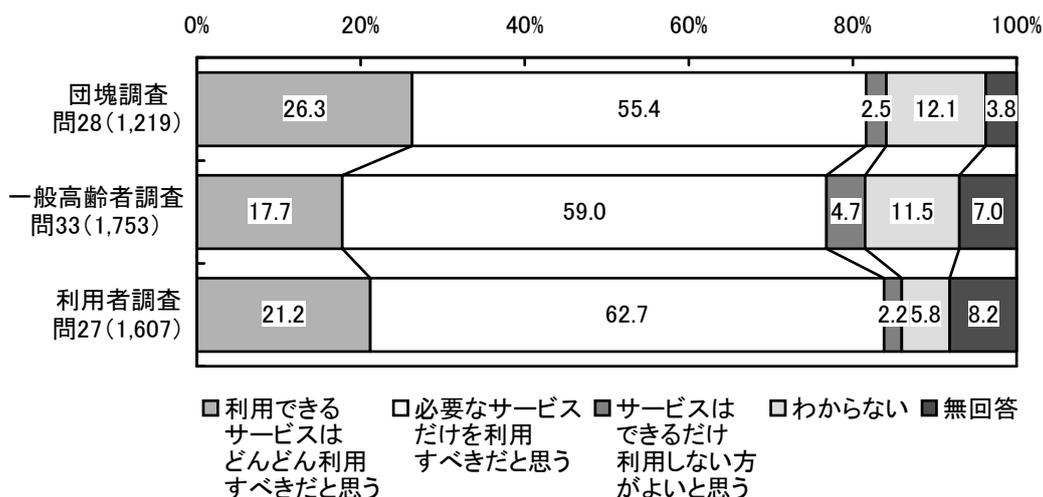
※網掛けは各調査の上位3項目

### (3) 介護保険サービスの利用に対する考え

いずれの調査においても「必要なサービスだけを利用すべきだと思う」がもっとも高く、【団塊調査】と【一般高齢者調査】では5割台、【利用者調査】では6割台を占める。

「利用できるサービスはどんどん利用すべきだと思う」をあげた人の割合は、【団塊調査】26.3%がもっとも高く、【利用者調査】が21.2%、【一般高齢者調査】が17.7%となっている。

図表5-20 介護保険サービスの利用に対する考え

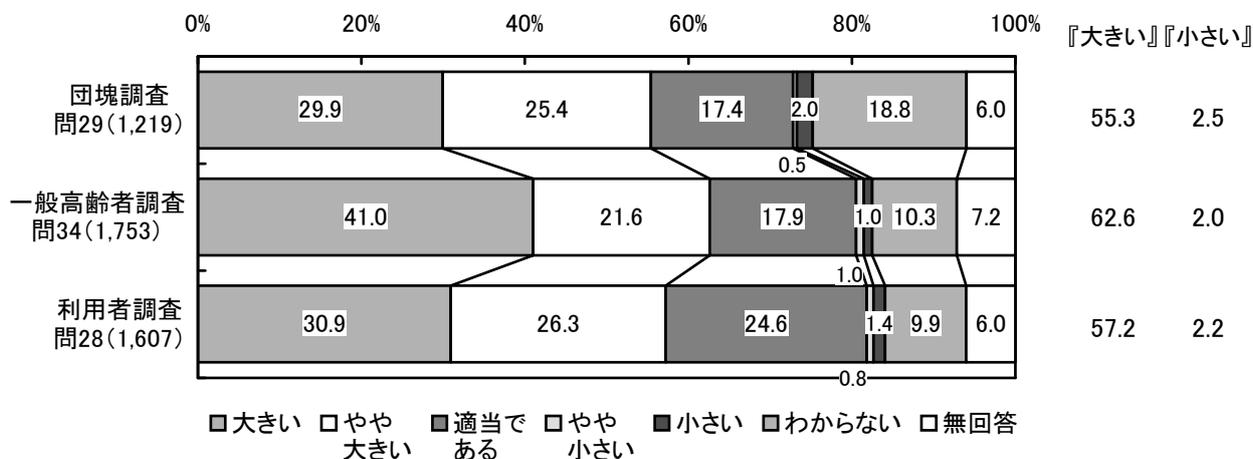


※ ( ) は回答者数

### (4) 介護保険料の家計への影響

いずれの調査においても5割以上が家計への影響は『大きい』と回答しており、特に【一般高齢者調査】では6割を超えている。【利用者調査】では24.6%が「適当である」と回答しており、【団塊調査】や【一般高齢者調査】に比べて高い割合となっている。

図表5-21 介護保険料の家計への影響



※ ( ) は回答者数

※ 『大きい』 = 「大きい」 + 「やや大きい」

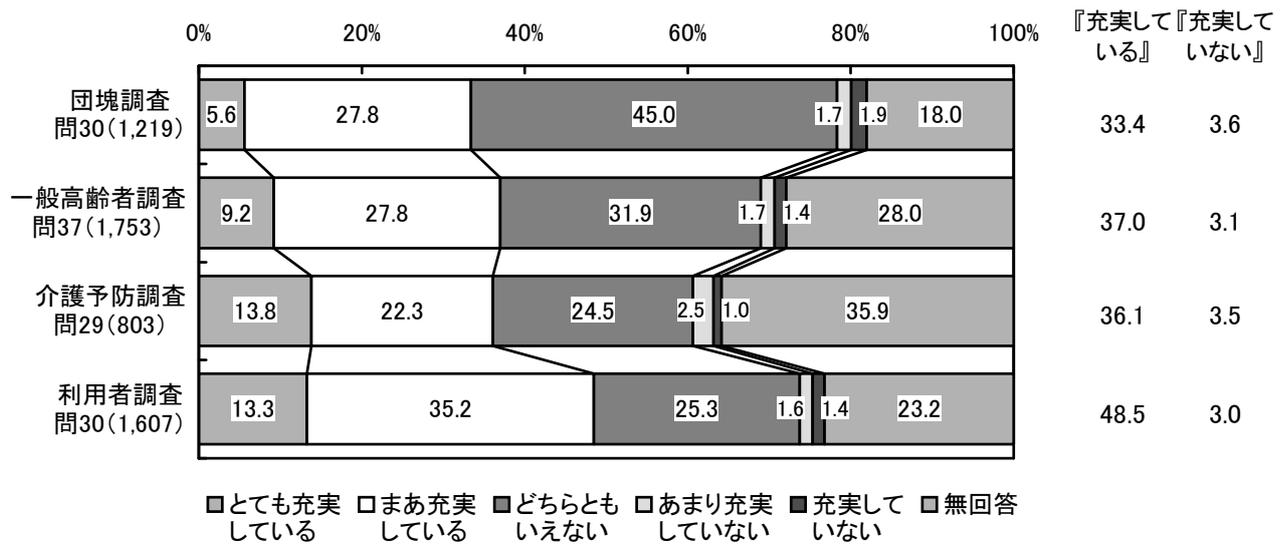
※ 『小さい』 = 「やや小さい」 + 「小さい」

## 7. 江戸川区の熟年者施策について

### (1) 区の熟年者施策の充実度

区の熟年者施策について『充実している』と回答した人の割合は、【団塊調査】【一般高齢者調査】【介護予防調査】の3割台に対し、【利用者調査】は48.5%と、他の調査に比べて高い割合となっている。

図表5-22 区の熟年者施策の充実度



※ ( ) は回答者数

※ 『充実している』 = 「とも充実している」 + 「まあ充実している」

※ 『充実していない』 = 「あまり充実していない」 + 「充実していない」

## (2) 区の熟年者施策で充実してほしいこと

いずれの調査においても「介護する家族に対する支援」が第1位であり、特に【一般高齢者調査】では50.9%と約半数の人からあげられている。

また、「在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実」は、【団塊調査】を除く3つの調査で上位3項目に入っている。

図表5-23 区の熟年者施策で充実してほしいこと

	団塊調査 問 31	一般高齢者調査 問 38	介護予防調査 問 30	利用者調査 問 31
回答者数	1,219 人	1,753 人	803 人	1,607 人
健康づくりや介護が必要にならないための支援	38.1%	44.9%	35.6%	31.2%
熟年者の就労や社会参加の支援	38.3%	25.4%	16.6%	15.5%
配食や買い物、ごみ出し等の生活支援	21.3%	17.3%	15.4%	26.6%
在宅生活を支える医療ケアなど医療の充実	42.3%	42.5%	36.9%	40.1%
在宅生活を支える介護サービス	44.0%	41.4%	34.9%	43.4%
介護が必要になっても住み続けられる住まいの整備	37.3%	38.7%	33.7%	33.2%
介護を受けられる入所施設の整備	43.8%	39.7%	36.1%	38.1%
ひとり暮らしの人等を地域で見守るネットワークづくり	36.8%	37.6%	31.3%	31.2%
介護する家族に対する支援	46.8%	50.9%	43.1%	48.9%
介護保険制度や区の熟年者施策に関する情報提供	28.6%	31.8%	27.4%	25.6%
申請や相談がしやすい窓口の整備	42.9%	42.1%	39.6%	33.6%
判断能力が低下した場合の支援や熟年者の人権擁護	28.2%	29.1%	28.9%	25.7%
段差解消や歩道の整備など、安全なまちづくり	29.1%	34.4%	33.1%	39.2%
その他	1.6%	1.1%	0.7%	2.8%
特にない	3.8%	5.1%	5.7%	4.9%
無回答	6.6%	8.7%	14.7%	10.8%

※網掛けは各調査の上位3項目